

杉並区立小中学校  
P T A 活動セミナー2022  
記録集

もくじ

日時	対象	講師	ページ
5月23日(月) (午後)			
13:30~15:00	小学校文化委員・中学校成人教育委員	生重 幸恵	2
5月24日(火) (午前)			
10:00~11:30	小学校、中学校学級委員	四柳 千夏子	7
10:00~11:30	小学校、中学校広報委員	手塚 佳代子	12
5月24日(火) (午後)			
13:30~15:00	テーマ研修(兼選考委員) ~PTA活動を楽しむために~	星 義克	17
13:30~15:00	小学校、中学校書記担当役員	手塚 佳代子	22
5月25日(水) (午前)			
10:00~11:30	小学校、中学校会長・副会長	川島 高之	27
10:00~11:30	小学校地域委員	武田 信彦	32
5月25日(水) (午後)			
13:30~15:00	小学校、中学校会計担当役員	井上 尚子	38
13:30~15:00	中学校地域委員	武田 信彦	44

新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオンラインで開催実施(一部会場聴講)

主催 杉並区教育委員会

協力 杉並区立小学校 PTA 連合協議会

杉並区立中学校 PTA 協議会

運営 特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク

セミナー名	小学校文化委員・中学校成人教育委員
日にち	5月23日(月) 13:30~15:00
場所	杉並区役所分庁舎 4階会議室
参加人数	Zoom 参加者 22人、会場聴講者 0人
講師	特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク 理事長 生重 幸恵氏

---

●●● 内容 ●●●

---

成人教育委員会、文化委員会はコロナ禍の中ではあるが、子どもたちのためになる楽しいことを実施していくことが大切になると考えている。

まず初めに、成人教育委員会、文化委員会は何をするとところなのか、そこからお話をしていきたい。自身が会長時代は、今までやってきたことを必要かどうか見直して、必要がないのであれば「辞めても良い」と伝えてきた。「勉強になる」「楽しい」などのついでにいきいたいイベントを残してほしいという話をしてきた。

杉並区 PTA ハンドブックには、

### 成人教育委員会／文化委員会

**子どもを育てる保護者は、子育ての問題や教育上の課題などに悩むこともあります。**

**保護者同士の学びの場として、講演会、研修会、見学会、親子教室などを企画・運営していくのが主な役割です。**

#### 活動の目的

保護者の教養、見識、教育への理解を深めることを目的としています。

#### 活動の内容

会員が自ら主体的に学び、活動できることが理想です。PTA活動の目的に沿った内容を、学校とも相談しながら計画しましょう。

保護者は子育ての問題が教育上の課題など悩むことも多い、保護者同士の学びの場として講演会・研修会・見学会・親子教室などを企画運営していくのが主な役割となっている。主体的に動き、学ぶ機会をつくるのが委員会活動となる。牧歌的でのどかな活動をしている時期もあったが、リアルで学校に集まるのは難しくなっている。これからは「保護者同士の学びの場」が大事になってくると考えている。PTA 活動の目的にあった

形でのイベントをしていくことが大事になる。

杉並区でも、With コロナで色々なことを実施していこうという流れになってきている。そのような現状があるので、いま子どもたちが置かれている現状を考える機会を設けるのは有益だと考えている。Zoom などのオンライン会議システムは非常に便利で、過去は遠隔地の先生に交通費・宿泊費・謝礼を払うのは難しかった。今は、講師の時間さえ空いていれば画面越しで話を聞いてみたいという願いが叶う時代になっている。それを実現すれば、年1回でも活発な活動になるのではないかな。

テーマとして、例えばではあるが、「非認知能力」「STEAM 教育」「個別最適化の学び」などがあげられる。現代の教育の3大要素である。今小学校・中学校の学びの根幹は「社会に開かれた教育課程」である。資質・能力の要素を「何を知っているか、何ができるか」「知っていること、できることをどう使うか」「どのように社会・世界とかわりより良い人生を送るか」の3つの柱のもとに、子どもたちは学びを続けている。個別の知識・技能を最低限身に着け、思考して・判断して・表現することが重要視されている。それを活用して学びに向かう力・人間性を身に着けるように動いている。「変化の中に生きる社会的存在として、力をつける」ということが重要である。IT化が進む中で、人工知能が活用され、人手がいらなくなっていく。このまま行くと、国として成り立たなくなってしまう危機感がある。それを報じる、メディアやSNSのリテラシーも重要になる。子どもたちの心をどう育て、人を傷つけない、傷ついた時にどうするかを学ぶのは重要になる。そのような時代背景をしっかり意識して、保護者も学んでいく必要がある。

学校で学ぶ教科を認知能力と呼ぶ。評価基準をしっかり持っているものである。その反対語が「非認知能力」である。体験を通じて、体を使って、自分の感性で成功したり・失敗したり、友達と共有して、個であったり集団であったり様々な体験をしていくこと。この体験こそが「どうしてなんだろう」、「なぜなんだろう」、「わかれば面白い」という好奇心の土台になる。非認知能力を感じることで認知能力を活かしていくことが出来る。

「STEAM 教育」は現在、学校教育に根付かせようとしている。サイエンス、テクノロジー、エンジニアリング、アート、マスマティックスの頭文字を取った総称。理数系に裏打ちされて考える能力を子どもたちに身に着けてもらわないといけないといわれている。これの背景になるのは言語能力である。資料として表現でき、相手を説得するような能力も大事になる。言語能力は親子の会話、読書が大事である。言語能力を学ぶために、子どもに読み聞かせることも大事になる。繰り返し子どもたちに体験させ続けることは非認知能力にも通じる。

以上のようなことをどのように知識を得て、専門家からの講話を聴くか、大人たちが

ワクワクするような事、環境・場をどう作っていくかという事を考えていてほしい。

子どもたちは豊かな体験、色んな大人たちとの会話をするとボキャブラリーが増えていく。それは意欲につながる可能性もある。褒められた経験は得難いものである。大人が学んでいくことで、子どもを褒める材料が増えていく。自分の学校の特色って学んでみる事も良いと思う。

最も重要なキーワードは「個別最適化の学び」である。様々な個性を持つ子どもたちに一人一人にあった教育が大事であり、本来持っている力から他の特性を伸ばしていく。それを目指していこうという事である。

今まで話したような、直近の教育のキーワードを学ぶと、色々なやり方があることを知ることが出来る。どう考えるかを保護者同士で語り合ってみる。そうした、結果として先生たちを助ける事につながる可能性も秘めている。そのような学びの場を年 1 回でも作ってみるのは如何か。別に例示したものにとらわれる必要はない。

既存の活動を見直す勇気は重要。過去からの蓄積を変えるのは怖いと思うが、無理して頑張る必要はない。今、何が知りたいかが最も重要でその時々には則して行動をして欲しい。PTA の皆さんで会話することが非常に重要で、皆さんを縛り付けるものは何もない。

ブレイクアウトルームを実施していただきたい。何故、文化成人委員をやることになったか。何を見直して、何を継続していきたいか、コロナ禍でのお悩みなどを共有し、何ができると良いか等を話してください。

以下テーマに沿ってブレイクアウトルームを実施した

**\*\* ブレイクアウトルーム①(30分) \*\***

自己紹介(お一人2分ぐらいで)

- ①お名前、学校、お子さんの学年、ご自分のPTA活動歴
- ②今回、どうして文化・成人委員に手をあげたのか？
- ③文化・成人委員として決められているお仕事は何ですか？
  - ③-1 今年度、それはやれますか？あるいはやれそうですか？
  - ③-2 今年度、やれないこと、あるいはやらなくていいこと
  - ③-3 コロナ禍だからやること

ここまで話したら次の方へ

全員①～③についてお話しされたら...

情報交換テーマ(全員が話せるようお願いします)

- ④昨年度のコロナ禍、また今年度になつてのコロナ禍、ご自分のお子さんの変化、クラスの変化について

1)メモをとりながらお話しください。

2)メインルームに戻ったら発表をしていただきますので発表者を決めてください。

参加者の意見発表

- 生重先生の話と、皆様の経験を聞いて、経験したことがない事を聞いて良かった。今まで文化成人委員の仕事もわかっていなかった。保護者のつながりがなくなった中で、どうやったら違和感なくつながっていけるか考えていきたい。企画をするにあたって、過去やっていたことの復活もコロナ禍だからできることを考えてできれば、良いと思っている。
- 制服のリサイクルをしている方が多かったので、その方法を聞くことが出来た。成人教育委員としてコロナ禍で何ができるか考えて共有しあう事ができた。
- これまでの活動、現在の活動の共有をした。コロナ禍が続いたことにより引継ぎもあまりなくゼロから考えなければいけないと思っている。交流のきっかけ、情報交換ができればよいと思っている。アフターコロナはまだ早い文化成人委員としてできることを検討していきたい。
- 文化成人委員を未経験の方が多かったが、昔からやっている事で共通していたのは給食の試食会であった。昨年度でも試食会を小規模開催で開催することが出来た学校があった。参加者として試食会に参加できるのは非常に有益であった。

生重講師からのまとめ

知らない人同士でも恐れずお話をしてもらう事は非常に大事である。知らないからこそ言えることもある。他校の事例を知ることがを有益に活用してくれるととてもうれしい。

一つでも良いので、自分たちが笑顔になって楽しんで、その結果、子どもたちが楽しむ、そのような活動を少しでも進めて行って欲しい。「意外と楽しい」「活動が面白い」で分類されるが、「意外と楽しい」と思える活動を増やして行って欲しいと思う。何か自分たちが、少しでも良いので子どもたちにつながる事が出来ればよいと思っている。この度は参加をいただき誠にありがとうございました。

セミナー名	小学校、中学校学級委員
日にち	5月24日(火) 10:00~11:30
場所	杉並区役所分庁舎 3階会議室
参加人数	Zoom参加者81人、会場聴講者0人
講師	ひとまちみらい研究所 四柳 千夏子氏

---

●●● 内容 ●●●

---

今日お集りの80名以上の皆さんの1つの共通点は、今年度お子さんの学校で学級委員を頑張ろうと思ったという事。学級委員になったいきさは色々違うと思うが今日ここにお集まりの皆さんと一緒に学び合うことができ、お話ができて、この研修が終わった後に「よし！一年間頑張ろうかな」と明るく思っていたできるようにお話をしていきたいと思う。お話の後には少人数に分かれてお喋りをしてエネルギーを充電していただき、一年間活動を頑張っていたいただきたいと思う。

講師自己紹介：三鷹市在住。三鷹市で様々活動中。

肩書は色々あるがどれも子ども達の学校のPTAを務めたことがきっかけ。実はいきなり本部役員だったので学級委員の経験はないが、当時、学級委員の方がクラスの事を細々とやってくださっているのを見て、学級委員は本当に凄いなと思った。PTAを卒業後、地域や学校教育の中で色々な活動をしてきたが、私自身、PTAが基盤となっていると思う事は、四柳さんの奥さん、〇〇ちゃんのお母さんと呼ばれていたのが、PTA活動をするようになってからは、名前、フルネームで呼ばれることによって地域社会の一員になったと感じた。全ての基盤はPTA活動がスタートであり、本当に貴重な経験をさせてもらった。皆さんも学級委員というこの一年間を通して楽しくPTA活動をしながら何か学び合える仲間作りをしていただきたいと思う。

さて、親として子どもたちがしあわせであって欲しい。しあわせな社会であって欲しいと思いますよね？では、子どもたちが「しあわせ」とはどういう状態なのか。皆さん自分の子どもがしあわせな状態とはどんな状態か少し思い描いて欲しい。このところ連日ウクライナの悲惨な状況が報道され、ウクライナの子ども達が不安そうな怯えた目をしているのを見るたびに何とも重たい気持ちになるが、平和であるこ

と、普通の生活を普通に送れることが大前提として、子ども達のしあわせな状態とはどんな状態か。

例えば好きなテレビを見られる、ゲームを制限なくできる、やりたいことに夢中になれる、家族が仲良く過ごしている等、様々なしあわせな状態があると思うが、やはり子どもたちが一日の大半を過ごす学校という場所が子ども達にとって楽しい場所、行くのが待ち遠しい場所、明日になるのが楽しみで通いたくて仕方がない場所であることが子ども達にとってしあわせな状態であると言えると思う。そして、子ども達にとって通うのが楽しい、明日が待ち遠しい学校は子どもだけがしあわせなのではなく、親にとってもしあわせなことなのである。

実は私は自分の娘が高校時代に不登校を経験した。毎朝娘の行きたくないと向き合うのは闘いだった。娘も私もその期間全くハッピーではなかった。子どもが元気に楽しく学校を楽しみにしている様子をみられるというのは親にとっても喜びなのだ。そしてそれは実は地域の人達にとっても喜びなのである。自分の住む地元の学校に子ども達が元気に通っている、そして「あの学校って良い学校なんですね。」などと周りの人に言われると自分の子どもが通っていないくてもとても誇らしい気持ちになる。そして先生方は勿論子ども達のために日々頑張っているし、自分の勤めている学校の評価が高ければやりがいも増すと思う。子ども達が生き生きと元気で楽しく通える学校というのは皆がしあわせになれる、みんなが願っている学校の姿である。

子ども達の学校での生活の多くの時間を占める最も大切な場所がクラス、学級であるが、全員が仲良くとはなかなか難しくても、全員が安心して過ごせるかどうかというのはとても大切なことである。子ども達と先生、子ども達と親、子ども達同士、親と先生、親同士、それぞれの関係が良好であることがいいクラスであることにとっても大切なことだと思う。

ここに扇子の絵を示したが、真ん中を「要」と言う。担任の先生と子ども達のクラス、クラスの保護者の結節点を担っているのが学級委員だと思う。担任の先生とコミュニケーションを取りながら自分の子どものクラスがいいクラスに育っていけるよう保護者として出来る事を応援する、その要の役が学級委員である。心配りをしなければならぬことも沢山あり、よいクラス作りをするのは大変だけれども今しかできない楽しみでもあると思う。

さて、この二年間、新型コロナウイルスの影響で学校の教育活動、PTA 活動、地域活動、様々な社会生活が止まったり、変わったりした。最も大きかったのは子ども達が学校に行けない、いわゆる休校期間だったのではないだろうか。親として仕事のシフトを考えなければならないなどという大変さもあったと思うが、子ども達自身が健

康に何も悪い所はないのに、学校に行けないというのは大変なストレスだったと思う。

学校に行けない、外でも遊べない、お出かけも出来ない。面白いことが何もない。そんな時期が長く続いた。私の地域では地域団体主催のイベントをどうするかということでその当時、現役の保護者の皆さんと話し合いをしようという事になった。地域の私達は子ども達が全然学校に行けなくてすごく寂しい思いをしている、何にも面白いことがないから、せめて地域で何か子ども達が楽しめるイベントが出来ればいいと考え、保護者の皆さんも同じ考えだと思っていた。しかし、保護者の皆さんから意外な意見が出た。3か月間学校に行けなかったという期間を経験し、学校という所が子ども達にとってどれだけ大切な所かという事が分かった。だから地域や保護者が動いて学校の外でイベントをしてクラスターが発生した学校に行けなくなるという状況を作りたくないというものだった。その意見に衝撃を受けた。地域の私達が思っている以上に子ども達にはストレスがあったことを知り、保護者の皆さんからの意見ももらい本当に良かったと思った。地域の私たちの思いだけで一方的にイベントをやっていたら、保護者の皆さんからは本当はそんなイベントして欲しくなかったと思われていたのだなと思って、本当に話し合いをして良かったと思っている。

このように、やらなかった事、出来なかった事がたくさんあった。今もそうだが、その時々で学校も教育委員会も悩みながら沢山議論をし、自分たちが納得する答えを出していく以外方策はない。私の地域ではこの度久しぶりに来賓や保護者の人数制限なしの運動会を開催する。これも何度も学校とPTAで話し合いを重ねていただいたと思う。久しぶりに招待状をいただき、今から子ども達の雄姿を見るのが楽しみだ。開催を決定してくれた学校には感謝でいっぱいである。

しかしながら、できなかった事は悪い事ばかりではない。当たり前続けてきたことを見直し、本当に必要な事は何かを考えるきっかけになったのではないかとも思う。実は昨年もこのセミナーを担当した。その時は今よりもっと大変な時期であったが、子ども達のために出来る事はないかとアイデアを出し合い、工夫して前向きに取り組んでいたお話を聞いた。中学校3年生の保護者の方が、高校の校長を招いてオンライン高校説明会をPTA主催で実施したとのこと。その方のお話で印象的だったのが子どもファーストで考えたという言葉。今のこの状況の子ども達に必要なこと、今出来る事は何かを皆で工夫してアイデアを出し合ってイベントを実施していた。

PTAの仕事は、やらなければならないと考えると負担感が増してしまう。けれども子どもファーストで考えて、今必要な事、今この状況で出来る事を主体的に取り組めば負担感がなくワクワクしたものになるのではないかと思う。

これは、ある平日の午前中の近所の公園の風景の写真。子ども乗せ用の自転車が20台くらいずらりと並んでいる。何をしているかと言えば、おそらく幼稚園か保育園のお母様方が青空の下に輪になり、密にならないよう工夫して青空保護者会を行っていた。知恵を絞れば色々なことが出来るのだと知る事が出来た。今はオンラインで離れたところでも会議が可能になった。やはりオンラインでは伝わりきれないので出来ればリアルで顔を合わせて話をすることがPTA活動のメリット、醍醐味だと私は思っている。段々、リアルで会う事が出来るようになってきた。是非、皆さん保護者同士のコミュニケーションをたくさん取っていただきたいと思う。

ブレイクアウトルームで情報交換を30分程度実施

テーマ：今年1年学級委員を楽しむために。

メインルームにてどんな意見が出たかを共有。

最後に最近のPTA不要論について講師より。

PTAは任意団体の任意加入という位置づけがされており、実際にPTAに加入しないという保護者が始めている。そこまでは個人の自由なのであるが、その先、PTA会費を利用して子ども達に何かを還元する場合などはどうしたらよいのか。加入していない親の子どもには卒業記念品などをあげなくてもよいのか？という問題が出てくる。

これまでのPTAは当たり前のように皆平等という考え方であった。家庭や仕事などそれぞれ事情は違うけれど、皆平等に公平に1回は委員や係をやりましょう、ということやってきたと思う。その当たり前だった考え方が最近通用しなくなってきたと感じている。

1枚の絵を見ていただきたい。人権の領域などで見かける3人の子ども達が塀越しに野球を見ている絵である。それぞれ背の高さが違うので台を配る。左は3人の子ども達に一つずつ平等に台を配っているが、見え方に差がついている。これでは結果として平等ではない。右は台の配り方は平等ではないが、結果として同じ見え方で野球を見る事が出来ている。これが公正という考え方なのだそう。

皆さんの学校で PTA に加入しないという方がいたらどのようにしたらよいと思うか？ PTA に加入しなければ委員や係をやる義務はなくなる。では、そのお子さんに対してどのような対応をするのか。これには正解がない。

このような重い問題に差し掛かった時に、皆で話し合いをして一番いい方法を模索していくという事がこれからの PTA に求められる事ではないかと思う。困難は沢山ある。けれども子ども達のしあわせな学校生活のために保護者の皆さんが前向きに楽しく活動することが子ども達の学校が楽しい！に繋がっていくのではないかと思う。どうぞ皆さん、1 年間、子ども達と一緒に楽しんでいただきたいと思います。

セミナー名	小学校・中学校広報委員
日にち	5月24日(火) 10:00~11:30
場所	杉並区役所分庁舎 4階会議室
参加人数	Zoom参加者57人、会場聴講者0人
講師	特定非営利活動法人チューニング・フォー・ザ・フューチャー 代表理事 手塚 佳代子氏

---

●●● 内容 ●●●

---

皆様はすでに活動を開始されているかと思うので、今日は広報の目的を再確認した後、後半に向けての課題の洗い出しや、今期やってみてほしいというご提案を含めて40分程度お話をします。その後、30分前後皆様方でディスカッションをしていただき、最後に何グループか代表で発表いただくという流れで行う。

最初に簡単な自己紹介について。講師の手塚氏は高円寺出身で、元々は子どもを対象としたビジネスをしていたが、子どもを対象に何か還元できないかという思いからNPO法人を設立した。現在は杉並区関連で様々なウェブサイトやブログの記事制作に携わり、情報収集活動と発信活動を行っている。また手塚氏自身、かつては区立小中学校で書記や広報を担当した経験もある。

## 1. 広報の目的

まず広報の定義について確認してみる。Public Relations (PR)、公共的な関わりを構築するために、戦後マッカーサー元帥が考えたコミュニケーションスタイルといわれている。PTAにおいては、学校の魅力、PTA活動の魅力を伝えることが目的となる。広報誌を作ることに尽力する方が多いが、広報誌はあくまでツールの一つにすぎないことを再確認いただきたい。ほかの委員に比べて自由度が高いため、気ままに活動を行えるが、その分責任も伴う。

PTAと一口にいても、お忙しい方もいれば、初めてPTAに関わる一年生の保護者の方や、よく分からないがとりあえず加入している方、色々な方がいる。区内在住の外国籍の方も約34人に1人ほどおり、また仕事をしているお母さんも増えてきていることを念頭に置いてもらい、効率的かつ効果的な広報活動をしていただきたい。

## 2. 後半に向けての課題・改善・挑戦

活動をして数か月ではあるが、再確認できたことや疑問に思ったことが様々あると思うので、年度内に改善できるかもしれないチェックポイントを、大雑把に3つにまとめてみた。

2 後半に向けての課題・改善・挑戦
5

新委員の得意分野や考え方を反映し、後継に配慮した新しい広報活動を推進しましょう。

編集方針・企画制作	効果測定	デジタルの活用
<input type="checkbox"/> 会員の状況・情報ニーズ把握 <input type="checkbox"/> PTA活動の魅力伝える内容 <input type="checkbox"/> 読みやすい紙面づくり <input type="checkbox"/> 今期ならではの取組 <input type="checkbox"/> 広がり意識したチーム構成 <input type="checkbox"/> コンプライアンス <input type="checkbox"/> 教職員の係わり <input type="checkbox"/> 制作レギュレーション <input type="checkbox"/> 過去の手順の要不要・取捨	せっかく作った広報誌は本当に読ま 理解されているのか、読者はどんな感 想を持ったか確認し反映しましょう。 <input type="checkbox"/> 読者アンケートを回収する ための工夫・しくみ作り <input type="checkbox"/> 読者とのコミュニケーション <input type="checkbox"/> 読者アンケート結果→反映	時短・紙削減などのメリットを理解 してもらいましょう。 <input type="checkbox"/> 打合せ等のオンライン利用 <input type="checkbox"/> データのデジタル管理 <input type="checkbox"/> ウェブ解析活用 <input type="checkbox"/> セキュリティ対策

初期に可能な取り決めをし作業効率化をはかる  
自ら振り返り評価できる仕組みを作る

**TofF** 広報活動推進委員会  
コミュニケーション・フォー・フューチャー

1つ目は編集方針や企画制作、実務的にどうするかということである。2つ目はやりっぱなしにしないということで、効果測定について考えてみる。そしてコロナ禍でも進んだデジタルの活用について、もう少し進めないか探してみる。1年間しかないの、なるべく初期の時期に色々洗い出し、素朴な疑問があれば皆様に供出し、話し合ってもらいたい。

広報誌の編集方針・企画制作について。1号目は前年度から引き継いだ通り、教職員の紹介的な広報が各校多いと思うが、2号目からは考え始めてもよいと思う。広報誌を読んだ人の読後感の目指すところや、広報誌のこだわりについて共有すると同時に、皆様自身が活動をどう思っているか、活動自体にどういうイメージを持ってもらうかを考えてもらいたい。忙しいなかわざわざ読んで、共感できることや、初めて知ったことが含まれているかどうか、広報誌が読まれる理由の一つだと思うので、広報委員の視点を活かした記事や、アンケートの回収がうまくいっているようなら読者のニーズに配慮した記事を掲載する。また、先生方が関わっていない広報がまだまだ多いと感じるが、私たちの知らない情報や授業の裏側を教えてください、先生方に関わっていただくということも重要なことである。

これから2号を作るときに自由度が高まると発生する、制作レギュレーションについてお伝えする。文体を後で揃えるのは意外に厄介なので、最初から統一していたほうが見やすく、情報がはっきりとしていく。専門用語や略語を使うかの線引き、役員

の名前の敬称の有無など色々考えるところはある。一方で、文責として執筆者の名前をつけるのなら、執筆ルールをあまり決めないで、自由に書いてもいいと思う。原稿に名前があると親近感があり、名前を出しているので記事の信用にもつながる。また写真をたくさん使う学校も多いが、何の写真か分からないものを見るのもつらいので、数文字で結構なのでキャプションをつけてもらいたい。書き方のゆらぎ（漢字か仮名か）の基準については、新聞社が発行するガイドラインを参考にするとよい。

運用と活動内容について。チーム構成は、学年単位よりは学年をまたいだ方が、得られる情報や企画の選択肢が広がる。ミーティングは余裕をもって、P（保護者）だけでなくT（先生）の参加も呼び掛けてもらいたい。皆様の日ごろの働き方はそれぞれなので、委員同士で連絡する時間や方法の目安を、簡単でよいので決めておくとうい。

先割レイアウトについてご紹介する。広報誌の誌面をいくつかのスペースに割っておき、何を入れるか、文字数やサイズをあらかじめ決めて、オーバーしないように皆様に原稿を書いてもらう。そうすると、あとは出来上がった原稿をはめ込むだけなので、最後の編集作業が楽になる。またスペースが決まっていれば、デジタルが苦手な方は手書きの原稿で書いてもらうこともできるので、お役立ていただきたい。

コンプライアンスについて、PTA において特に気にしなければいけないのが、個人情報と著作権である。個人情報は児童生徒の顔写真をどう使うかが問題となるが、いきいきとした表情も使いたいとモヤモヤすることがあるかと思う。そういった時は広報委員のお子さんをモデルにするのも工夫である。ただ、広報誌なので、外部に配布されることを考慮しなければならない。学年や氏名をどこまで書く必要があるのか、自分の子どもが載せられたときにどう思うか、逆の立場になってみて考えてもらいたいと思う。

著作権は PTA 活動にはあまり関係ないと思われる方も多いかもしれないが、著作権は何の申請をしなくても、絵を描いた瞬間に発生するものである。保護者が描いたイラストも例外ではないので、誰が描いたのかを確認して、名前を載せるなどの配慮をするとよい。また著作権について知っておけば、著作物をうまく使うこともできる。現在の法律では、一般発行物は公開後 70 年経過したら自由に使用できる。作家物は没後 70 年後に著作権が切れる。なお、法律改正の関係で、保護期間が 50 年のものと 70 年のものが混在するので、詳しくは文化庁のウェブサイトなどを参照してもらおうとよい。

広報のデジタル化はどんどん進んでおり、理解も深まってきているので、色々考え

るなら今だと思う。利便性はデジタルが勝るうえ、広報誌でいえば印刷しないので余分な紙を出さないし、配布する手間も省くことができる。また、ウェブ上にデータを置き、皆様に取りに来てもらうという方式をとると、実際にどのくらいの人に読まれたかが解析できるので、アンケートの代わりに簡単な目安となる。

アナログにもいいところがあるので、併用しているところもあるかと思うが、それだとかえって二度手間なので、誰かがどこかでアナログをやめることも、PTA 活動にはそろそろ必要だと思う。なかなか度胸がいるかと思うが、アンケートを取って大々的に意見を聴取するやり方もあるし、仮に2学期デジタルのみで実験するというのもありかもしれない。失敗することも想定し、なるべく早めに、小さく失敗していただく。「すぎなみ地域コム」をはじめ、公共・民間の無料で利用できるサービスがあるので、ぜひいろいろと試してみしてほしい。

### 3. グループ懇談（オンライン）

ここで、4～5名程度のグループに分かれて、下記テーマについてディスカッションを30分程度行う。その後、いくつかのグループに発表してもらい、役立つ情報を共有できればと思う。

#### ・ブレイクアウトルームについて

- 自己紹介（一人1分程度、「学校名、お名前」）**合計5分**  
 ✓ まず初めに、誕生日を皆さんでお話頂き、早い順に自己紹介を進めてください
- 各校の「IT化でなくしたい仕事は何か」「IT化を阻害する要因は何か」「IT化して良かったこと、**注意点**」等を共有（一人4分程度）**合計20分**
- 気になる学校への質問（フリートーク）**5分**  
 ※講師よりランダムに指名し、一部チームより印象深かった話を発表して頂きます。

#### 【発表内容】

- ・以前住んでいた地域（都内）では、学校だより・学年だよりを紙ベースのほか、学校がホームページにも載せて、保護者にパスワードを発行してメールで送られるようになっていた。保護者はそれぞれ手軽な方を利用していた。
- ・各小中学校で使用しているアプリの話のなかで、「がくぷり」という配信用サービス

スや、PTA 全員に「LINE WORKS」というビジネスチャットを導入し、デジタル化のサービスを使い始めたが、紙媒体を PDF にするのみだとスマートフォンで見たとき文字が小さいなど、今後工夫の必要があると感じた。

皆様のグループを拝見するに、PTA 室の Wi-Fi が使えない、先生とメールでやり取りできないなど、前段階から課題を抱えている学校が多いようであった。また、デジタルだと転送されやすいのではないかと尻ごみをされている方が多いのではと思う。アクセス制限があれば URL が貼られても開くことができないので、PDF をネット公開する場合はパスワードが必須になるかと思う。スマートフォンの進化により、写真で簡単にアップロードできることを考えると、流出という点では紙もデジタルと同じくらい心配しなければならないといえる。

データの作成は PC で行うと思うが、見る側はスマートフォンが多数である。スマートフォンからの閲覧状況を確認し、対応できる仕組みが必要だが、多くはスマートフォンの設定など、端末側の問題であるので、スマートフォンの使い方教室をやらなければいけないかという心配もある。

先に進む＝デジタル化というわけでは必ずしもないので、皆様が使いやすい環境について、学校の事情も踏まえながら検討していただきたい。

最後に、広報委員の皆様の個性を反映できるような誌面づくりをすることで、PTA の魅力について親しみもって感じてもらえる。忙しい方が多いので、情報は濃縮して簡潔にご案内する。会員のニーズに沿って、読後感を意識して PDCA に役立てる。広報を読んだ会員の充実感が、広報委員の皆様のやりがいにつながるので、何か一つでもよいので、皆様にしかできない、新しい広報活動に挑戦してもらい、次年度の後輩に伝えてもらいたい。

セミナー名	テーマ研修 (PTA 活動を楽しむために)
日にち	5月24日(火) 13:30~15:00
場所	杉並区役所分庁舎 3階会議室
参加人数	Zoom 参加者 55 人、会場聴講者 1 人
講師	大田区立嶺町小学校 PTO 団長 星 義克氏

---

●●● 内容 ●●●

---

嶺町小学校 PTO 団長という名前だが、他校でいうと PTA の会長となります。本日は、「3本の「や」がなくなれば PTA はハッピーに！」というテーマで話して行く。

こういった PTA が参加するセミナー・研修会などは多くの方が積極的な参加というよりは消極的に出ることが多いのかもしれない。貴重な時間を割いて、折角聞いてもらうので、良い話が聞けた、今後の活動に活かそうだなと思ってもらえる話をしていきたいと思う。

まず嶺町小学校の紹介をする。大田区にある学校で、大田区は 23 区の南部にある区である。すぐ南側が多摩川を挟んで神奈川と東京の境となっている地域である。田園調布や武蔵小杉がそばにあり、高級住宅街のそばにあるが、大田区は町工場がたくさんある街で、住宅街の中で町工場が点在している。多摩川が流れており、特色ある活動をしており「思いきりあそび」を昼休みに実施したり、「多摩川活動」という川の中に入って学びの活動することをしている。

PTO という名前を名乗っているが、2012 年に改革を実施した人が会長に就任した。当初、PTA を持続可能な組織にするべきだと危機意識を持ち、PTA の仕組みを 2013 年に検討し、2014 年にお試しで PTO 活動を実施し試行錯誤しながら、正式に PTO が発足したのが 2015 年である。初代の方が 2014 年までで、私は 5 代目の団長をやっている。5 代目に声がかかったのは、改革期の 2013 年に PTA の本部役員等を歴任していた関係であった。4 年間は役職には就かずに PTO 会員であったが、昨年度から PTO 団長となった。初代団長の山本氏の著書「PTA やらなきゃだめですか？」に改革期に何をやってきたか等が載っているので、関心があれば読んでみて欲しい。

改革前の PTA はブラックな部分があった。「年度初めの沈黙の保護者会」皆 PTA を引き受けたくないの、なかなか終わらない保護者会である。「ベルマーク集め」の活動日に有休を使ってしまう。意義のある活動ではあるが、時給換算したら、なかなか難しい事がある。「古紙回収」は PTA の会員からアンケートを取ってみると、育休をして

いた人が作業日に赤ちゃんを背負いながら、作業をしたりしていた。「会議体の子連れの参加がご法度」であったり、「選考委員の精神的負担」次期役員を決める人たちの、負荷が非常に重かった。そのように、色んな PTA が悩むことを嶺町小学校でも実施していた。

このような活動を変えていかなければいけないという事で、変革をしていった。PTA は規約を見ると、似通った文章で「会員はすべて平等の権利と義務を有する」があり、「平等の義務」という違和感のある文章が残っている。GHQ の政策で学校に民主的な組織を作る要請を受け、出来たという歴史的背景がある。その際にその条文が入っていたものではないかと思われる。義務が平等になるというのは違和感のある言葉である。その条文があるため、PTA の 3 本の「や」があると考え。「やらないといけない」= 義務感、「やらされている」= 強制感、「やらない人がいる」= 不公平感の 3 本の「や」である。これが PTA を息苦しくしているのではないかと考え、これがなくなれば、PTA 活動がハッピーになるのではないかと考えた。そのため、「や」をなくすために嶺町小学校では組織や仕組みを変えていった。それが PTO である。

PTA の加入は任意であるという事を伝えることが求められている、それを嫌がる PTA 役員は多いかもしれない。PTO では活動に 3 本の「や」をなくして、やりたい人が参加すれば良いんだよという事を必ず伝えるようにしている。そのため、加入に関して前向きにとらえてくれる人が多い。活動に強制感がないのが要因だと考えている。PTO はボランティア制を実施している。

そもそもボランティアとは、一般的には「奉仕活動」と思われるかもしれない。自分の時間を犠牲にして、無償で何かをやってあげる、滅私奉公のようにとらえている人が多いのではないではないか。実は、ボランティアは本来的には滅私奉公のニュアンスはない。ボランティアの語源は「ボランタス（ラテン語）」といわれている。この言葉の意味は「自由意志、志願した・有志のもの」という意味である。昔は、徴兵された兵士に対して、自分から志願した志願兵のことをボランティアと呼んだ。そのためボランティアの本来の意味は「自発的にやりたいからやる」、「やらずにはいられない」というのが本来のボランティアの考え方である。

それをベースにして PTO の活動を実施している。PTO は皆がやりたがるような活動・仕組みを作るように運営している。自分が「やりたいから」やるだと、「義務的にやらされている事」とは違う取組になる。例えば、登下校の見守りなども、義務であると忘れてしまったり、やらない人がいる。毎日生き生きと登校する児童に触れ合うことで元気をもらえるという意味でやりたがる人たちに志願してやってもらっている。

仕組みとしてどのように変わっていったかだが、改革前は他の PTA と変わらない、

委員会制だった。6年間で1回は必ず、委員をやってくださいというような形であった。そのため、やりたくないのにしぶしぶやる人が多かった。

1年間お試して PTO をやった時は、委員会をボランティア部にしたが、人がなかなか集まらなかった。そのため現在は行事とか活動ベースでボランティアを募るようにしている。年間での活動を公開し、ジョブリストを公開し作業が見える化し、活動に参加するハードルを低くするようにしている。

何故 PTO にしたかだが、PTA に関するマイナスイメージを払拭するために検討したところ、名前ごと変えるという案がでた。アメリカでは PTA ではなく、PTO という名称であった為、候補にあがった。アメリカとは違うが、「O」は応援団の「おー！」としている。そのため応援団であれば、役職は団長・副団長なので、役職名をそのようにした。また委員会も、「ボランティアセンター（通称：ボラセン）」に変更した。社会福祉協議会の役割をイメージし、学校でお手伝い、手助けが必要な時に、それをしたい保護者と学校を結びつけるのが役割に近いだろうと考え、そのような名称とした。「行事係」も「サポーター」として、「できる人が」、「できるときに」、「できることをする」を合言葉に活動をしている。また組織は、副団長を4つに分けて（「庶務」、「安全防災」「校外」「広報」）それぞれの担当に分かれて、ボラセンを運営している。

PTO の活動は、必要のない活動を見直し、スリム化を図ったうえで「学校支援」「安全防災」「校外」を絶対に欠かしてはならない3本柱としてメインで残している。また、「広報」もある。特徴的なのは「夢プロジェクト」というもので、年間を通して継続するものではなく、保護者が子どもたちのために実施したいことを実現するためにあらかじめ予算を確保して、提案があった際に具現化していくという事をしている。

サポーター募集の方法は、子どもたちにお手紙を配って募集をしている。ここ数年でオンライン化は少しずつ進めている。HP に申込フォームを掲載し募集をしている。ボラセンのスタッフも、選択肢を工夫して意思表示をしやすくしている。単純な「やる」「やらない」ではなく、「興味がある」「(知り合いと一緒に)話だけきいてみたい」等のトーンの方たちに説明をしている。活動内容が見える化をして、手伝いをしやすい状況にするように意識をしている。

ハッピーな PTA に変わるために必要なことは「ビジョンを共有できる仲間を増やす」「学校・地域のキーパーソンの理解」「本当に必要な活動への絞り込み」「活動に参加する保護者自身が楽しむこと！」が大切だと考えている。

その後、以下内容でのブレイクアウトルームを活用したグループワークを実施。

・ブレイクアウトルームについて

- 自己紹介（一人1分程度、「学校名、お名前、役職」） **合計5分**
  - ✓ まず初めに、誕生日を皆さんでお話頂き、早い順に自己紹介を進めてください(1月→12月)
  - ✓ 自己紹介と合わせて、「今回PTAの役職を引き受けたきっかけ」をお話してください
  
- 時代背景を考えたPTA活動のこれからを考える
  - ✓ 下記テーマについて発表（一人5分程度） **合計20分**
    - 講演を聞いて参考になったこと・今後に活かそうなことのシェア
    - 講師に聞いてみたいこと
    - 今後のPTA活動で分からないこと・不安なこと・疑問に思っていること・困っていることなどの共有
  
- 気になる学校への質問（フリートーク） **合計5分**

■ 講師への質問及び回答

- 学校の中はスムーズに PTA 活動ができるようになっているが、星先生の学校が P 協の参加はどうしているか
  - ◇ 嶺町小学校では、大田区の小学校 P 協には参加をしている。そんなに P 協の活動は負担は大きくないので対応をしている。参加しているメリットは他の会長との関係が出来、困りごとの知恵を借りることが出来るなどの情報共有にあると思う。大田区は東京都の P 連、日本の P 連に加入していないので、統括は大田区の P 協だけである。
- 今年から「PTA を考える会」を発足して改革を実施している。嶺町小学校と同じようにチーム制にしていく方向性で検討している。今年1年は、意見集約をしている段階である。来年をお試しの1年にしようとしている。PTO も同じような感じか
  - ◇ 最初のころはボラセンの人数が少なかったという課題があった。現状はボラセンは 30~40 名になっている。多くの方が 2~3 年続けてくれるので、以前のことわかる人がいることで、「一緒にやるからやろう」と誘ってもらうことで、新しく来る人がやりやすい。
- 会則はがちりありますか？
  - ◇ 嶺町小学校の HP を見ていただくと載っています。また、PTA のしおりもみることが出来るので是非見てみてください。

- 規約の改定などを苦勞したと思うが、最も苦勞したことは何か
  - ◇ 規約はフレキシブルにガチガチにしないように意識した。例えば組織の人数など。自由に参加できる、自由な発想で運営できるようにした。改革直後はボラセンの人数が少なかったなので、そこは苦勞した点である。
- ボラセンの方々の引継ぎについて重視している事
  - ◇ 引継ぎについては、各チームで様々で、共有ドライブでオンラインでやっているチームもあれば、個人情報扱うので紙のところもあるので、引継ぎに明確なルールがある訳ではない。各チームがより良い形で引継ぎをしているのが現状です。コロナ禍で校外活動のイベントを実施出来ておらず知っている人が少なくなっているためそこは現状の課題点ではある。

セミナー名	小学校・中学校書記担当役員
日にち	5月24日(火) 13:30~15:00
場所	杉並区役所分庁舎 4階会議室
参加人数	Zoom参加者47人、会場聴講者0人
講師	特定非営利活動法人チューニング・フォー・ザ・フューチャー 代表理事 手塚 佳代子氏

●●● 内容 ●●●

前半 40 分程度情報提供を行った後、30 分前後皆様方でディスカッションをしていただき、最後に何グループか代表で発表いただくという流れで行う。何か一つ二つでも、皆様の活動のヒントとなることがお伝えできればと思う。

最初に簡単な自己紹介について。講師の手塚氏は高円寺出身で、元々は子どもを対象としたビジネスをしていたが、子どもを対象に何か還元できないかという思いから NPO 法人を設立した。現在は杉並区関連で様々なウェブサイトやブログの記事制作に携わり、情報収集活動と発信活動を行っている。また手塚氏自身、かつては区立小中学校で書記や広報を担当した経験もある。

## 1. 運営委員会の情報発信

まずは書記の役割の基本的な確認として、PTA ハンドブックには「総会や運営委員会、役員会の開催通知、次第、議事録のほか、活動の報告書（運営委員会だより）などを作成」と定義されている。会員の皆様に伝える、伝わる書類を作るというのがお仕事になる。今ひとつ教員の方が関わらない学校が多いが、PTA は保護者と、そして教員が社会教育の一環として連携していく、ということを考えると、書くべきことや伝えるべきことが変わってくるかと思うので、今一度先生とのつながりを意識してほしい。

今後のことを考えるときに、3 項目くらいに分けて確認や見直しを進めていただきたい。1 つは作業の効率化。お仕事を持っている会員の方が多く、核家族化により母数が減っていく状況なので、効率化していき担当分の分量を減らすということをやってもらいたい。昨年と同じでなくてもよいので、仕分けをして実務を改善していく。

2 つ目は情報到達効果について。配ったものを本当に読んでもらっているか、読んだ結果どう思ったのか、誌面を作るのではなく伝えることが目的なので、読み手に

配慮して、到達し理解されることを重視していただきたい。効果測定は、アンケートの回収率が非常に悪いという話をよく聞くので、デジタルを活用するなど工夫が必要である。

3つ目はこれからの活動スタイルについて。皆様に関わる意義が何かを考え、自分たちにしかできないことを表現してもらいたい。後任を決めるときに、書記ならやりたいという人が出てくるような書記活動にしていいただきたい。

1 運営委員会の情報発信

3

② 活動コンセプトの検討・確認

作業の効率化	情報到達効果の向上	これからの活動スタイルを意識・提案
<p>有職率上昇・核家族化など子育て中の会員の負担を軽減し、<b>本当に必要な活動を再検討し活動に反映</b>していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●記録実務の改善</li> <li>●デジタル・ネットの活用 紙媒体の削減 セキュリティ</li> <li>●自身が係わる意義・必要性</li> </ul>	<p>誌面を作ることは目的ではなく手段。情報が<b>読み手に到達し理解されることを重視</b>する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●読み手配慮 簡潔・箇条書き利用 やさしい日本語という概念 英語・漢字の見出し</li> <li>●効果測定の工夫 読み手の状況を知り反映</li> <li>●デジタル・ネットの活用</li> </ul>	<p>会員減少、多言語化、関連組織との連携・役割分担を念頭に新しいスタイルを提案。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●独自の仕組み・取り組み</li> <li>●PDCAで検証 作りっぱなしにしない</li> <li>●デジタル・ネットの活用</li> </ul>



3つの項目すべてに関わるものとして、デジタル・ネットの活用というものがある。7、8年前は議事録の全文起こしをしている学校が8割以上あったが、果たしてその議事録が読まれているのかとお尋ねすると、分からないという回答が多かった。本当に読みたい人が読めるよう備えておけば、全文起こしの必要は無いので、要録で済ませる、また見出しを箇条書きにして読みたい人はPTA室に聞きに来る形でもよい。コロナ禍なので、総会をオンライン会議で行っている学校が多いと思うが、コロナが終息したときにやめるかについて考えるときが来るので、今のうちから検討しておくとうまいかと思う。

印刷廃止の検討についても、そろそろ考えはじめなければいけない時期に来ている。デジタルと印刷物を併用すると、かえって手間が増えてしまうので、思い切ってどちらかに絞ることを考えてみるのもよい。皆様の作る書類は大概PDF化でき、慣れた方はHPの形式で文書を貼り付けることもできるので、一度動いてしまえばそれほど難しいことではない。非公開サイトで、パスワードで入って閲覧する仕組みや、PTA専用の配信アプリ、杉並区では無料で提供している「すぎなみ地域コム」があるので、紙で作らなくても済む状況にはなっているかと思う。あわせてセキュリティ学習も必要になってくるが、正しい知識事例を知り、判断力を向上させるた

めのサービスを無料で利用できるものを含め提供している組織があるので、お役立ていただければと思う。

ここで一度アナログとデジタルを比較してみる。アナログで印刷物を配布すると、印刷前の校正や締切がシビアとなる。また印刷して、仕分け、配布するという手間がかかる。デジタルにすると、印刷しないので紙を余分に使わないで済む。配布のところがメリット・デメリットがはっきりしており、紙の印刷物だと子どもが渡すのを忘れ、受け取るタイミングがまちまちになる恐れがある。一方で、読みたいところがすぐに目につくという、紙の良さもある。外部漏洩については、紙の方が安心かというところでもなく、写真に撮ってブログに載せるということも考えられるので、デジタルと同じように気を付けなければならない。デジタルの配布のメリットでは、情報到達の早さは圧倒的に優位である。コロナ禍においては、人の手に触れずに情報を送れるという側面もある。ネット上でいつでも見られるので、受信者による紛失の心配もない。活動自体の時短もできる。

今まで書類を配布、あるいはデジタルと併用している学校が多いと思うが、一回印刷物を配らない実験を試してみるのも一つの手である。小さな実証実験を1、2回行い、実際に何か不都合があるかアンケートをとり、様子を見ながら順次反映していく。1年でうまくいくケースはそうそうないので、なるべく小さく早めに失敗しておき、繰り返し改善していく。アナログ・デジタル双方の良さはあるが、併用となると手間が増えたまま、それがいつしか当たり前になってしまうので、どこかで変えていく必要がある。

そして、読み手配慮をして、なるべく情報が届きやすいようにする。皆様は個々で環境状況が異なり、PTAのベテラン相手に発行するわけではないので、言葉の選び方一つでも疎外感のないよう、分かりやすい言葉で発信してほしい。特に最近では日本語の苦手な方、外国籍の保護者の方が増えてきているので、時には翻訳サービスを活用しながら配慮してほしい。

手に取ってもらう、そして読んでもらう。この2ステップをクリアしなければならないが、関心のない方には文字ばかり書いてあっても見ないし、季節のあいさつが長いだけでもイライラし、つい後回しにされてしまう。忙しくても簡単に読めそうだと感じてもらうこと、これは読まないといけないと直感してもらうようなつくりであることが必要である。見出しと本文で強弱をつけ、見出しで重要度が分かる工夫をしていただきたい。その時の見出しの工夫として、読みたくなるように本文から心に残るキーワードを持ってくる、また「PTAの皆様」といった漠然としたものではなく、あなたに直接関係あるということが想像できる、具体的な見出しにす

ることも手である。執筆・編集の工夫としては、箇条書きにする、表・グラフを活用するなど、楽になって分かりやすいということであればどんどん取り入れてもらいたい。

独自の仕組み・取り組みについて、皆様どうしても遠慮がちであるが、「担当してよかった」と思えるように一年を終えてほしいので、遠慮はせずに意見を言い、疑問に思うことがあれば色々と試してほしい。それは次の世代の方にも活かされ、結果的には担い手不足を解消することにもつながる。「PTA をやるなら書記がいい」と言われるような活動にしてみたらどうだろうと思う。

## 2. グループ懇談（オンライン）

ここで、4～5名程度のグループに分かれて、下記テーマについてディスカッションを30分程度行う。その後、いくつかのグループに発表してもらい、役立つ情報を共有できればと思う。

### ・ブレイクアウトルームについて

- 自己紹介（一人1分程度、「学校名、お名前」）**合計5分**  
 ✓ まず初めに、誕生日を皆さんでお話頂き、早い順に自己紹介を進めてください
- 各校の「IT化でなくしたい仕事は何か」「IT化を阻害する要因は何か」「IT化して良かったこと、**注意点**」等を共有（一人4分程度）**合計20分**
- 気になる学校への質問（フリートーク）**5分**  
 ※講師よりランダムに指名し、一部チームより印象深かった話を発表して頂きます。

### 【発表内容】

・運営委員会だよりについて、一から声を起こしている学校もあれば、会長や校長・副校長先生のあいさつはあらかじめUSBに入れてもらい、それを貼り付けている学校もあれば、「マチコミ」というサービスでデータ配信を行っている学校もあった。総会の資料についても、紙でプリントアウトして配布して、承認も紙面で行う学校もあれば、Google フォーム上で資料の配布、承認を行っている学校もあった。

・PTA 室の Wi-Fi が使えないので、今は学校支援本部のものをお借りして対応して

いるが、他の学校では定額制のものを使用しているようなので、もう一度 PTA で使えないか確認してみたい。

- ・デジタル化について、一部の会員に受け入れてもらえず「マチコミ」などに登録するのを嫌がるので、数人でもそういう人がいるとなかなか進まない。

- ・「LINE WORKS」を昨年度テスト運用して、今年度から全校に会員登録を進めて経過を見ているところである。

一つだけ気にしていただきたいのが、ウェブサイトは一般的に PC よりスマートフォンからアクセスする方が多いので、皆様がアップロードしたものがスマートフォンで見やすいか、そういった面ではスマートフォンのアプリを活用して試してみることも必要となる。時には、運営委員会だよりのコラム等で、スマートフォンの上手な使い方や、基礎的な設定方法について事前に確認しながら進めていくと、もしかしたら皆様のお手間が少なくなるのではと思う。

最後に、皆様の個性やスキルを活かして、効率的に活動をしてもらえればと思う。情報を濃縮し、読者に充実した読後感を与えるために、ニーズを解析し、振り返りながら改善を試みてもらいたい。会員の充実感が、皆様のやりがいにつながるので、何か一つでもよいので新しいことに挑戦してもらい、皆様関わった証を残して、次年度の後輩に伝えてもらいたい。

セミナー名	小学校、中学校会長・副会長
日にち	5月25日(水) 10:00~11:30
場所	杉並区役所分庁舎 3階会議室
参加人数	Zoom参加者107人、会場聴講者2人
講師	特定非営利活動法人ファザーリング・ジャパン 理事 川島 高之氏

---

●●● 内容 ●●●

---

現役のPTAの皆様が非常にうらやましく私も、もう一度やってみたいと思っている。まずは自己紹介だが、1987年に総合商社に入社し、仕事人間でした。それを変えたのが子どもが生まれた時です。子育ては期間限定で、義務ではなく権利だと伝えている。子どもと共に行動していると自然と地域に出るようになった。結果、小学校中学校のPTA会長をやることとなった。地元で根差している方がPTAをすることが多い中、私のような、サラリーマンがPTA会長をするのは珍しかった。

本日は前後半に分けて話をしていく、前半は「PTAって良いものだよ」という話を軸に「やらされ感」ではなく「やりたい感」の話をしていきたい。

前提としての課題認識だが、子どもにまつわる環境は、「学校」、「家庭」、「地域」に分けられる。「学校」はともかく多忙であり、日本一ブラック職場とも言われる。このような状況になったのは、関わる人すべての責任であると考えている。「家庭」は色々な家庭があるが、過剰・過干渉が増えている。母親が孤立化している傾向もあり、偏差値に偏重している傾向がある。「地域」本来は子どもたちが地域の活動に参加し、地域の方から、叱られたり、守られたりすべきだが、関係が希薄化している。この3者が協力して一緒になって同じベクトルを向いて協力するべきだが、場合によっては対立するケースも散見される。このような状況を改善するためにPTAは大きな意義を持っていると考えている。「学校」との関係もPTAは先生たちのサポーターの役割があると考えている。PTAが「家庭」の相談窓口になったり、セミナーを実施できると良いと考えている。「地域」との関係も町会の力が弱っているため、PTAが地域を絡めたイベントを企画することにより、地域との関係構築をしていくことが大事です。PTAが潤滑油になることが大切です。

しかし、PTAの現状は、面白くない、つまらない、やらされ感、新しい企画が出ない、できない理由ばかり考える、会長のリーダーシップ欠如、積極的に参加する人が少ない、各々の都合が異なることに関する理解がない等ネガティブに語られてしまうことが多

いのが課題として考えられる。

私がPTA 会長をやった時は、「参加したい」と思うことを増やしていくことを意識した。PTA の参画の10大メリットを言い続けた、面白い企画を増やした、おやじの会のパパたちを巻き込む、楽しんでいる姿を見せ続けたり、会報誌を雑誌風にして堅苦しい文章をやめたり、活動の見返りは「子どもの笑顔」と言い続けたり、決めていくことを習慣化し（先送りを減らし）、「やらないこと」を決める、お金の使うルールを決める、会議は平日、休日、昼・夜と分散したり、運営に関することについてミスや失敗を問題ないものにする等PTA というものがポジティブな物になるように尽力してきた。

PTA 参画の10大メリットは①知人・友人が増える②視野が広がる③居場所が増える（サードプレイス）④職場での仕事の能力が高まる（多様性を身に着ける）⑤教職員と親交を深められる⑥学校教育に参画できる⑦学校に行ける⑧我が子との距離が縮まる⑨子育て・子ども教育の幅が広がる⑩そして、ともかく楽しい。これを保護者の方々に話し続けてきた。

PTA 会長時代は学校のサポーターを増やすことを考えた。保護者への情報開示を実施（先生たちの状況など）。課題点について話し合い検討をし、保護者で何ができるかを考えてきた。結果、先生たちの負担が減り、学校に参画する保護者が増え、学校に対する保護者の文句が減ったなどの効果があった。

では、ここから、1回目のグループワークを実施頂ければと思います。  
以下内容でブレイクアウトルームを活用したグループワークを実施。

### グループワーク「PTAの課題と解決」

あなたが所属しているPTAの、

大きな課題は何ですか？

解決するためにどんなことをやっていますか？

⇒グループ内で発表し合ってください。

## ■ 参加者からの発表

- 意見として出てきたのは執行部などの選考が非常に難しいというはなしです。小規模校であると役員を選ぶのが難しい。やったことがなくて、ただ面倒くさそうだという思いが先行してしまっているような気がする。お父さんが広報委員をやった時にガラッと広報誌が変わったりしたという話もあるので、逸材はいるはずなのですが。
  - ◇ 講師からのコメント：紹介した 10 大メリットを活用したりしてメリットを伝え続ける雰囲気を作ることも大事。ボランティアはすべてそうだと思う。やりたいと思うからやることである。難しいと思うがそのような雰囲気を醸成していければよいとおもう。
- 選考委員の話、非会員への連絡などの話が出ていた。ペーパーレスを進めているが、会員ですら登録をしてくれない。メール配信サービスを学校が許容するかも肝要になっている。学校と PTA の距離感を感じるが多かった。この距離感は過去からの歴史的背景等が要因になっているのではないだろうか。
  - ◇ 講師からのコメント：ものすごく先生たちは多忙であるため、先生たちのサポーターになって先生の仕事を減らしていけば、距離感というのは改善していくのではないのでしょうか。それは PTA だけでは重たい作業になるかもしれないので、PTA の OB、OG も活用し地域と連携していくと良いと考えます。

後半は、PTA において人を動かしていくことについて、リーダーとして心掛けてきたこととお話していく。

まず、私自身の大失敗からお話していきます。最初は小学校の副会長で様子を見てきた。従来の PTA はウェットで丁寧、過去の経緯を重視する傾向がある。職場ではドライ、合理的効率的が求められる。当初、その真ん中を目指し活動をしたが、他の保護者から総スカンをうけました。過去の経緯を軽視することはまかり通らないという感じだった。それを受け、少しずつ意見交換・事実説明をし、合意形成を取り付け、少しずつ改革をしていった。スクラップアンドビルドを進めていった。

大失敗から始まった PTA 会長職であったが、その経験が自身のマネジメントスキルの向上につながった。その経験を少し共有していきたいと思います。キーワードは「ワクワク」です。「ワクワク」すると委員は動くと考えています。人が動くエゴグラム「5つの領域」の中で、日本人は「活発力」が弱いと言われています。とにかく動機づけに「ワクワク」を意識して行動をしていくことが大切だと考えています。

仕事は委員を信じて、どんどん任せるようにしていった。最後の責任の所在は会長であると明確にして、委員で決めていくことを促していった。相談を受けた際は原則 yes で返すようにすると様々な提案が出てくるようになるので、それを意識をした。また、期限や成果物の内容などを明確に指示するように心がけてきた。結果を第三者の声を交えてフィードバックを実施した。

イエスマンになることを求めているわけではない。無理な要請が関係者から来た際は押し返すことも重要である。委員の仕事を増やし、時間を奪うことを良しとしないことを意識する。

断捨離をして、やることを絞り込みすることを意識した。そうした結果、出てくる成果物が良質化していった。また、三カ月に1回断捨離会議を実施し、さらにブラッシュアップを進めた。

資料・書類は1/8にするように意識をした。PTAの引継ぎ書を見て驚いた経験から、必要なエッセンスを記載して、膨大な資料を作る必要はないと伝え進めてきた。また、会議・打ち合わせも1/8にするようにした。先ほど触れたが、必ず何か「決める」ことを意識した。また、決まったことと、簡単なプロセスを記載した議事録を作成してもらった。また、資料も事前配布し呼んできてくださいとお願いし、読んだ前提で会議を始めた。会議時に棒読みをすることは無駄なので断捨離をした。また、ただいだけの人は出なくてよいという事も、明確に伝えていった。遠慮なく発言できるPTAの雰囲気を作る（心理的安全性を高める）。

残り時間は、再度グループワークを実施してもらいます。

以下内容でブレイクアウトルームを活用したグループワークを実施。

### グループワーク「私のPTA宣言！」



PTAの現職在任期間中に、  
やってみたいこと、実現させたいこと  
(改革・イベント・新たな取組みなど)を

- ①考えてみて下さい(2分間)
- ②グループで発表し合ってください。

■ 参加者からの発表

- ボランティアで嫌々PTAをやったりという話が多かったので、共有したのは、通信費で数百円を配布していたが、それをやめてPTA室に好きな飲み物を置くようにし、PTA室にwifiを新たに設置し通信費がかからないようにした。
- ◇ 講師からのコメント：通信費を小銭で払うのは非常に手間なので、素晴らしい取り組みであると思います。私の時代はお茶菓子等を見直したことに通ずると思います。
- 変えていくのは1年では難しいなと思う。誰かが今の時代に合わせたPTA改革をしないといけないのかなと思っている。予算の縛りがある中で、地域の方とのすり合わせに手を焼いている。他校のPTAとの交流ができると有意義だと思う。
- ◇ 講師からのコメント：それを実現できたあとは、自身が鍛えられると思う。極端な話PTA運営は仕事より大変だと思っている。仕事に向けたトレーニングだと思って前向きに取り組んでもらえると良いと思う。

セミナー名	小学校地域委員
日にち	5月25日(水) 10:00~11:30
場所	杉並区役所分庁舎 4階会議室
参加人数	Zoom参加者25人、会場聴講者0人
講師	うさぎママのパトロール教室 主宰 武田 信彦氏

---

●●● 内容 ●●●

---

地域委員の活動テーマは広いと思うが、今日は子ども達の安全対策、防犯に特化してお話したいと思う。

講師：「市民防犯」をテーマに警察とは違う一般市民が出来る防犯を専門として発信、指導をしている。最近はコロナのため収録やオンライン配信、資料提供などが多いが、本来ならば、対面でマスクをはずして子ども達同士で元気に声や体を使って練習するのが防犯には非常に効果的であるため、子ども向けのプログラムなども実施し指導している。

ここ数年、国をあげて防犯対策に取り組んでいる。警察庁のホームページからマニュアルを印刷できる。内容に関して助言など関わっているので、PTAの中で防犯について何をしたらいいかわからないという場合は一読してもらえれば明確になるのではないかと思う。

文部科学省も防犯に取り組んでいる。全国の1年生全員が手にする「たいせつないのちとあんぜん」というリーフレットで、防災、防犯、交通安全を1つにまとめたとても分かりやすい資料となっている。こちらも防犯面に関して助言を務めた。リンク先にアクセスすれば内容を見る事ができるので1年生に限らずご覧いただきたい。更に文部科学省から「登下校見守り活動ハンドブック」も発行された。今までは、警察だけが行っていたが、シニアの方、PTAの皆さんの底力も非常に効果的であるため防犯ボランティアとして位置づけさせてもらっている。

なぜ子どもの防犯対策が必要か？理由は2つある。

1つ目の理由、日本は子どもが子どもだけになりやすい環境があるということ。これがPTAの皆さんの力が必要な大きな理由。地域に子どもがいなければ子どもの見守りの発想もない。海外では13歳くらいまでは保護者が付き添いし子どもを一人にし

ないという強い自己責任論がある。しかも子どもだけにしたら危険な国も多い。これに対し、日本は自己責任論が弱く、皆で子どもを守ろう、地域の子という考えが強い。更に治安レベルが安定しているという背景があるので、子どもが一人で学校に行き、1人で帰ってくるという習慣が染みついている。これが良い悪いではなく、こういう背景であり、1年生くらいから子どもが子どもだけになりやすい環境が日本であるという事を覚えておいてもらいたい。

学童クラブの利用者が過去最多を更新し、益々子どもだけになりやすくなっている。一億総活躍時代、核家族化、少子化などの理由から家に帰っても大人がいないという環境が今後も増え、地域の中で子どもだけになる環境も増えるだろう。不審者情報があまりない、家の周りで犯罪があるなどという事を聞いたことがないからと言って安全な街とは言えないということが2つ目の理由である。

犯罪の気持ちや悪意を持つ人間がどこに現れるか分からない国も日本であるということ覚えておいていただきたい。海外などの厳しい国では子どもを狙うような危険な人物の足にGPSを付け行動監視などをしたりするが、日本ではされていない。どれだけ悪いことを考えていてもそれを出さなければどこでも自由に行動できてしまう。自由に動ける子どもがいて、自由に動ける悪いことを考える人間が出会った時、一気に犯罪のリスクが高まるということになる。これを高めないように犯罪をしにくい環境を広めるという事が大事になる。

この2点からだけでも防犯対策が必要な立派な理由になる。データだけで判断せず、しっかりと取り組んでもらいたい。

では、皆でどう取り組むか、個人でどう取り組むかを分かりやすくお話ししたい。警察庁の資料によれば、子どもが被害に遇いやすい4つのシーン（リンク先から見られる）がある。1、道路（細い路地や片側が田畑などの人通りの少ない場所）、2、駐車場・駐輪場（車中で待機するなど対象を物色しやすい）3、公園（子どもが複数人いても注意が必要。大人がいる事というのはいかに効果的であるか理解してもらいたい）4、集合住宅の共有部分を含めた自分の家の周り（自分の家の周りでは気が緩みがち）

ただし、この4つだけが答えではない。

聖域を設けないこと。すなわち危険な場所を決めつけない事が大事になる。（危険な場所を決めつけることが逆に隙を生んでしまう。）危険な場所があるのではなく、危険が生まれやすい瞬間・空白があるという考え方を覚えておいて欲しい。例えば駐車場であっても人が居れば犯罪がしにくい。逆に人が大勢

いる所でも、瞬間的に1人になりやすい場所、例えばショッピングモールのトイレなどは犯罪が生まれやすい。子どもが子どもだけになる瞬間を作らないことが大事。大人の女性も同じであるが、猥褻や付きまとい、悪質な声掛けをしようと企んでいる人間は人に見られたくない、警察に捕まりたくないという意識が強い傾向があるため、このように逆説的に表れている。

被害者になってしまった人、加害者、誰もいない環境。この3つが揃うと犯罪が生まれやすい。すなわち誰もいない環境をなくしていく事が地域の子どもの防犯には非常に重要である。子どもに護身術を教える、防犯ブザーを持たせるという事以前に大人の力で子どもが子どもだけにならない環境を広げていくことが犯罪被害を防ぐための大きな力になるという事をご理解いただきたい。

最大のポイントは、気を付けなければならない場所はひとりひとり違うということである。それぞれの生活パターンにより導き出されるものだと思う。

では、悲しい事件を起こさないためにどうやって取り組めばよいのか。一人や家庭だけの力では無理である。大人（保護者）、地域、子どもの力の3つの力が不可欠である。子どもが子どもだけにならない環境を作る事が大事だという意識を皆で共有することが大事。ほぼ唯一これができるのがPTAだと思う。防犯に限らず、子ども、地域、大人を重ね合わせられる特殊な立ち位置がPTAである。全てに対して理解をしていて、顔も分かっていないとこのような特殊な事は出来ない。警察や役所、外部の人間ではなかなか出来ないことである。

地域を繋ぎ合わせ、地域の中で気持ちを重ね合わせていくコーディネートのような力はPTAの方々しか持っていない。防犯の専門家からみても、PTAの社会的意義は非常に大きい。特にこれからバラバラになりやすい社会の中で大切なことをしっかり間違えずに皆さんに伝えていける人というのはPTAの方々しかいないと思う。やらなければいけない。ではないが、やったら凄いよ、ということ。PTAの力というのはとても大きな力であり、この1年で経験出来る事というのは一生の中でもかなり特殊であるという事を是非ご理解いただきたい。

次に防犯対策の3段階とは。

一番強い力は身近な大人の「付き添い」である。子どもを狙う犯罪は人が居たらしにくいものが多いので人がいるということが何よりの防犯。大人が一人居ることで、周りの子ども数人にも防犯バリアが効く事になるため、周りに対する防犯力にもなる。

しかし、保護者がずっと寄り添う事は不可能であるため、二番目に地域の「見守り・助

け合い」が必要でシニアの方々や防犯ボランティアの方々の力が欠かせない。笑顔で挨拶が出来る大人が子どもに健全な形で関わる姿そのものが犯罪抑止の環境を作る。自然監視という力が働き、勝手に犯罪しにくいと思わせる効果がある。犯罪する人間や不審者を探すぞ、悪そうな車を探すぞという外側に目を向けることは必要ではない。皆さんが少し PTA と分かるような服装や腕章を付け、子どもや地域の方々、内側に目を向け「こんにちは。気を付けてね。」と挨拶などの活動をするだけでよい。皆さん自身が防犯しているとか、防犯効果が生まれたと実感はなくてよい。これを間違えてしまうと住民同士が監視し合うような嫌な社会になり、怖くて防犯活動が出来なくなる。不審者メールの特徴がある人物を悪い人と決めつけ、その特徴の人を探すというような間違った防犯活動になってしまう。

地域に関わる人が増えるだけで十分防犯活動になるのである。PTA の腕章をつけて外にでるだけでも効果が発揮される。皆で行なうのがパトロールならば、個別にやっていただくのが所謂「ながら見守り」である。お買い物に行く際に自転車にプレートをつけメッセージを発信しながら、子どもが居たら挨拶する程度でも十分である。また、防犯の知識を広げる活動ということでは、セミナーの内容を一般会員の皆さんにも会報誌などで伝えることも重要な防犯になる。一般会員の皆さんにも子どもに防犯を伝えることは最強の防犯対策になるという事の気づきを柔らかい言葉で伝えていただきたい。

それでも大人の数は足りず、子どもだけになる瞬間があるので、三番目に子ども自身の「自分を守る力」が必要になる。自分を守る力とはコミュニケーション能力や観察力で、危険を察知したら自分で自分を守るスイッチを入れるようにすること。パンチや格闘技などの特殊な力を身に付ける必要はない。今ある力をどう防犯に使うかが非常に重要。周りをよく見ること、よく聞くこと。これは「だるまさんが転んだ」で練習できる。危険を察知する力と抵抗力を見せるという事。悪意や犯罪を考える人間は身体的にも心理的にも人をコントロールしようとするため、はじめからコントロールできないなと思わせることが何よりも防犯対策になる。また触られない、つかまれない距離を取るようにする。距離感を把握するためには新聞紙などを利用し、遊びを通して体験的に学べるようにする。怖がらせる必要はないので楽しく出来ればよい。また心をコントロールしようとしてくる場合もあるので、遮断する力、断る力を身に付ける。会話レベルできっぱり断る練習をすることも重要。

子どもの防犯対策なのだから子ども自身が護身術や防犯ブザーで自分を守ればいいという話ではない。見守りや助け合いの中、皆で子どもを守っていくのが防犯。これが必要であればとても冷め冷めとした社会になるので意識として気をつけてもらいたい。防犯

は孤立化を招きやすい。暴力、差別、分断などの過激な思想を入れやすく、地域や教育が作った力を簡単に壊してしまう力もある。感情先行型ではなく、情熱を持って人々を重ね合わせ、感情を重ね合わせるような冷静な目をもたなければ次世代が非常に大変なことになる。踏襲された防犯活動をやらなければいけない、ではない。ご理解さえいただければ色々な形で子ども達が子ども達だけにならない環境作りの工夫ができる。無理なく楽しく行うことが一番なので先輩方の活動に敬意を表しながらも違うと思ったらスタイルや内容は変えてもよい。ただ気持ちの部分だけは間違えないようにし、次の役員の皆様にお伝えいただきたいと思う。

アイデアとして、柔らかいデザインのプレートなども無料で提供している。自転車の前かごや、バッジにして通学時間だけ付けて歩くなどの活用をされている方々もいる。ご要望があれば学校名をいれてデータでお送りしている。

日頃から脳内トレーニングや練習をしておくといよい。例として、PTA 主催で子ども 110 番の家を巡るといイベントをした地区がある。これは助けてくれる人と、助けて欲しい人が事前に顔合わせをするいい機会であり練習でもある。また、警察への連絡も迷わずにしてよい。女性、子どもの被害に対して強化しているので PTA や保護者だけで抱え込まず心配なことがある場合には相談ダイヤル利用もできる。防犯ブザーは防犯協会が推奨している丈夫なものを最低限選ぶこと。名前や電話は記載しないこと。外に身に付ける物には個人情報に記載しないのが防犯スタンダードである。命を守るためにすぐに手の届く場所に置き、捨ててもいいような使い方をすること。

子ども達を守る活動をする学生防犯ボランティアも増えている。

大人側からの目線は大変、面倒、負担感、やってみたい、やる必要があるなど様々であるが、子ども側からの目線でみると大きく異なる。頼れる大人、助けてくれる大人がいるという価値観を子ども達に見せている、いい種まきになっていることを忘れないで活動して欲しい。

ブレイクアウトルームにて小人数に分かれて参加者同士情報共有していただいた。

(30 分程度)

- ・自己紹介
- ・現状の各校の防犯の取組みを共有
- ・余剰時間はフリートーク

最後に

子どもたちの防犯対策についてはどのような形でも続けていく事が大事である。スタイルを調整していく、やりやすいものに変えていくという話合いは皆でしていかないと、負担感だけが増えてしまい防犯活動そのものが弱まってしまうので、変えていく事は恐れずチャレンジしていただきたい。

セミナー名	小学校・中学校会計担当役員
日にち	5月25日(水) 13:30~15:00
場所	杉並区役所分庁舎 4階会議室
参加人数	Zoom参加者63人、会場参加者1人
講師	一般社団法人エス・プレイス 井上 尚子氏

---

 ●●● 内容 ●●●
 

---

井上氏はかつてPTAの会長を経験しており、昨年度までスクール・アドバイス・ネットワークの事務局長として、PTAの皆様の相談に応じていた。その経験をもとに研修資料を作成しているので、困ったときには見返していただきたいと思う。PTAは学校教育以外の教育を担う、社会教育団体として位置づけられていることを頭に入れておいていただきたい。

PTA会計の仕事として、大きく5つに分けてみる。まずは予算の実行をする、いわゆる入出金の管理をするという役割、それを、記録を取って管理することが必要となる。そして決算書を作成し、次期予算書を作成し、総会で報告する、このような一連の流れがある。

### 1. 予算の実行（入出庫管理）

予算は1年間のPTA活動を実行するための資金であるが、ここで大事なのが、PTA活動と予算は連動しているということである。時々、何をするかをまだ決めていないのに、予算案を前年度踏襲で決めているところが見受けられるが、あくまでも、この活動をするからいくら必要だ、ということが求められる。総会では、活動計画を示し活動に必要な予算を提示して、皆様に同意を得る。そのうえで、活動に合わせた入出金管理を行って、最後に決算報告をする。これが、会計役員が行うべき仕事である。

予算の執行について。各専門委員会に本部会計が費用を渡して、それを使ってもらうことになるわけだが、本部会計で一括管理をして、会計役員がその都度処理するという場合と、各委員会に一定の額を渡し、管理を任せる場合がある。支払いの煩雑さを考えると後者の方がよいかと思うが、その場合には使ってしまったから問題が起きると大変なことになるので、委員会の中に会計担当者を必ず決めてもらい、出納のルールを事前に説明することが必要になってくる。

## 2. 記録をとる

お金が動いた時には、必ず記録をとることが必要である。現金の場合は金銭出納帳、預金の引き出しや預けた場合は預金出納帳、備品の購入や管理をしていく場合は備品台帳、こういう帳簿をつけることが必要である。記録をとるということは、会計の仕事のなかで一番大切なことである。

小口現金は持っている PTA もあれば、持たずに全部預金から引き出すことで管理をしている PTA もある。もし小口現金を持っている場合は、入出金は必ず領収書などの証拠と引き換えに行う。領収書が先に取れずに仮払いをするときには、出金伝票などを利用する。そして定期的に、現金出納帳と残高が同じかどうか確認をする。そのときに、金種ごとに整理をすると便利である。

預金は、通帳で管理している PTA もあるかと思うが、それと同じものを帳簿として記載するという方法もある。どちらの方法でも構わないが、通帳の残高が常に合っているか確認する。通帳の管理者と銀行印の管理者を別に定めるなどして、入出金の際は複数人で確認できる状況を作るとよい。

備品台帳について、もし持っていない PTA があれば、どこかの時点で作っておくとよいと思う。備品とは、使用見込年数が長期にわたるもので、消耗品と異なり、一回買ったら繰り返し使うことができるものをいう。どこから備品なのかは、PTA 会計においては決まった定義はないが、各 PTA 内で定義を決めておくといよい。備品台帳に書いておくものは、何月何日に、どういう商品をいくつ購入したか、金額はいくらだったか、それから管理番号をつけておく。管理番号をつけておくと、備品を見たときに買い替えの判断材料にもなる。万が一、計画にない高額な備品を購入することが必要になった場合は、後でトラブルにならないためにも、役員会だけで処理せず、運営委員会に諮り合意を得ることをした方がよい。各委員会から余った予算で備品を購入する要望があった場合は、それが他の委員会でも使える備品かもしれないので、その委員会だけで判断せず、本部役員と相談するように周知する。

PTA の会計に関して、一番相談の事柄が多かったのが領収書の取り方である。PTA で使うものは PTA の分だけで会計して、個人の買い物と混ぜないように願います。レシートはあくまで補完的なものなので、宛先・購入元が書いてある領収書として取ってもらう。講演謝礼など個人から領収書を受け取る場合は、住所・氏名・内容を書いてもらい、できれば朱肉印で捺印してもらう。慶弔費など、領収書が発行されない場合は、会葬御礼など何かしらの書類を発行してもらい、市販の出金伝票などに明細を記載する。最近ではネット通販での購入も増えてきているが、領収書が個人名で発

行される場合もあるので注意が必要となる。宛名の変更が難しい場合は、それが PTA の経費で支出したものだとして、複数名で証明する書類を作成することで対応する。各 PTA で領収書を発行するときは、必ず控えを保存して、通し番号を記入する。もし記入を間違えても捨てずに、斜線を引いて折りたたんでおく。

銀行口座の管理について。できる限り振込みを使うと、記録が通帳に記載されるので証拠に残しやすい。支払いに関しても、面倒ではあるが一件一件引き出して、帳簿をつけるのを楽にするという方法もある。安全管理のため、通帳と印鑑は別の人が管理して、入出金するときは複数人で行くようにするとよい。カードも作らない方が危険は少なくなる。

その他、各委員会に、その年の活動費を先に仮払いする場合は、申請書と清算書を必ず作成し、それぞれ書いてもらった内容が一致しているかを確認する。こうした帳票は、最低でも 5 年以上保管する。ただし、PTA の場合は周年事業の積立金もあるので、できれば 10 年保存が望ましい。

### 3. 決算の処理

その年の会費は、PTA 会員からその年の活動のため使うということで集めているので、その年に使い切ることが原則。節約しすぎて繰越金がたくさん残っており、今や繰越金をどう清算しようか悩んでいる PTA はとても多い。活動に見合った予算を立てることも必要だが、無理な節約はしなくてよいので、予算をうまく使ってほしい。

しかしながら、特にコロナ禍で活動が制限されて、どうしても余ることもあると思う。早い時期に余りそうだとした場合、どのように対応するかを決めておくとうい。例えば、今までに対応した PTA の例として、余った金額を児童生徒に物品（鉛筆など）を購入して渡す、普段購入できない物品（防災用品など）を購入して、PTA からの貸出物品として活用してもらおう、といった方法がある。PTA からの購入物品を学校に寄付する、ということを考えがちだが、学校という公立機関が寄付を得るには一定の要件が必要になり、事務処理が大変になる。であるならば、あくまでも物品保有者は PTA とし、そこから長期貸出をする、という方法をとることをお勧めする。このような物品についても、台帳に記載し、貸与していることが分かるようにして、廃棄する際の費用も予算化しておく。

積立金は周年行事のため、また印刷機など高額な物品のためのものが多いと思うが、何のための積立金で、本当に必要なかを明確にする必要がある。例えばコロナ禍で印刷物を少なくして、メールで配信することが増えていると思うが、そういった

ときに、果たして印刷機が必要なのかという話が出てきている。ウェブ関連の費用にあてよう、といったように予算を組み替える手も出てくるので、余ったから積立金に戻すといった考え方ではなく、今どういう措置が求められているかを頭の中に入れておいてほしい。

会計監査を受けるということはドキドキするが、記載間違いがないか見つけてもらうチャンスという風に捉える。年度を閉めてから間違いを見つけて、大変な思いをしたPTAの例も多く拝見したので、年間2回くらいの機会があるとよい。通帳原本と関係書類との照合を行い、関係書類が不明な場合は、どういう入出金なのかを整理して、記載を残しておく。

#### 4. 次年度予算案の作成

正当な活動をしているにもかかわらず予算が余ってしまったとしたら、予算と活動が連動していないということなので、検証が必要となる。活動がその年だけ進められなかったという余りなのか、そのものが活動として合っていないのか、しっかりと内容を検証したうえでの会費の値上げ、値下げをお勧めする。委員会の皆様の意見を聞き、単年度で判断せず予算が余る理由を確認してから値上げ、値下げを決める。

#### 5. 総会での報告

今や年間1回の総会開催が主流になってきているのではないかと思う。そうすると、卒業していくPTA会員への報告が卒業後になるので、渡し方等に不都合が生じる。その場合、年度内に当該PTA会員には案として事前配布をしておくなどの措置を講じる必要がある。

#### 6. 最後に

お金を扱う場合に一番大事なこと、それは証拠となる書類を残すことである。面倒かもしれないが、常に書類を残すということを意識する。少しでも簡単にしておく方法を考えることも大事だが、お金の支払いは常に書類との交換、書類がない場合には金銭のやり取りはしないということを強く心にとどめてほしい。

各PTAで、会員にならないという方が増えているという現状がある。このときに、保護者が会員でない児童生徒へはPTAの発行物は渡さない、品物は渡さないとしてい

る PTA もあるかもしれない。ただ、PTA の本来の目的は、「わが子を含むすべての子どもたちが、豊かな学校生活や地域生活を送れるよう」という理念があるので、役員や運営委員会等どこかで熟慮していく必要がある。例えば、プリント物は PTA の PR にもなり見てもらいたいのので全員に渡す、という考え方もある。しかし、卒業記念品のような高価なものを渡している、というときは、会費のなかで渡すのはどうかという意見も出てくるかと思う。PTA の方針として、あらかじめ会員にならない希望のある人に知らせておく、ということも必要になる。

個人情報の保護について、平成 29 年 5 月 30 日から個人情報保護法が改正され、PTA も個人情報保護法を遵守すべき存在として位置づけられている（\*詳細は参考資料 P8 参照）。以前は学校の児童生徒名簿を借用して、そこから情報を得ていた時代もあったが、PTA という任意団体と学校は別団体なので、本人からの合意がなく情報を集めることはできないということになる。また、給食費の徴収時に、PTA 会費も一緒に引き落とししてもらうこともできない。

ここまで会計の役割、仕事のグランドルールの説明をさせていただいた。一年間大変なお仕事になると思うが、役員の皆様、運営委員の皆様とコミュニケーションを取り合って、活動を進めていっていただきたいと思う。

### 【ブレイクアウトルーム】

ここで、4～5人1組のグループとなり、下記テーマにて20分程度情報共有を行い、セミナーの最後に質疑応答の時間を設けた。

#### ・ブレイクアウトルームについて

- 自己紹介（一人1分程度、「学校名、お名前」）**合計5分**
  - ✓ まず初めに、誕生月を皆さんでお話頂き、早い順に自己紹介を進めてください
  - ✓ なぜ会計担当になったか 等
- 会計を務めるにあたって、不安なこと、会計にまつわる様々な進め方の共有
- 気になる学校への質問（フリートーク）
- 講師に聞きたいこと 等
  - ✓ **合計15分**

【質疑応答】

・積立金の口座が分かれておらず、繰越金の中に含まれていたことが判明した。積立金の項目をどう予算案に載せればよいのか。(受講者)

←まずは積立金の帳簿を別に作成しておく。本会計の予算書の下の方に積立金の欄を設けておけば、通帳が1つであっても、帳簿と決算書を見て分かる記載をしておけば大丈夫。備考欄を作り、年度ごとの内訳を記載する。(講師)

・領収書を貰うことでレシートを貰えないところもあるが、そうするとレシートの方が、詳細が分かるので良いのではという意見が出たので、確認をしたい。(受講者)

←領収書で必要なのは宛先と、いつ・どこから購入したかが明記されていることである。同時に何をいくつ買ったかという明細書が必要になるが、領収書を発行する前に、明細付きでとお願いすると、レシートと領収書を一緒に発行してもらえる店舗が多い。もしそれが難しいようであれば、レシートを貰って証明書類を作る。明細がない場合は、領収書に但し書きで記載する。まずは購入時に一声かけることで、大体はクリアできるのではないかと思う。(講師)

・口座振替で会費を徴収する方法について、今後どのように進めていけばよいか。(受講者)

←通帳の番号などを預からなければならないので、年度始めにお手紙を出して、本人に記載いただき、フィードバックを受ける。便利ではあるが、個人情報扱うところが膨大になるので、それを嫌がる会員も多い。どのような方法で対応しているか、どのような書類を作って告知をかけているかは、実際にやっている学校に聞いてみるとよい。他では、コンビニからの入金を利用するPTAもあり、手数料は発生するが、個人情報を持たなくてよいというメリットがある。(講師)

・ゆうちょダイレクトを使用するメリットについて。(受講者)

←今年度からゆうちょダイレクトを使い始めたが、集金に行かなくてよい点はあるものの、各個人でゆうちょに手続きをしてもらい、ゆうちょから学校の事務室に登録が終わったものが送られ、会計が回収してマスター登録をしていく手間がある。個人情報の取り扱いについては、登録し引き落としが終わったら用紙は溶解処分をしている。口座の変更がなければ登録は入学時の一回でよいが、毎年通知をして、都度同意を得る必要がある。(他受講者)

セミナー名	中学校地域委員
日にち	5月25日(水) 13:30~15:00
場所	杉並区役所分庁舎 4階会議室
参加人数	Zoom参加者23人、会場聴講者2人
講師	うさぎママのパトロール教室 主宰 武田 信彦氏

---

 ●●● 内容 ●●●
 

---

PTA と地域委員の方々を対象に防犯がなぜ必要なのかをお話したい。また中学生の防犯については情報がそれほど多くないので後半は中学生に絞って身を守るコツをお話していきたい。

講師：警察ではないが防犯でデビューして25年。防犯の講師を全国で行なっている。「市民防犯」をテーマに警察とは違う一般市民が出来る防犯を専門として発信、指導をしている。

警察の行う防犯と一般市民が行う防犯の一番の違い、それは市民防犯というのは犯罪や非行と直接向き合わないこと、武器や権限の行使がないことである。警察と市民防犯とが歯車として協働している、これが日本の防犯の現状である。コロナでなければ大人や小、中、大学生までも対象にした参加体験型のセミナーも行なっている。

中学生は知識も体力も身に付けていく一番大事な時期だと思っている。この時期に自分を守る大切さを改めて知って欲しいということ、パンチやキックなどの力が強ければ防犯になるという事ではないということ。暴力と防犯とは違う話であるため中学生の価値観に訴えかけるものがあると考えている。もっと正しい形で防犯を伝えていきたいと思う。

社会情勢に応じて子ども達の防犯対策というのは調整して伝えていかなければならない。特にコロナ禍では孤立化が増えたので改めて防犯を伝えた。小学生も中学生も笑顔とあいさつで子ども達の安全は守る事ができる。非常に曖昧で弱いように感じるが市民防犯にとって笑顔とあいさつは最強の道具になり得ると思っている。

この数年、国をあげて防犯への取組みが進んでいる。警察庁から「犯罪被害等防止マニュアル」が発行された。信頼度の高い情報であるため是非活用いただきたい。参考ページにリンク先が貼ってあり印刷もでき、動画もある。内容に関して助言など関わっているの、PTA の中で防犯について何をしたらいいかわからないという場合は一読し

てもらえれば明確になるのではないかと思う。

文部科学省も防犯に取り組んでいる。全国の小学1年生全員が手にする「たいせつないのちとあんぜん」というリーフレットで、多少幼く感じるだろうが、実は防犯とは年齢に関係なく同じものである。ただ表現方法や具体的な例などが異なるだけ。防災、防犯、交通安全を1つにまとめたとても分かりやすい資料で、こちらも防犯面に関して助言を務めた。リンク先にアクセスすれば内容を見る事ができるので小学生に限らずご覧いただきたい。更に文部科学省から「登下校見守り活動ハンドブック」も発行された。今までは警察だけが行っていたが、シニアの方、PTAの皆さんの底力も非常に効果的であるため防犯ボランティアとして位置づけさせてもらっている。

警察庁テキストも文部科学省ハンドブックも助言を務めさせていただいているので、更に詳しく地域連携や見守りなどの防犯の必要性について説明させていただきたい。

なぜ子どもの見守りが大切なのか？理由は2つある。

1つ目の理由、日本は子どもが子どもだけになりやすいから。地域には一人で歩いている小学生がいる、中学生になれば更に行動範囲も広がるが、年齢や個人によっては危険なものから身を守るにはまだ力が足りないという面もある。これが地域やPTAの皆さんの見守り助け合いが必要な大きな理由である。海外では13歳くらいまでは一人歩きをしないのが防犯スタンダードであるが、実は何歳になれば大丈夫ということは無い。ただ日本では一人歩きする年齢が早いということである。また、子どもだけ環境の変化は加速していて学童クラブの利用者が過去最多を更新している。学童帰りの暗い道を一人で帰る小学生などは少子化なのに増えているし、中学生同士だけになりやすい環境があるという事を踏まえておかないと、地域の防犯や見守りの継続は間違いをしてしまう可能性がある。子どもが少ないからとか、犯罪件数やデータから家の周りは犯罪がおきないからやめてしまおうなどと判断するのは非常に危険である。

2つ目の理由、残念なことに犯罪も増えている。犯罪の気持ちや悪意を持つ人間がどこに現れるか分からない国も日本であるということ。どうしても遭遇してしまう危険があるということ。海外などの厳しい国では子どもを狙うような危険な人物の足にGPSを付け行動監視などをしたりするが、日本ではされていない。どれだけ悪いことを考えていてもそれを出さなければどこでも自由に行動できてしまう。自由に動ける子どもがいて、自由に動ける悪いことを考える人間が出会った時、一気に犯罪のリスクが高まるということになる。油断は絶対にしないこと。

この2点だけでも防犯対策が必要な立派な理由になる。子どもから大人まで共通して防犯対策は欠かせない。

警察庁の資料によれば、小学生、中学生、大人の女性も含め被害に遇いやすい4つのシーン（リンク先から見られる）がある。1, 道路（細い路地や片側が田畑などの人通りの少ない場所）、2, 駐車場・駐輪場（車中で待機するなど対象を物色しやすい）3, 公園（子どもは遊びに夢中で子どもが子どもを守れないので注意が必要。冷静な目を持つ大人が必要）4, 集合住宅の共有部分を含めた自分の家の周り（自分の家の周りでは気が緩みがち）

ただし、この4つだけが答えではないので聖域を設けないこと。（危険な場所を決めつけることが逆に隙を生んでしまう。）大事なのは、危険な場所があるのではなく、危険が生まれやすい瞬間・空白があるということである。主に猥褻や付きまとい、悪質な声掛けをしようと企んでいる人間は人に見られたくない、警察に捕まりたくないという意識が強い傾向があるので、出来るだけ一人になる瞬間を作らない、子ども達が子ども達だけになりやすい環境をなくしていく事が最善の防犯対策となる。

どう取り組めばよいのか。

大人（保護者）、地域、子どもの力の3つの力が不可欠となる。この三者の力を重ね合わせられるのは唯一 PTA だけだと思う。防犯に限らず、子ども、地域、大人を重ね合わせられる特殊な立ち位置が PTA である。委員を務めているこの一年というのは人生においても非常に珍しい貴重な経験が出来る一年であるという事にお気づきいただきたい。防犯の専門家からみても PTA の社会的存在意義は非常に大きい。“やらなければいけない”ではないが、PTA の方だけがこれ出来る立ち位置におられるということ。その力をフルに発揮していただきたいと思う。

防犯対策の3段階とは。

一番強い力は身近な大人の「付き添い」である。子どもを狙う犯罪は人が居たらしにくいものが多いので人がいるということが何よりの防犯になる。しかし、保護者がずっと寄り添う事は不可能であるため、二番目に地域の「見守り・助け合い」が必要でシニアの方々や防犯ボランティアの方々の力が欠かせないのである。それでもまだ足りないが必要になるのが子ども自身の「自分を守る力」である。この順番を間違えずに皆でやるのが防犯だということを忘れないでいただきたい。

皆さんの防犯は戦わない防犯である。付き添いや玄関から見守るだけでも効果は高い。また市民防犯の強さは笑顔とあいさつ。これが犯罪抑止の環境を作る。自然監視という

力が働き、勝手に犯罪しにくいと思わせる効果がある。普通に会話しているだけでも効果は生まれるし、やり方も色々ある。皆で集まりパトロールというのは負担感があるが、「ながら見守り」と言ってそれぞれが出来る時に自転車にプレートを付けたり、腕章やバッジをつけて歩くスタイルが増えている。先輩方から受け継いでいるやり方もあるだろうが、今の保護者の皆様がやりやすいように変えていくことは何の問題もない。更に、情報の啓発。情報として一般会員の皆様に今日のような話を広げていけば関心や不安がある人には役立つ情報になる。私も見守りプレートを無料で提供している。10年以上やっているのに杉並区内でも結構広がっている。A4 カラー版を PDF でお送りしているので最近はバッジにして首から下げてパトロールの時間が終わったら取るというような使い方をしている人が増えている。関心がある方はサイトの方でご確認いただきたい。

自分で自分を守る力とは、皆がすでに身に付けているコミュニケーション能力である。観察力や想像力が大事。自分の行動がどういう結果を生むのか、そういった点からいえば、学校内外のトラブル防止という点からも中学生には伝えている。ゲームや漫画などのエンターテイメントの中で育ってきている子ども達なので悪いものはやっつけるという価値観が広がっている。ただ現実の防犯でこれをやればやった側が裁かれることになる。もしくは事件の場合でも別で扱われる。被害と加害は重なる場合があるので注意が必要。過剰な暴力は絶対に許されないし、やられたらやり返すでは犯罪になる恐れもあるので保護者の皆さんもこのような事を軽く言ってはいけない。自分を守るためのつもりで包丁を持っていたでは言い訳にならず、取り返しのつかない事になることもある。護身と犯罪とは紙一重であるということ。ここは本当に気を付けなければならない。

周りに意識を向けること、すなわち予防力は最大の護身術になる。予防力とはリスク回避をしながら先に抵抗力を見せるということ。何かされたら声出しますよ、逃げますよという、相手にコントロールさせない力を見せるようにする事が大事。だから歩きスマホはダメなのだと教えている。単に、危ないから、人に迷惑をかけるからではない。自らが持っている護身術、身を守る予防力がゼロになるなどという事は絶対にあってはいけないからである。

また、距離感を保つこと。距離感とは身体的距離と心理的距離の2つがある。特に心理的にコントロールしてこようとする場合には遮断する力、断る力が必要であるが、この練習が出来ていない子どもが多いので遮断する力を身に付ける必要がある。

防犯ブザーの効果。小学生のみならずどの年代にも一番有効なものが防犯ブザーである。なぜなら人を傷つけない道具だから。防犯と暴力は違う。防犯と称して警棒、催涙

スプレー、スタンガンを認めたら護身と称して平然と暴力を振るえる社会になり、これが加速すれば銃社会へと発展する可能性もある。なので、身に付けられる道具は限定されるべきであり、今の社会は健全と言える。

SOS・相談も護身術である。助けてと発することは恥ずかしいことではないので助けてと言えるように。またインターネットでも防犯意識を。大人が仲介する暇もなく一瞬で被害者にも加害者にもなるのがネットである。犯罪をしないだけでなく、巻き込まれないことも防犯である。自分を守る事の大切さを身に付け、巻き込まれない事が重要であることを意識させていただきたい。

広がる相談窓口、相談窓口を教えてあげるだけでも防犯になる。早く相談することが重要。

子ども達を守る活動をする学生防犯ボランティアも増えている。大人側からの目線は大変、面倒、負担感、やってみたい、やる必要があるなど様々であるが、子ども側からの目線でみると大きく異なる。頼れる大人、助けてくれる大人がいるという価値観を子ども達に見せている、いい種まきになっていることを忘れないで活動して欲しい。

ブレイクアウトルームにて小人数に分かれて参加者同士情報共有していただいた。

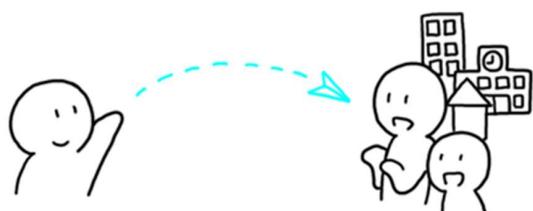
(30分程度)

- ・自己紹介
- ・現状の各校の防犯の取組みを共有
- ・余剰時間はフリートーク

最後に講師より。

マスクで挨拶がしにくい状況になっている。大人が挨拶しても小学生などは返事をしない事も多い。しかし、子ども達は無視している訳ではなく聞いている、そして知らない人に挨拶してもいいのか、戸惑い悩む子どもが多い。けれども、信頼できる大人が働きかけを続けることは子ども達との信頼の力に繋がるので、大人が挨拶をやめないという事が大事である。

# 子どもたちと共に、 学級委員として楽しい一年を過ごしませんか！



三鷹市統括スクール・コミュニティ推進員  
文部科学省 CSマイスター  
ひとまちみらい研究所 代表  
四柳 千夏子

## プロフィール



**四柳 千夏子**  
(よつやなぎ ちかこ)

ひとまちみらい研究所

三鷹市教育委員会  
統括スクール・コミュニティ  
推進員

文部科学省CSマイスター

P T A	：平成15, 16年	三鷹市立第七小学校PTAにて代表
	20, 21年	三鷹市立第四中学校PTAにて会長
	16, 20, 21年	三鷹市公立学校PTA連合会副会長
放課後子ども教室（三鷹市地域子どもクラブ）	平成16～18年	代表兼クラブコーディネーター
	19～25年	地域コーディネーター
地域活動	：青少年対策第七地区委員会副会長	
	三鷹市青少年委員協議会	
	NPO法人三鷹市民協働ネットワーク理事	
	三鷹市市民参加deまちづくり協議会副会長	
	一般社団法人みたかSCサポートネット会員	
コミュニティ・スクール	平成21, 22年	三鷹中央学園CS委員会副会長（支援部）
	23, 24, 25年	同 会長
	25年～	文部科学省CSマイスター
	令和元年～	三鷹市統括スクール・コミュニティ推進員

### < 関連記事 >

- PTAはもう不要？ 地域も一緒に学校運営「コミュニティ・スクール」でPTAの役割は(大塚玲子) - 個人 - Yahoo!ニュース
- PTA会長は「特権」でなく「代表」の意識を 保護者や地域は「校長の辛口の友人」になれるのか(大塚玲子) - 個人 - Yahoo!ニュース
- 「学校と社会をつなぐ～これからの人づくり・学校づくり・地域づくり～」(学事出版)



## 子どもたちの「しあわせ」とは？

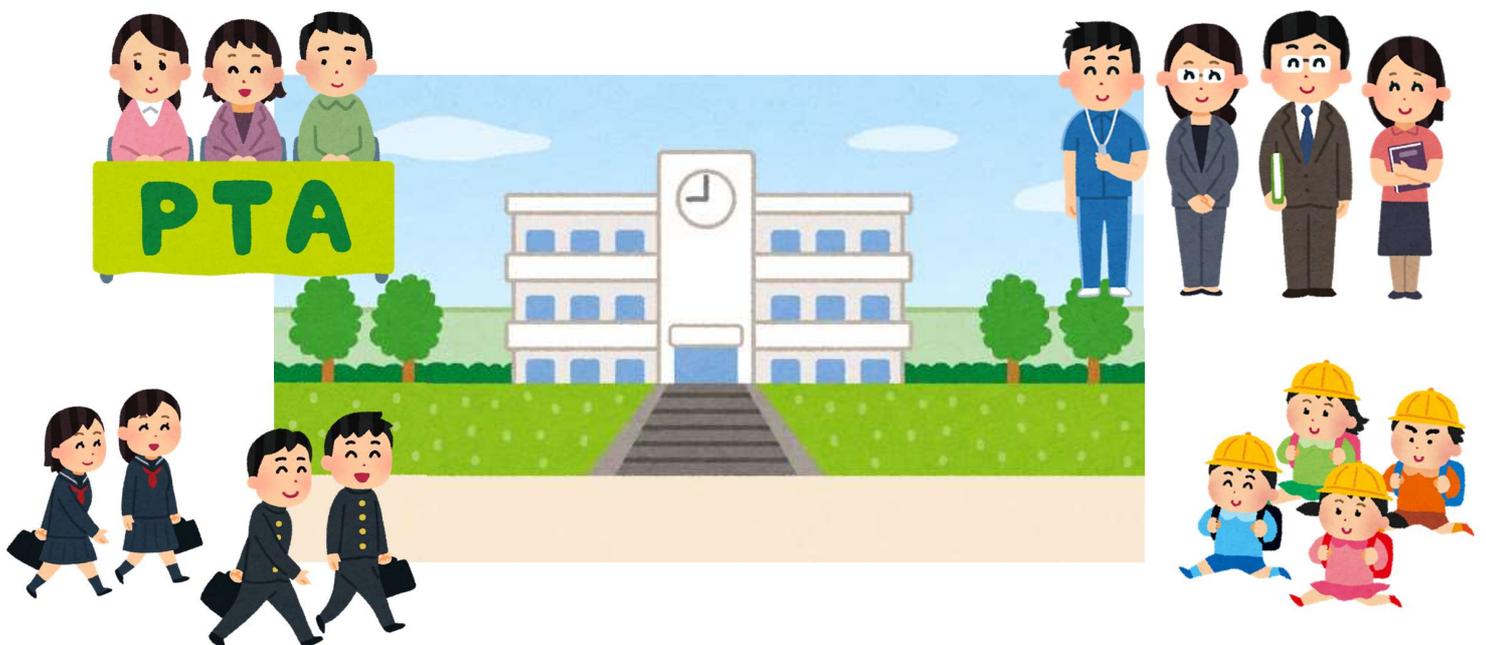
---

学校に行くのが  
「楽しい！」と思える  
こと

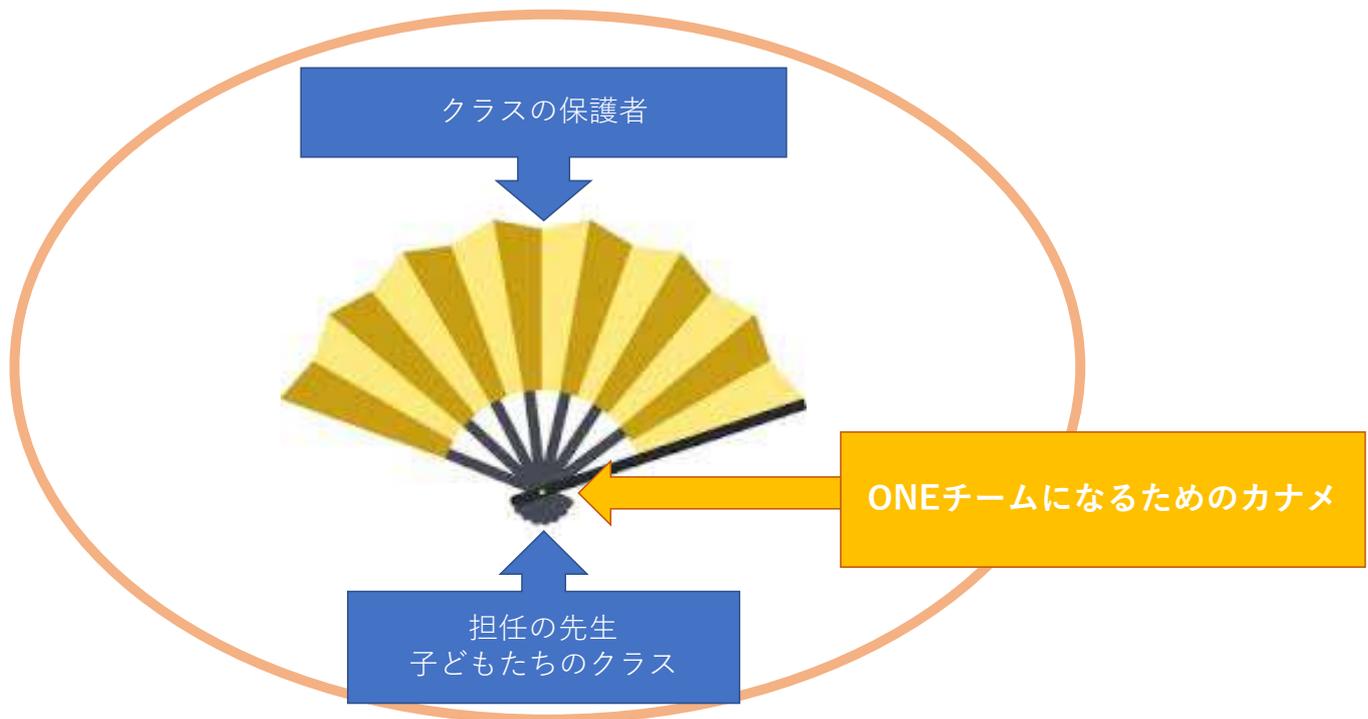
3

子どもたちにとって「楽しく通える学校」はみんなの願い

---



# 学級委員は、クラスのカナメ



## コロナ禍で見えてきたもの その1

- 「学校」という存在
- やらなかった、できなかった

## コロナ禍で見えてきたもの その2

- 本当に必要なことは何か？
- オンラインでもできるけど・・・
- やっぱり楽しい！「おしゃべり会」



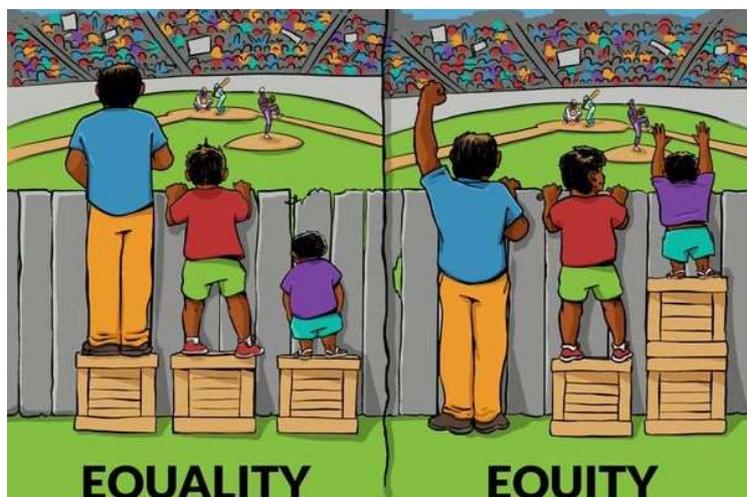
## ブレイクアウトルームで情報交換

学校、学年、お名前	委員になった経緯
どんなクラスになりたい？	どんなことをやってみたい？

# メインルームで意見の共有

- どんな意見が出たか、共有しましょう。いいアイデアはいただきちゃいましょう

みなさんはどう思いますか？



PTA任意加入問題は、平等・公平問題に…(>\_<)  
全員で考えなくてはいけない問題です。

困難はたくさんあるかも。  
でも、いつも前向きに、楽しく



子どもたちのために

PTA活動セミナー 2022

# PTA広報のブラッシュアップ

2022年5月

- 1 広報の目的
- 2 後半に向けての課題・改善・挑戦
- 3 グループ懇談(オンライン)
- 4 参考

【参考・出典・引用元】  
 (公)日本広報協会 総務省「労働力調査(基本集計)」 杉並区統計書(令和2、3年版) ウェブサイトすぎなみ学倶楽部  
 すぎなみ地域コム スギナミ・ウェブ・ミュージアム Adobe Google Analytics Google Photo

**T.F.F** 特定非営利活動法人  
 チューニング・フォー・ザ・フューチャー

コロナ禍で誕生したスギナミ・ウェブ・ミュージアム



講師: 手塚佳代子  
 NPO法人チューニング・フォー・ザ・フューチャー(TFF)代表。高円寺出身。商社やソフトウェア勤務、制作会社経営を経て2004年から、住民による地域情報発信の支援活動にプロジェクトマネージャーとして携わる。イベント・講演会、ライター講座、ご当地商品等の企画・開発運営等都内中心に区内、国外で活動。

杉並区では、杉並区基本構想審議会、学校教育コーディネータ等を経て、荻外荘懇談会、杉並郷土博物館運営委員を務める。  
 ONPO法人TFF杉並区関連の主な事業  
 「杉並区公式情報サイト「すぎなみ学倶楽部」  
 「なみすけ公式Instagram」  
 「杉並戦略的アートプロジェクト」  
 「中央線あるあるプロジェクト」  
 「スギナミ・ウェブ・ミュージアム」  
 「Experience Suginami」  
 「すぎなみ地域コム」  
 「杉並区区制90周年事業／内田秀五郎物語」等



ライター養成講座運営



海外向けウェビナープラン(UK)



マイなみすけ展(2022.5/1~) スギナミ・ウェブ・ミュージアムで開催

**T.F.F** 特定非営利活動法人  
 チューニング・フォー・ザ・フューチャー

**広報** = **Public** (公共・公然) **Relations** (交流・関わり)

**広告** = Advertising **宣伝** = Promotion

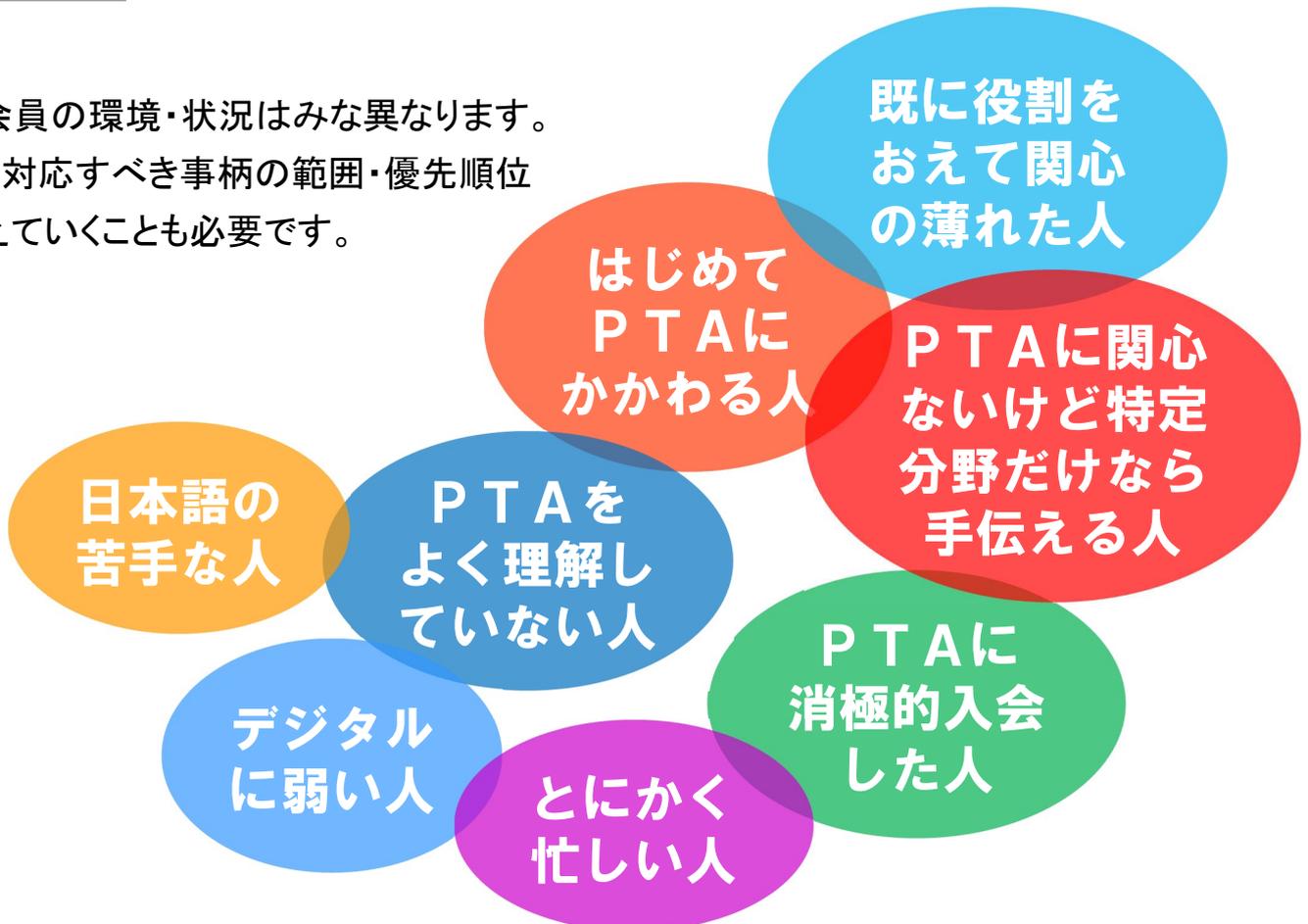
戦後占領軍が日本各地に設置したのが「パブリックリレーションズオフィス」。日本についての知識や知見を共有し、軍内のコミュニケーションを強化することを目的とした。日本における広報戦略の始まりともされている。

### PTA広報の役割は

**学校の魅力、PTA活動の魅力を伝えることが目的です。**

広報誌は、この目的を達成するためのツールです。  
企画から担当できる自由度の高さは楽しみでもありますが、  
それだけに責任をもって活動しましょう。

PTA会員の環境・状況はみな異なります。  
配慮・対応すべき事柄の範囲・優先順位  
を考えていくことも必要です。



参考: 区内外国人居住者・有業率

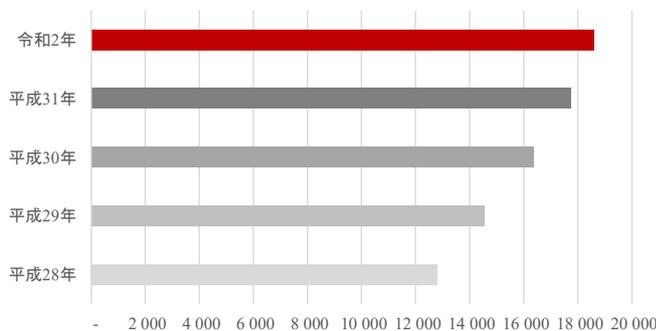
**区内居住外国人**  
**16,735人(2021)**

中国: 5,682人  
韓国: 2,491人  
ネパール: 2,127人  
ベトナム: 1,391人  
台湾: 853人  
アメリカ: 726人

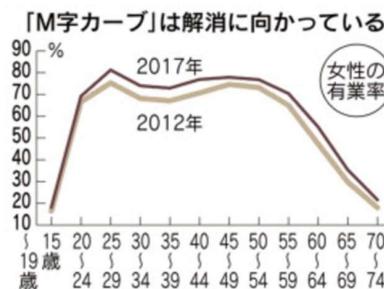
**杉並区民(573,504人)の  
約34人に一人が外国人**

杉並区統計書 令和3年(2021年)版

杉並区の外国人人口(杉並区統計書 令和2年版)



日本人女性の有業率 (出典: 就業構造基本調査)



2 後半に向けての課題・改善・挑戦

新委員の得意分野や考え方を反映し、後継に配慮した新しい広報活動を推進しましょう。

**編集方針・企画制作**

- 会員の状況・情報ニーズ把握
- PTA活動の魅力を伝える内容
- 読みやすい紙面づくり
- 今期ならではの取組
- 広がり意識したチーム構成
- コンプライアンス
- 教職員の係わり
- 制作レギュレーション
- 過去の手順の要不要・取捨

著作権  
個人情報

教員の情  
報は貴重

書き方ルールは  
最初に決める

慣習にしば  
られない

**効果測定**

- せっかく作った広報誌は本当に読ま理解されているのか、読者はどんな感想を持ったか確認し反映しましょう。
- 読者アンケートを回収するための工夫・しくみ作り
- 読者とのコミュニケーション
- 読者アンケート結果→反映

**デジタルの活用**

- 時短・紙削減などのメリットを理解してもらいましょう。
- 打合せ等のオンライン利用
- データのデジタル管理
- ウェブ解析活用
- セキュリティ対策

民間サービス活用

使ってみれば  
意外に便利

初期に可能な取り決めをし作業効率化をはかる  
自ら振り返り評価できる仕組みを作る

## ●編集方針・活動コンセプトを再確認・再検討

活動はまだ始まったばかり。編集方針等を再確認・再検討してみましょう。

- ① 当校の広報誌を読んだ人は( 例:〇〇学校が好きに )になります。
- ② 当校の広報誌のこだわりは( 例:記名で責任執筆した記事 )です。
- ③ 当校の広報委員は活動を( 例:楽しい部活動のようだ )と考えています。

## ●掲載する記事の魅力

今後の広報にはどんな記事を掲載予定ですか？ 役立ち、共感、初めて知ることは含まれていますか？

- ① 広報委員の視点を生かした( 例:家庭での教育にも役立つ内容 )です。
- ② 読者の情報ニーズに配慮した( 例:双方向記事を用意した紙面 )です。
- ③ 先生方の情報を生かした( 例:深い取材記事がウリ )です。

## ●制作レギュレーション

今期初号を制作して感じた方も多いのではないのでしょうか。レギュレーションのない学校が散見されます。

複雑詳細なものではなく最低限のルール化で作業はしやすくなります。

分野	最低限の取り決め(例)	備考
編集・制作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文体は 敬体・常体 とする</li> <li>・専門用語には注釈〇〇文字以内を添える</li> <li>・略語は不使用</li> <li>・PTA役員は 敬称不使用・役職名のみ・敬称使用</li> <li>・原稿は 記名・無記名 とする</li> <li>・写真には必ずキャプション〇〇文字以内をつける</li> <li>・レイアウトは先割(次頁参照)優先で文字数を合わせする</li> <li>・顔文字絵文字は不使用</li> </ul>	読み手目線の編集はもちろんですが、情報にあった表現方法やルール選択をし続けることも重要です。息抜きコラム、豆知識などは書きぶりを変えるのも目先が変わって良いでしょう。
運用・活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム構成は学年をまたぎ・分担は〇〇とする</li> <li>・ミーティングは各号制作開始〇〇日前に1回実施</li> <li>・ミーティングには必ずPT両者が参加する</li> <li>・委員同士の連絡は夜間〇〇時まで PCメールはフリー</li> <li>・デジタルの苦手な人はアナログ分野で協力(次頁参照)する</li> </ul>	チームは学年単位も多いようですが、多学年で組むと思わぬ視点が入り活性が向上することも。先生の参加により特ダネに遭遇することもあります。



	アナログ	デジタル
文章	× 自動文字校正が使えない	○ 便利 修正やデータ移動がラク
写真	× 高コスト	○ 低コスト → × 撮りすぎる
絵	○ 風合い・温かみ	△ 工夫と技術が必要
印刷	× 現物の配布作業が必要	○ 印刷しない選択肢あり 古紙減量
配布	× 状況により遅延・紛失がある ○ 直感的に読める △ 外部漏洩対策	○ 情報到達度の優位 ○ 人を介さない衛生性 ○ 受信者の紛失がない ○ 広報員の時短 △ 要返信対策 △ 外部漏洩対策



毎  
日  
一  
年  
間  
を  
か  
か  
り  
て

PTA広報の  
デジタルアップ

手書きや切り貼りで作った  
パーツをスキャンやスマホで  
複写して誌面に取りこんでみ  
るのも味わいがあった人気。

### ●時短・省紙・解析

すでに多くの学校で取り組んでいるデジタル化ですが、紙との併用で足踏み状態が続いています。

難しい一面もありますが、大胆に判断し可能な限り挑戦してみましょう。

アイデア1 | 印刷物無配の実証実験 → アンケート → 順次反映

アイデア2 | アンケート → 臨時総会 → 全面変更

公共提供  
CMS

杉並区が無償提供する「すぎなみ地域コム」ポータルサイトで  
発信可能。CMSの利用も申請可能

民間サービス

WIX: イベントの出欠集計から出席者名簿まで対応  
Googleフォーム等無償サービスあり

メール  
マガジン

無償配信サービス、プロバイダー、メールサーバーなどに無料・  
低価格の配信サービスあり

## オンラインディスカッション

- ・発言は一人ずつ (ZOOMでは同時発音は1名のみ)
- ・全員の発言機会の均等化に配慮
- ・気になる発言、役立つ発言はメモをとろう
- ・慣れている方は「画面共有」「チャット」なども活用

終了後いくつかのグループに発表をお願いします。

1分程度で、みなさんに知らせたい役立ちなど発表し共有ください。

## 2 後半に向けての課題・改善・挑戦

### セキュリティ

IPA(情報処理推進機構)では、自己申告型の情報セキュリティの啓発事業「セキュリティアクション」で無料チェックシートを提供している。登録完了するとセキュリティマークを名刺等に利用できる

### アクセス解析 (効果測定)

Googleが提供する解析サービス **Google Analytics** を設定したブログやウェブサイトでアクセス状況が確認でき効果測定が可能になる  
(いつ、何人が、どのページをどのくらい見たか)

ページタイトル ?	ページビュー数 ? ↓	ページ別訪問数 ?	平均ページ滞在時間 ?
	54,225 全体に対する割合: 100.00% (54,225)	42,830 全体に対する割合: 100.00% (42,830)	00:01:10 ビューの平均: 00:01:10 (0.00%)
1. 学年だより(2年).html	2,574(4.75%)	1,635(3.82%)	00:00:54
2. 広報(第92号).PDF	1,953(3.60%)	1,209(2.82%)	00:00:17
3. 広報(第90号)01.html	1,440(2.66%)	720(1.68%)	00:00:09
4. 広報(第90号)04.html	1,331(2.45%)	722(1.69%)	00:00:21
5. 運営委員会だより第178号 選管からのお知らせ.html	819(1.51%)	724(1.69%)	00:04:11
6. 学年だより(1年).html	814(1.50%)	508(1.19%)	00:00:21

解析例:

2年生の学年だよりは、2574回見られ、1回あたり54秒読まれていることが分かる。

アンネのバラが高井戸中に来た1970年代、杉並区で使われていた中学2年の国語教科書(三省堂)には『アンネの日記』が掲載されていた。1972(昭和47)年、区立泉南中学校に勤務していた小林桂三郎先生は、授業の中で生徒たちに、アンネ・フランクに寄せる手紙を書くように呼びかける。ベトナム戦争が激しい攻防を繰り返していた時代、生徒たちは自分と同時代のアンネの書いた日記に衝撃を受け、戦争や人種差別について深く考える。



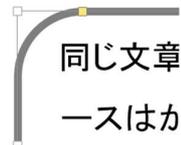
引用元:すぎなみ学倶楽部【証言集】アンネのバラ 咲かせ続ける平和の願い

- ・写真の切り抜き
- ・文字のまわりこみ
- ・ゆったりとした行間

同じ文章量なのに、スペースはすこし違います。同じ文章量なのに、スペースはすこし違います。

同じ文章量なのに、スペースはすこし違います。同じ文章量なのに、スペースはすこし違います。

▼このポイントで調整



- ・角丸の大きさを小さくする
- ・通常文章は左合わせ

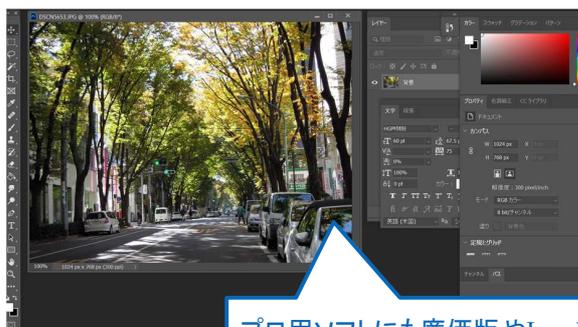
見出し向きのフォント:ゴシックや太めの明朝

本文に適したフォント:細めのゴシックや明朝体が用いられます。アンネのバラが高井戸中に来た1970年代、杉並区で使われていた中学2年の国語教科書(三省堂)には『アンネの日記』が掲載されて

- ・文字種にメリハリ
- ・3~4種のフォント種・サイズを設定



杉並区運営サイト「すぎなみ地域コム」「広報すぎなみ」(毎月1日15日発行)講座、セミナー等の情報が満載



プロ用ソフトにも廉価版やI-pad用など手軽に挑戦できるものがある画面:Photoshop

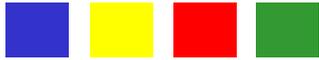


フォトストレージなどでもテキスト抽出、色加工などに対応しているものもある画面:Google photo



### Zの法則

人間の視線は 左右→上下 に動くのが一般的とされる 重要事項の掲載の参考に



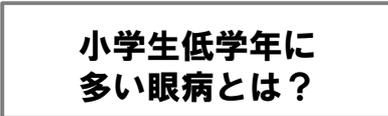
### 赤の法則

人間の視線は赤を第一にキャッチする、ことが多い 色に対する意識感覚は地域によって異なる傾向がある



### 視線・肖像の法則

同じ状況にある印刷物なら肖像(目線)のあるものを受信者は第一にキャッチすることが多い



### ダグマーの法則

興味を感じるかどうか、人間は一瞬に判断するという説

### 見出しに使える英文

要返信 MANDATORY REPLY	要提出 SUBMISSION
締切日 DEADLINE	報告 REPORT

### 過去に人気のあった企画記事

- あの著名人はわが校OB・インタビュー掲載
- 広報員しか撮れない体育祭ベストショット集
- 合唱コンの舞台裏で起きていた感動・・・
- 先生だけが知る授業の熱いはなし



まとめ

広報部員の個性を反映することで  
親しみを感じてもらおう！

情報を濃縮し  
読者に充実した読後感を！

会員のニーズ、読後感を認識・  
解析してPDCAに役立てよう！

会員の充実感は、広報部員みなさんの充実感に繋がります！  
新しい広報活動に挑戦しよいものを後輩に伝えましょう！

**お疲れさまでした！**

**何かひとつ自分たちならではの  
個性やスキルを活かした情報発信に取り組んでみましょう！**

# 3本の『や』がなくなれば PTAはハッピーに！

～嶺町小学校PTOの取り組みについて～



大田区立嶺町小学校PTO団長 星 義克

杉並区立小中学校 PTA活動セミナー2022  
2022年5月24日(火)

## 大田区立嶺町小学校について



- ▶ 町工場の点在する住宅地に立地
- ▶ 学校のすぐそばを多摩川が流れる
- ▶ 中・大規模マンションの増加により、児童数が増加中
- ▶ 児童数：880名 学級数：27学級（2022年4月現在）
- ▶ 給食の「あげパン」発祥の学校です！

## 嶺町小PTOの歴史

- ▶ 2012年度まで：どこにでもある、ごくフツウのPTAでした.....
- ▶ 2013年度：PTAの改革に向けた取り組み開始！
- ▶ 2014年度：お試しPTO（試行期間）
- ▶ 2015年度：PTO正式発足！（規約等の改定）
- ▶ 2016年度：
- ▶ 2017年度：
- ▶ 2018年度：
- ▶ 2019年度：
- ▶ 2020年度：
- ▶ 2021年度：
- ▶ 2022年度：

- ▶ 現在の団長は5代目ですが、少しずつ工夫・改善しながらボランティア制での運営を継続しています

初代団長：山本氏の著書です  
興味のある方はぜひご一読を！



## 嶺町小PTA時代のブラックないろいろ

- ▶ 年度初めの**沈黙の保護者会**
  - ▶ 各クラスの委員が決まるまで、いつまでも帰れない！
- ▶ 会社の**有休を使ってベルマーク活動に動員**
  - ▶ 時給換算約200円の作業に有休取得「お金を払うからやめさせてほしい.....」
- ▶ 小雪の降る中、**赤ちゃんを背負って古紙回収に参加**
  - ▶ 子育てしたお母さんなら、このツラさ、分かりますよね？
- ▶ 会議などに**子連れの参加はご法度**
  - ▶ PTAって、子どもたちのための組織じゃありませんでしたっけ？
- ▶ 役員のなり手不足：**推薦委員の精神的負担**
  - ▶ 電話をかけると罵声を浴びる、帰宅するまで自宅前で待ち伏せ.....



## PTAがブラックなのはなぜだろう？

- ▶ 多くの学校のPTA規約にある次の条文

第〇条 会員はすべて**平等の権利**と**義務**を有する。

- ▶ 『**平等の義務**』によってうまれる3本の『や』

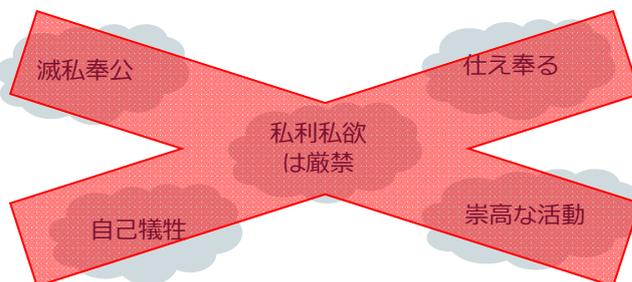
『や』らないといけない = **義務感**  
『や』らされている = **強制感**  
『や』らない人がいる = **不公平感**

**3本の「や」がなくなれば  
PTAはハッピーになる！**

**入会を拒否する人もゼロ！**

## そもそも「ボランティア」って何？

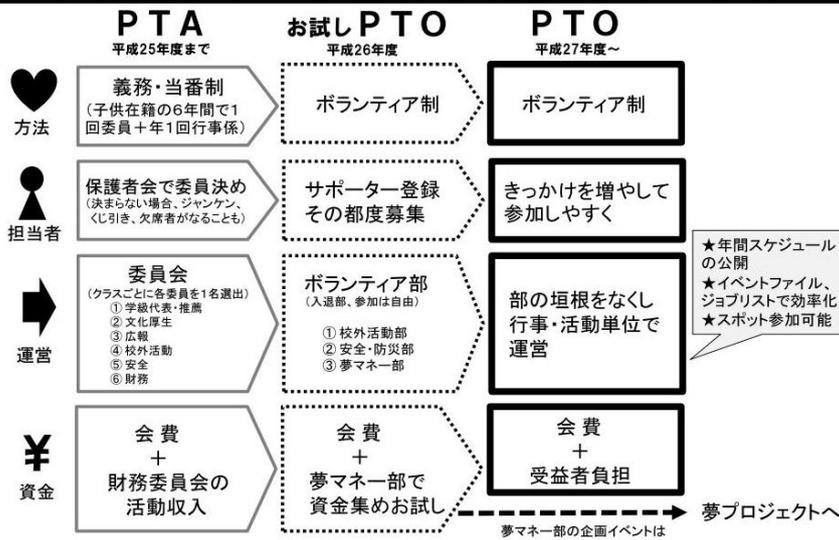
- ▶ ボランティアの一般的な日本語訳 → 「奉仕活動」「慈善活動」「無償奉仕」



- ▶ ラテン語 voluntus が語源
- ▶ 本来の意味は「自由意思」「志願者」「有志者」
- ▶ 自発的に「やりたいからやる」のが、**本来のボランティア！**

## 完全ボランティア制のPTOへ！

### 嶺町小 子供を支える組織の昔・今・未来



## 名称も工夫してマイナスイメージを払拭！

- ▶ PTA (Parent-Teacher Association) → PTO (Parent Teacher Organization)
  - ▶ PTOの「O」は、応援団の「おー！」
- ▶ PTA会長・副会長 → PTO団長・副団長
- ▶ 役員会 → ボランティアセンター (通称ボラセン)
- ▶ 行事係 → サポーター



合言葉は  
できるひとが  
できるときに  
できることを

## 嶺小PTOの年間活動内容

### ▶ 学校支援

- ▶ 入学式・卒業式・運動会サポート、いきものがかり（夏・冬・春休み）

### ▶ 安全防災

- ▶ 登校時の見守り、通学路のウマ出し、地域防災訓練参加

### ▶ 校外活動

- ▶ 町会・青少対等の地域主催行事のお手伝い

### ▶ 広報

- ▶ 広報紙発行、メールマガジン発行、WEBサイトの管理運営

### ▶ 夢プロジェクト

- ▶ 保護者が子どもたちのためにやりたい活動を実現！
- ▶ 例：ベルマーク、学校に泊まろう、逃走中、ハロウィンウォーク、クイズラリー、...

### ▶ サークル活動

- ▶ 読み聞かせの会、コーラス、バレーボール、パパさんず（おやじの会）



## サポーター募集の方法

- ▶ お手紙を配布して募集を告知
- ▶ 応募はHPの申し込みフォームから
- ▶ 紙での申し込みがなくなり事務効率UP！
- ▶ メールアドレスを取得できるので、サポーターへの連絡が迅速・簡便に！
- ▶ 参加のメリットがあると応募者数UP！

家庭版  
PTO会員の皆様へ



https://www.mshocho.jp/

令和3年7月1日  
大田区立嶺町小学校  
PTO団長 星 義克  
ボランティアセンター庶務



**親子一緒に**

### 夏休みいきものがかり募集

嶺町小学校では、カメを3匹・ウサギを1匹飼育しています。  
夏休み中にこの生き物たちのお世話（えさやり、そうじ）をしてくれる

**親子サポーターを募集します！**

期間：7月22日(木)～8月31日(火)  
作業時間：30分～1時間程度

このサポーターは親子で行うお手伝いで、低学年の子も参加できます。  
未就学児の兄弟姉妹は、保護者のもと安全に十分に注意してください。

**保護者同伴でできる方を募集します。お申し込みは、  
うさぎを抱えてしっかり持てる方、かめやうさぎを好きな方にお願います。**

■サポーター希望の方は右のQRコードより登録フォームへアクセスし、いきものがかりをできない日曜を選んで（複数日OK）お申し込みください。

■作業時間は10：00～15：00の間に登校して16：00には終了してください。

■原則1日1組の親子サポーターで作業していただきます。

■お友達と一緒に担当を希望される場合はコメント欄に“〇年〇組〇〇さんと一緒にサポーター希望”と入力してください。

■申し込み後に変更したい場合は、最初から登録し直してください。



登録はこちらから！

**申し込み締め切り 7月11日（日）**

※日程調整の関係上、締め切り後の申し込みは無効とさせていただきますので、ご注意ください。

お申込みいただいた方には、実際に作業をしていただく日程や作業方法を7月19日（月）までにメールでお知らせします。

どうぞよろしく～

お問合せ先：ボランティアセンター庶務 [mimesho.pto.shomu@gmail.com](mailto:mimesho.pto.shomu@gmail.com)



## ハッピーなPTAに変わるために必要なこと

- ▶ ビジョンを共有できる仲間を増やそう！
- ▶ 学校・地域のキーパーソンの理解
- ▶ 本当に必要な活動への絞り込み
- ▶ 活動に参加する保護者自身が楽しむこと！



できるひとが  
できるときに  
できることを！

### ご清聴ありがとうございました

- ▶ 興味のある方は、以下の記事もご参照ください！

東洋経済ONLINE『義務感、強制感ゼロ「PTAをなくした」学校の実際』(2022/1/19)  
<https://toyokeizai.net/articles/-/501165>

PTA活動セミナー2022

## 書記活動ブラッシュアップ

2021年5月

- 1 運営委員会の情報発信
- 2 グループ懇談(オンライン)
- 3 参考情報

【参考】

総務省「労働力調査(基本集計)」2018年調査 杉並区統計書(令和2年版) 日本PTA全国協議会 文部科学省

コロナ禍で誕生したスギナミ・ウェブ・ミュージアム



講師:手塚佳代子

NPO法人チューニング・フォー・ザ・フューチャー(TFF)代表。高円寺出身。商社やソフトウェア会社勤務、制作会社経営を経て2004年から、住民による地域情報発信の支援活動にプロジェクトマネージャーとして携わる。イベント・講演会、ライター講座、ご当地商品等の企画・開発運営等都内中心に区内、国外で活動。

杉並区では、杉並区基本構想審議会、学校教育コーディネータ等を経て、荻外荘懇談会、杉並郷土博物館運営委員を務める。

ONPO法人TFF杉並区関連の主な事業  
「杉並区公式情報サイト「すぎなみ学倶楽部」

「なみすけ公式Instagram」

「杉並戦略的アートプロジェクト」

「中央線あるあるプロジェクト」

「スギナミ・ウェブ・ミュージアム」

「Experience Suginami」

「すぎなみ地域コム」

「杉並区区制90周年事業/内田秀五郎物語」等



ライター養成講座運営



海外向けウェビナープラン(UK)

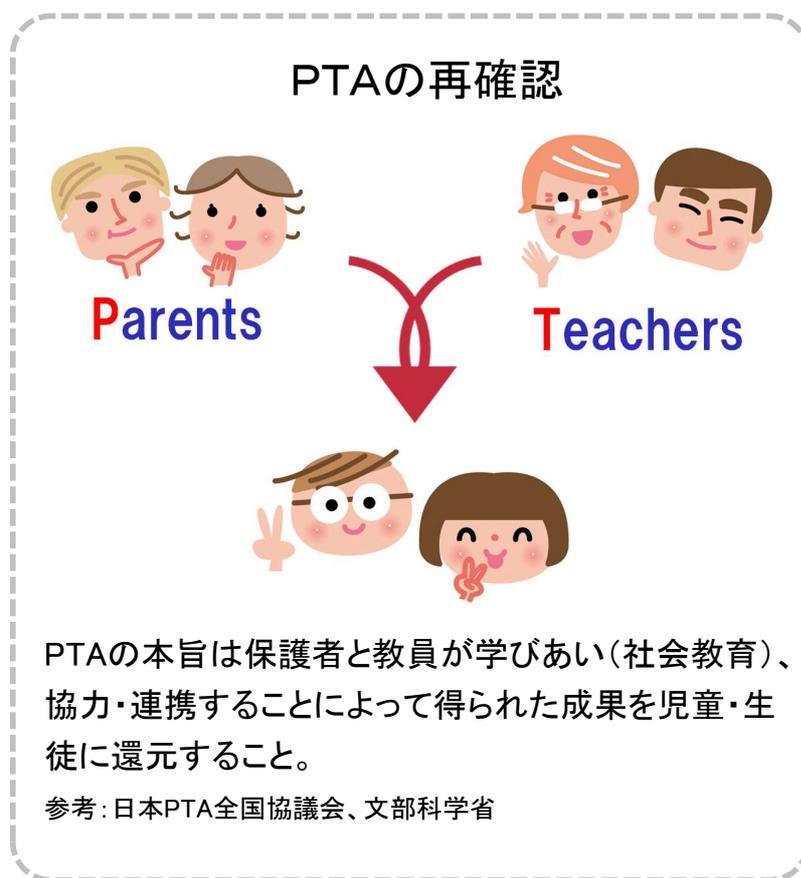
マイなみすけ展(2022.5/1~)  
スギナミ・ウェブ・ミュージアムで開催

## ① 書記(庶務)の役割

PTA活動の事務的なことのまとめ役です。「PTAハンドブック」では、具体的には、「総会や運営委員会、役員会の開催通知、次第、議事録のほか、活動の報告書(運営委員会だより)などを作成します」と定義されています。



**書記は活動の記録はもちろん  
活動への理解・協力を求める  
情報発信を担う**



## ② 活動コンセプトの検討・確認

### 作業の効率化

有職率上昇・核家族化等など子育て中の会員の負担を軽減し、**本当に必要な活動を再検討し活動に反映していく。**

- 記録実務の改善
- デジタル・ネットの活用
  - 紙媒体の削減
  - セキュリティ
- 自身が係わる意義・必要性

### 情報到達効果の向上

誌面を作ることは目的ではなく手段。情報が**読み手に到達し理解されることを重視する。**

- 読み手配慮
  - 簡潔・箇条書き利用
  - やさしい日本語という概念
  - 英語・漢字の見出し
- 効果測定 of 工夫
  - 読み手の状況を知り反映
- デジタル・ネットの活用

### これからの活動スタイルを意識・提案

会員減少、多言語化、関連組織との連携・役割分担を念頭に新しいスタイルを提案。

- 独自の仕組み・取り組み
- PDCAで検証
  - 作りっぱなしにしない
- デジタル・ネットの活用

### ③ デジタル・ネットの活用

メンバーの会議は  
オンライン活用も！

- オンライン会議(ZOOM 40分無料 録音可能 書類やりとり可能)
- SNS電話(電話番号を知らなくても無料で電話できる)
- スケジュール調整サイト

印刷廃止の検討  
デジタル化推進

併用では解決できない状況  
が続いている

- 年初に会員へのネット利用の誘導・確認
- PDF(Portable Data File/単発なら画像データ)の活用  
非公開サイトでの共有(すぎなみ地域コム/PTA用アプリ等)  
会員制メールマガジンで定期的配信が可能
- PTA関連の書類は定期配信(発行)で受信しやすく

セキュリティ学習

- 正しい知識・事例を知り判断力を向上
- 関係機関・サービスの特性を知り安全に運営
- スマートフォンでの閲覧方法の学習

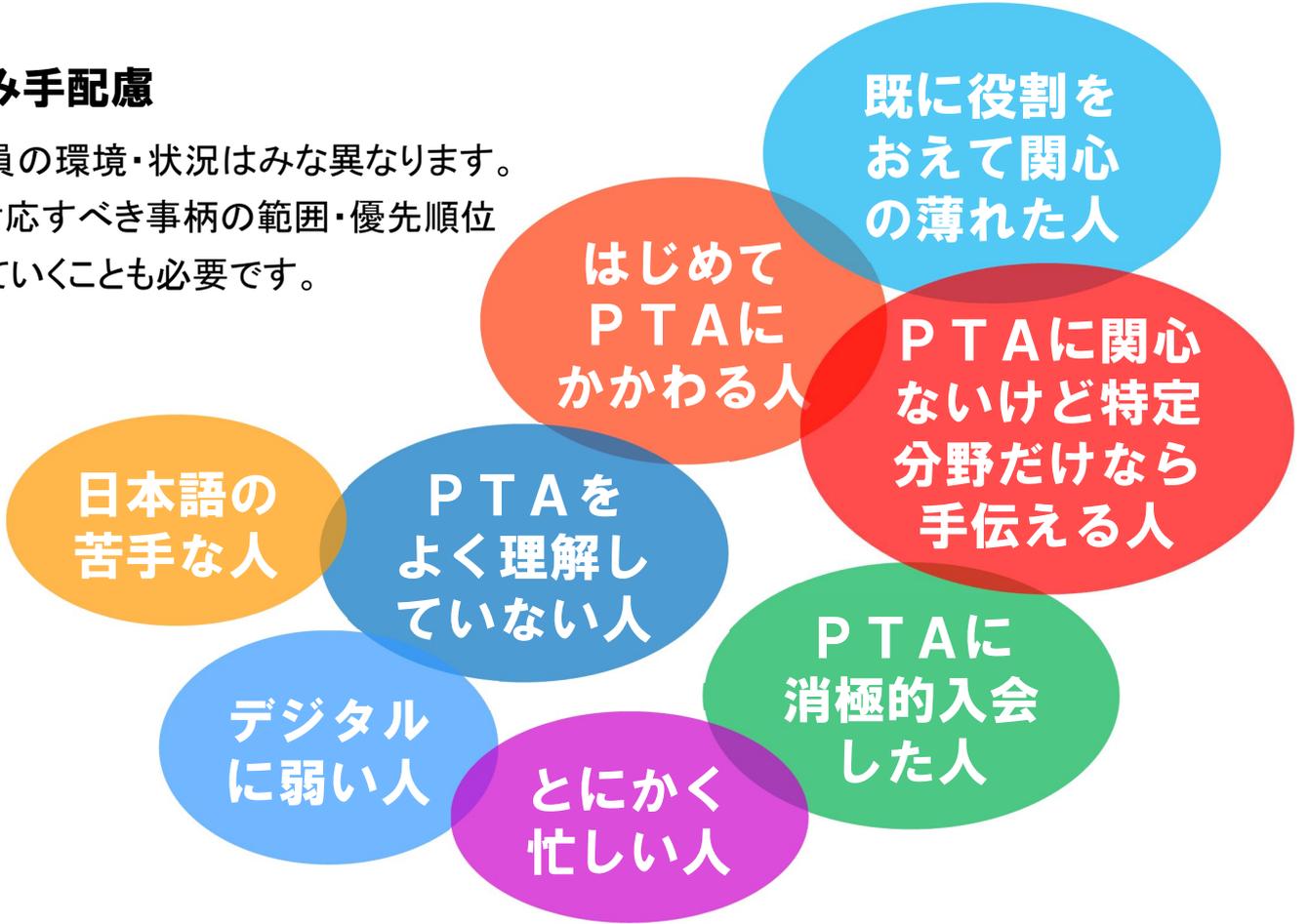
	アナログ印刷物配布	デジタルデータ配信
印刷	× 現物の配布作業が必要	○ 印刷しない選択肢あり 古紙減量
配布	× 状況により遅延・紛失がある ○ 直感的に読める △ 外部漏洩対策	○ 情報到達度の優位 ○ 人を介さない衛生性 ○ 受信者の紛失がない ○ 広報員の時短 △ 要返信対策 △ 外部漏洩対策

アイデア1 | 印刷物無配の実証実験 → アンケート → 順次反映

アイデア2 | アンケート → 臨時総会 → 全面変更

④ 読み手配慮

PTA会員の環境・状況はみな異なります。  
配慮・対応すべき事柄の範囲・優先順位  
を考えていくことも必要です。



参考: 区内外国人居住者・有業率

**区内居住外国人**

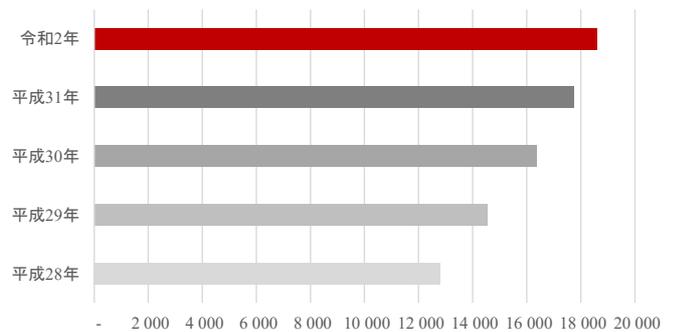
**16,735人(2021)**

- 中国: 5,682人
- 韓国: 2,491人
- ネパール: 2,127人
- ベトナム: 1,391人
- 台湾: 853人
- アメリカ: 726人

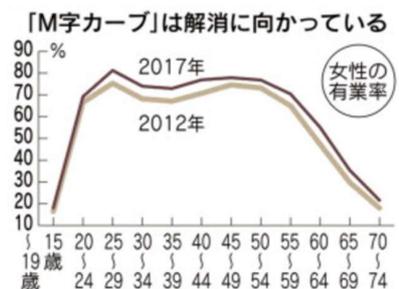
**杉並区民(573,504人)の  
約34人に一人が外国人**

杉並区統計書 令和3年(2021年)版

杉並区の外個人人口(杉並区統計書 令和2年版)



日本人女性の有業率 (出典: 就業構造基本調査)



参考:見出しに使える英文

重要 IMPORTANT	要返信 MANDATORY REPLY	集金 MONEY COLLECTION 会費: membership fee
締切日 DEADLINE	要提出 SUBMISSION	報告 REPORT
短縮時間割 CLASS SHORTENED	自宅待機 WAIT AT HOME	学級閉鎖 CANCELLATION

手に取り  
読んでもらう工夫

忙しくても簡単に読めそうと感じてもらい、読まなくてはならない重要なことが書いてあることが一目でわかる工夫を。

見出しの工夫

- 重要度が分かる工夫 **最重要** **要返信**(5/20期限) **報告**
- 魅力的な見出し 本文が読みたくなる工夫
- 記事の多いときはナンバリングで把握しやすくする

執筆・編集の工夫



- 季節のあいさつ文等の短縮やカット
- 一文を短く 適度な改行
- 経験者にしかわからないPTA用語・略語は使わない(疎外感の排除)
- 読みやすい文字サイズ・フォント・行間隔
- 適所では箇条書きを使用
- 会員本人が該当するかわかりやすいよう文中の学年など強調
- 可能な場合は、表・グラフを活用し文字説明を削減

## ⑤ 独自の仕組み・取り組み

「なんで私がやらなくてはならないの？」 → 「担当してよかった」と感じるPTAを。

### 新しいPTA

- 課題改善を繰り返す
  - ・これまでの慣習で不要と思えるものの判断
  - ・ほかの学校関連組織と重複した不要な取り組みの確認中断
- 新しい仕組み
  - ・デジタル、ネットをうまく活用

### 担い手不足を解消する取り組み

- PTAの意義、やりがいは正しく伝わっているか
- 人材は適材適所か
- ゆるやかなネットワーク化・サポーター制を取り入れているか
- 活動に直接関係のない負担を増やしていないか

## 2 グループ懇談(オンライン)

### オンラインディスカッション

- ・発言は一人ずつ（ZOOMでは同時発音は1名のみ）
- ・全員の発言機会の均等化に配慮
- ・気になる発言、役立つ発言はメモをとろう
- ・慣れている方は「画面共有」「チャット」なども活用

終了後いくつかのグループに発表をお願いします。

1分程度で、みなさんに知らせたい役立ちなど発表し共有ください。

知ることによって想像しやすくなるリスク → 日常にも役立つ

セキュリティアクション  
IPA(情報処理推進機構)

- ・自己申告型の情報セキュリティ学習システム。
- ・無料チェックシートで各自がセキュリティチェック&自己採点
- ・自己改善、中小組織改善に利用されている。

コンプライアンス  
法令遵守

- 個人情報、著作権など悩ましい判断に迫られる可能性がある。
- ・例:PTAのマスコットは誰がデザインしたのか?
  - ・役員のプロフィールはどこまで具体的に記載するのか?
- ※参照:文化庁/著作権制度に関する情報、参照:個人情報保護委員会

過去事例

学校便りを受け取った地域の方が厚意で(無断で)ネットにアップし掲載  
後日修正・変更があっても、新たな情報を到達させることができなかった

- ・情報の組み合わせで個人特定できる状態を防ぐ
- ・PTA会員の描いたカットにも著作権はある
- ・著作権については広報向け資料参照

スキル・時間に配慮した役割分担 → 自身が係わる必要性を実感

適切な人数で作業

多人数・分母が多いほど良いもの

- ・企画などのアイデアだし
- ・調査活動 情報収集
- ・初期の校正

少人数・決定、判断を要するもの

- ・添削・校正・校閲作業(2人以上)
- ・デザイン(万人ウケ=誰にもウケない)

得意分野を生かす  
各人の状況に配慮

スキル・IT知識・フットワーク・時間帯・家庭環境

- ・委員の状況を把握し作業分担を検討
- ・打合せの日時や連絡方法の検討時に配慮

## 長文は興味損失の元 → 短文で読みやすく

## 会長あいさつ

こんにちは、みなさん。

ただいまご紹介にあずかりました新校長の前田です。

新年度もはや2ヶ月。1年生もすっかり学校生活になじんで、子供たちが日々成長している様子を伺えます。学校では、学習はもちろんのこと、集団活動を通して強調性、思いやり、友達の大切さを肌で感じ、ああ、学校は友達とのコミュニケーションも楽しいな、楽しいので勉強も一緒にやってみよう、と感じてもらいたいことも大切です。ただ、学校での生活は1年生はまだ午前だけ、数時間です。子どもたちの健やかな成長は学校だけで成り立つものではありません。どうか私たち職員と状況を共有していただき、ぜひご家庭で、保護者としてもお子さんの成長をサポートいただき、何かご不明なことなど課題を感じたら担任にご相談ください。

手紙や、連絡帳を活用して、是非コミュニケーションを図ってください。それによって子供、保護者、そして私たちも一緒に成長できるのではないのでしょうか。

## どちらも大切 学教教育と家庭教育(会長〇〇〇〇)

新年度から2ヶ月。集団活動を通し強調性、思いやり、友達とのコミュニケーションの大切さを感じ取り、楽しいと感じる環境で勉強もやってみよう、と感じてもらいたいことも大切です。

子どもたちの健やかな成長は学校だけで育めるものではありません。どうかご家庭でお子さんの成長を見守り、リードし何かご不明なことなど課題を感じたら手紙や、連絡帳を活用して担任にご相談ください。情報の共有によって子供をとりまくみなさんがともに成長できるのではないのでしょうか。

- ・善意ある言い換え程度の変更は可
- ・情報が濃くなり充実した読了感がある
- ・分量が減り読みやすい文字サイズ、行間が設定できる

## 3 参考 文章バランス

## 春号 運営委員会だより

第285号  
平成29年5月  
杉並中PTA

## SDGsを親子で体験！リサイクルプロジェクト始動

5月第1回運営委員会では、SDGsを子供たちとともに学べるようPTAでも新プロジェクトを始動することが決定しました。

アンケートで要望が多かった習字道具・衣類リサイクル、ランドセル寄付について9月スタートを予定しています。

自由参加

関心のある方はオンライン会議にご参加ください！

5月30日 朝8:40から20分 PTA部会アカウント

日付は大きく太く

- ・概要と詳細のバランスに配慮
- ・参加手順を簡単に紹介



### Zの法則

人間の視線は左右→上下に動くのが一般的とされる



### 赤の法則

人間の視線は赤を第一にキャッチする、ことが多い  
色に対する意識感覚は地域によって異なることがある



### 視線・肖像の法則

同じ状況にある印刷物なら肖像(目線)のあるものを受信者は第一にキャッチすることが多い



### ダグマーの法則

興味を感じるかどうか、人間は一瞬に判断するという説



まとめ

部員の個性・スキルを活かした  
効率的な活動を！

情報を濃縮し  
読者に充実した読後感を！

会員のニーズ、読後感を認識・  
解析してPDCAに役立てよう！

会員の充実感は、部員みなさんの充実感に繋がります！  
新しいスタイルに挑戦しよいものを後輩に伝えましょう！

**お疲れさまでした！**

**何かひとつ自分たちならではの  
個性やスキルを活かした情報発信に取り組んでみましょう！**

前半 脱「義務感、形骸化、超多忙」

PTAは“期間限定”の特権

後半 脱「やらされ感 vs やってこない」

PTAならではのリーダー

2022年5月25日

NPO法人 ファザーリング・ジャパン 理事 川島 高之

## 自己紹介

### Life(私ごと)

家事・子育て(今は妻が単身赴任中)

趣味(スポーツ・音楽鑑賞)、親、etc

### 全て「本業」

### Work(しごと)

三井物産に入社(1987年)

上場会社の社長(2012年)

独立(2016年)、現在は2社を経営

### Social(社会ごと)

NPOファザーリング・ジャパン 理事

小中PTA 元会長、PTA同窓会 会長

内閣府/男女共同専門委員

文科省/学校改善アドバイザー

こども家庭庁/創設アドバイザー

神奈川県/男女共同参画員など歴任

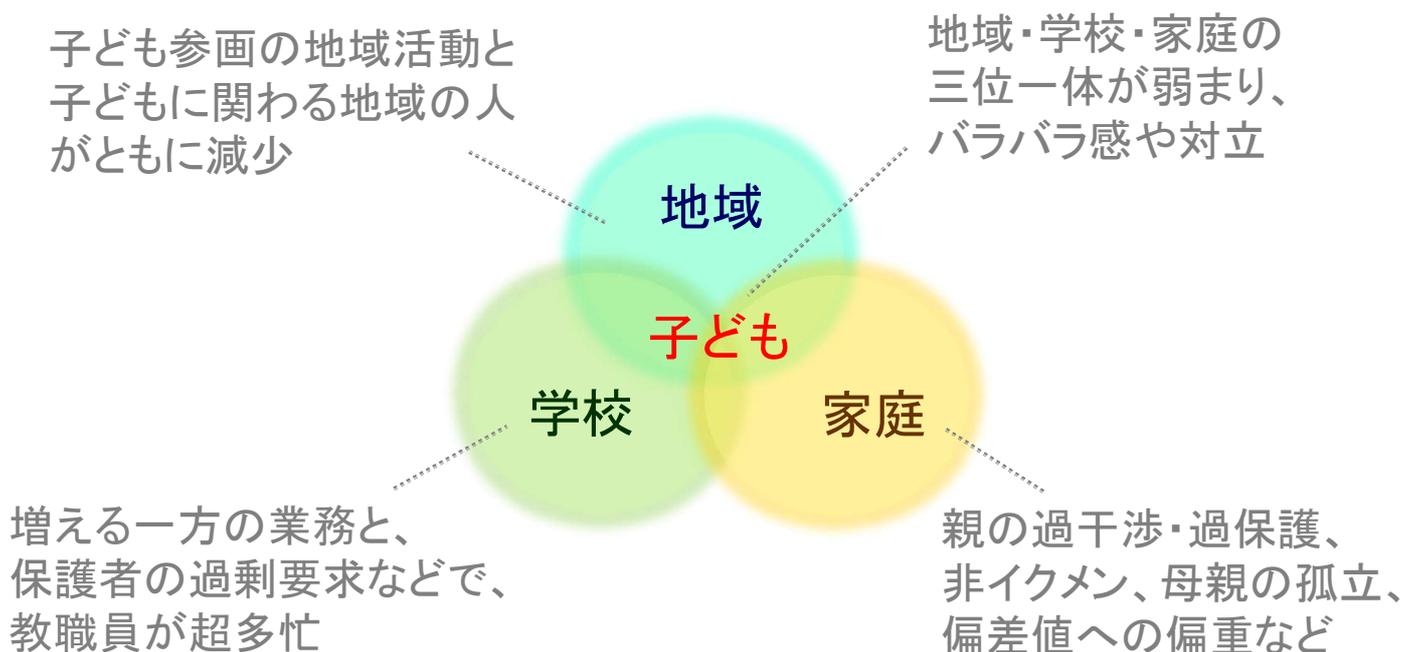
前半 脱「義務感、形骸化、超多忙」

PTAは“期間限定”の特権

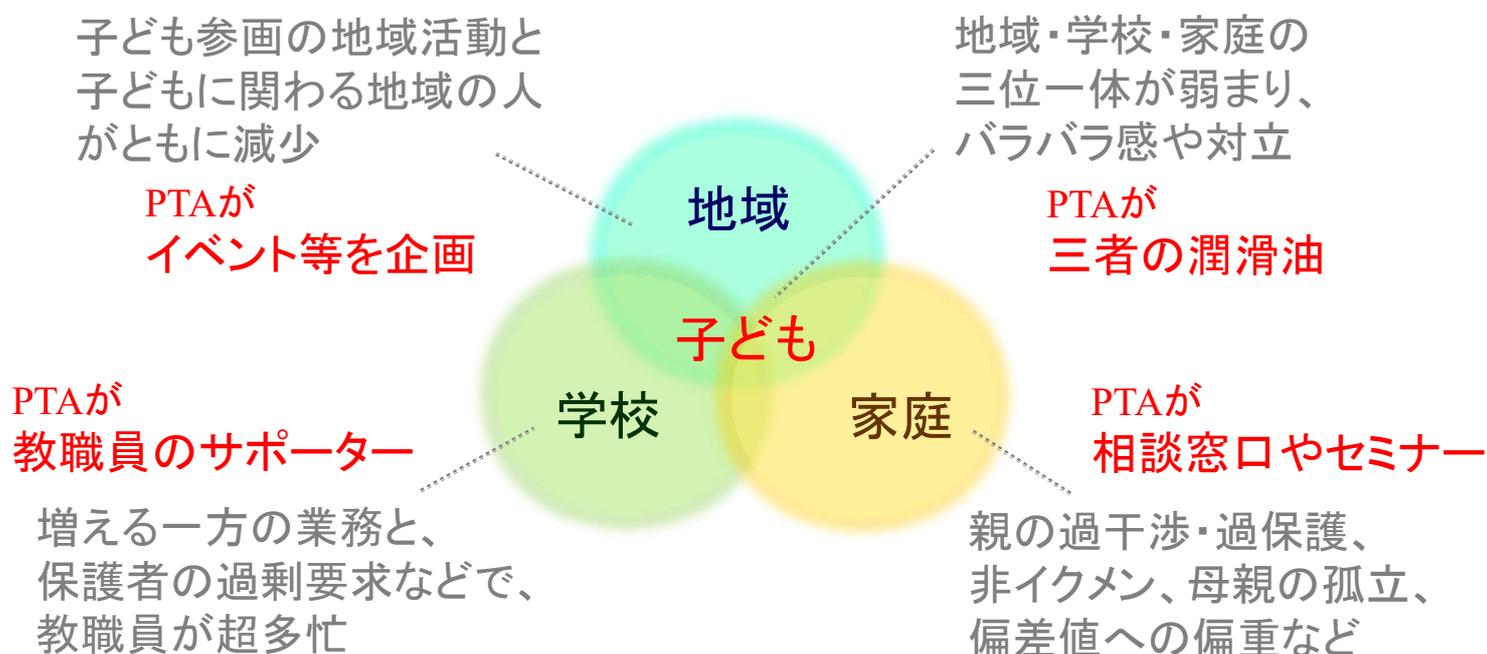
「クジで負けて、仕方ないからやるPTA」  
「時間ばかりとられて、意義は低いPTA」  
これ、モッタイナイですね。

PTAに参画すると10個のメリットがあります。  
そして、子どものために不可欠な組織です。

課題多い 子育て・子ども教育



## 「出番ですよ！」 PTAの存在意義は大きい



## でも PTAの現状 よく耳にすること



面白く無い、つまらない、やらされ感、義務感

減らす・止めるばかりで、新しい企画が少ない

「出来ない理由」ばかりで「出来る手段」を考えない

会長リーダーシップ欠如、そのために一体感が無い

教師の負担多い、そのために学校でのイベントが少ない

積極的な人が少ない、パパの参加は更に少ない

各々の都合が異なる(昼は不可、夜は不可、週末は不可)

## 私が やったことの例



参画の10大メリットを言い続ける  
面白い企画、子どもと一緒に企画を増やす  
おやじの会やパパたちを巻き込む  
地域を巻き込む、地域の力を借りる  
楽しんでいる姿、感動している場面を見せる  
会報誌を雑誌風に(堅苦しい文章を止めてカジュアルに)  
「活動の見返りは『子どもの笑顔』」が口癖

「決めていく」ことを習慣化(先送りを減らす)  
「やらないこと」をドンドン決める  
稟議制度(お金の使い方ルール)を導入  
会議を、平日と週末、昼と夜に、分散  
情報共有や伝達の仕組み導入  
講座や区(市)Pへの役員動員を止める  
ミスや失敗OK、形式的なことを減らす

## PTA参画の10大メリット(特権)

- ① 知人・友人が増える (今が楽しい、老後も楽しいだろう)
- ② 視野が広がる (職場や家庭ばかりだと狭い視野に)
- ③ 居場所が増える (サードプレイスは人生を豊かにする)
- ④ 職場での仕事能力が高まる (多様性を身に付けるなど)
- ⑤ 教職員と親交を深められる (相談し易い、情報量も増える)
- ⑥ 学校教育に参画できる (主にキャリア教育や体験型など)
- ⑦ 学校に行ける (特に男性は学校の敷居が高いので)
- ⑧ 我が子との距離が縮まる (共通話題が増える)
- ⑨ 子育て・子ども教育の幅が広がる (多くの事例を見聞)
- ⑩ そして、ともかく楽しい (サークル的なノリだった)

PTAは  
義務ではなく  
特権

MBAより  
PTA

## 職場の仕事能力が高まる



Coffee Break



## 学校のサポーターを増やした 私がPTA会長時代にやったこと

### 保護者へ情報開示

- ・教職員の勤務実態(残業時間等)
- ・学校がやるべき仕事(授業等)
- ・本来は学校外の仕事(部活等)



### 皆で検討

- ・減らし(止め)てもいいことは?
- ・保護者でも出来ることは?
- ・業者に外注してもいいことは?



保護者がやった例)

部活の集金、遠征の送迎、部活の指導  
勉強の補習、職業体験のサポート  
夜祭りの見廻り、プールの掃除・管理  
運動会の準備、入学・卒業式の準備  
クレーマーへの対応、近隣ゴミの掃除

### 効果

- ・学校への参画者が増えた
- ・文句を言う人が減った
- ・保護者同士が仲良くなった
- ・高齢者の生き甲斐の場に

## グループワーク「PTAの課題と解決」

あなたが所属しているPTAの、

大きな課題は何ですか？

解決するためにどんなことをやっていますか？

⇒グループ内で発表し合ってください。

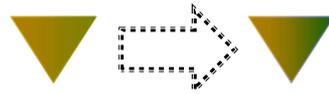
PTAの委員たちが、動いてくれない。  
言ったことしか、やってくれない。  
職場のようにはいかない。

後半 脱「やらされ感 vs やってくれない」

PTAならではのリーダー

## 私の大失敗

少しずつ右に移動  
意見交換・事実説明・合意



ウェット  
色々と気を使う  
じっくり・丁寧  
過去の経緯を重視

従来の  
PTA

職場の  
仕事

ドライ  
ビジネスライク  
合理的・効率性  
費用対効果



中間を意識して会長し始めたが  
ママ達から総スカンをくらった

大失敗から始まったPTA会長職。  
意識してきたことをがいくつもある。

そしてこれらの経験が、職場での  
マネジメント・スキル(管理職能力)を高めてくれた。

\* 管理職向け研修で用いている私の資料から  
PTAのリーダー・マネジメントにも当てはまるものを列挙

## 「ワクワク」すると委員は動く

人が動くエゴグラム「5つの領域」の中で、日本人は「FC」が弱い

理念力 (CP)	支配的 Controlling Parent	「～すべき」、正義感、道徳心、秩序
支援力 (NP)	養育的 Nurturing Parent	思いやり、優しさ、寛容、共感、面倒見、保護
論理力 (A)	合理的 Adult Ego	データ判断、知性、冷静さ、客観視、論理性
活発力 (FC)	天真爛漫 Free Child	「 <b>ワクワク</b> 」する心、直感力、創造力、好奇心
協同力 (AC)	従順 Adapted Child	周囲の顔色を見る、忍耐、協調、優等生

15

## 委員を信じ 仕事を任せる

1, Howを委員に任せる

会長

マネジメントの時間を増やせる

2, 裁量権を委員に与える

任せる

3, 会長の仕事を委員に渡す

委員

やる気が高まる、成長する

### 【Point】

委員からの自発的な提案は、出来る限りOKを出す

委員に任せる際、成果物の内容や期限を明確に指示をする

結果を、出来れば第三者の声をそえてフィードバック

16

## 脱イエスマン、安売りしない

一般保護者、学校、区Pなど

- ① 行き過ぎた無理難題に対し、改善依頼 → 交渉 → 断る  
⇒ 委員を守る会長に、委員はついてくる
- ② 受ける仕事を厳選し、「受けてくれた」感を相手に与える  
⇒ 委員の時間を、安売りしない

会長

17

## 断捨離する、作業を思考に

会長

- ① 続けているコトを疑い、断捨離（止・終・減）の決断を下す  
⇒ 絞り込むと、あがってくる成果物が良質化
- ② 作業（単純化）を減らし、仕事を思考化（高度化）させる  
⇒ 意味・意義を高めると、仕事が良質化

委員

18

## 資料・書類は 1/8に

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{作成回数} \\ \hline 1/2 \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{作成時間} \\ \hline 1/2 \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{分量} \\ \hline 1/2 \\ \hline \end{array} = 1/8$$

### 資料は手間かけない

分厚い、資料が膨大、形式ばっている  
同じような報告書が複数ある、



意味が伝わればいい、脱ソナク、  
完璧求めない、シンプルに

少ない資料は良い資料  
絞り込み、エッセンス、端的

多くなるなら読みやすく  
要約欄、箇条書き、タイトル工夫

手間省き無駄を軽減  
定型化、共有化、作成前合意

19

## 会議・打合せは 1/8に

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{回数} \\ \hline 1/2 \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{時間} \\ \hline 1/2 \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{人数} \\ \hline 1/2 \\ \hline \end{array} = 1/8$$

・目的の明確化

・決める(\*)

・議事録

(\*)プレストや情報共有  
の場合は除く

・資料の事前配付

・読んでから出席

・読んだ前提で開始

・ただいるだけの人は  
出なくていい

・出欠は本人に任せる

・途中から(まで)OK

20

## ダメ会議

結論が出ない、何も決まらない、先送りばかり

出席者が多すぎる、発言者は少ない

時間が長い、一人ひとりの発言が長い

報告会のように、メールで十分、資料説明が多い

否定的コメントや、代案の無い批判が多い

空気がドンヨリ、別のことをやっている人が多い

御前会議のように、席の序列厳格、特定者だけ発言

最後にドンデン返し(今までの議論は無意味)

初めから、シナリオと結論が決まっている

会議の目的がわからない、何のためか不明

21

## 会議の進め方

会議の方向性や  
情報を共有

### 共有

- ・前回の結論
- ・今回の目的
- ・案件全体の予定

否定・批判は無しで  
傾聴・共感・称賛

拡散した意見を  
整理整頓

### 拡散

自由に発言  
させ、ホワイト  
ボードなどで  
見える化

### 整理

出てきた意  
見をいくつか  
にグルーピ  
ング

広げた風呂敷を  
畳み結論を出す

誤解を生まないよう  
確認し合う

### 収束

残り時間を  
明示し、結  
論を出す方  
向に導く

### 共有

決まったこと  
を共有(誰が  
いつまでに  
何をやるか)

### 次回

簡単な議事  
録、内容確  
認、次回日  
程を決める

次につなげる

22

## 委員の話を傾聴

### 受動的

真摯に耳を傾けて受け止め、  
目を合わせ、正面を向く

### 反映的

話し手の発言を繰り返したり  
言い換えたりし、共感・理解を示す

### 積極的

話し手の発言に言葉を添えたり、  
質問を挟んだりする

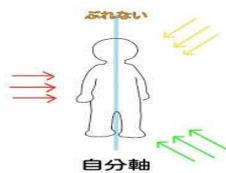
### 【気を付けたいポイント】

- ・やたらと、アドバイスや説得しない
- ・自分が話しすぎない(話し手が7割)
- ・出来るだけ、否定、批判、反論しない
- ・話をさえぎらない、言葉をかぶせない
- ・無反応にならない、相づちを打つ
- ・間(ま)や沈黙を大切にする
- ・質問するときは5W1H

23

## 逃げない

### ① 基軸を持つから逃げない



ブレブレ会長は、  
委員のヤル気と時間を奪う

### ② 明確化から逃げない

「あいまい」な指示・説明・結論  
は、委員を混乱させるだけ

### ③ 決断するから逃げない



よしわかった、やってみろ！

委員の時間とヤル気を奪う会長

- ・決断の先延ばし ばかり
- ・意思決定を他者にパス ばかり
- ・否定的な意見 ばかり

### ④ 責任とるから逃げない

「最後は私が責任をとるから  
やっていいよ」と言い切る

24

## 組織の使命と委員の納得感

PTA組織の存在意義、  
使命、ビジョン、  
スローガン、有り姿

①会長の言動一致、②言い続ける、  
③組織独自の内容、によって、  
全体浸透と委員の納得感を



一致団結する  
組織の御旗



浸透、納得感

各職責の合算

委員たち

御旗に到達するには、  
「委員の役割」の合算が  
必要、ということをお互に共有

25

## 心理的安全性の高い組織に



無知や無能だと思われる不安 「こんなこともわからない・できないのか！」  
邪魔をしていると思われる不安 「また議論の邪魔をするのか！」  
失敗や悩みを言える雰囲気ではない



この「不安」や「息苦しさ」を解消、遠慮しあう状態から脱却



安心して自分をさらけだし、遠慮なく発言できる雰囲気に

【Point】

均等な発言機会

助け合う環境

共通の価値観

尊重と対等

ポジティブ思考

風通しの良い組織

26

## グループワーク「私のPTA宣言！」



PTAの現職在任期間中に、  
やってみたいこと、実現させたいこと  
(改革・イベント・新たな取組みなど)を

- ①考えてみて下さい(2分間)
- ②グループで発表し合ってください。



## うさぎママのパトロール教室

安全インストラクター

武田 信彦 ヨッシー

## 平成9年、防犯にデビュー



**私が伝えていること**

# **市民防犯**

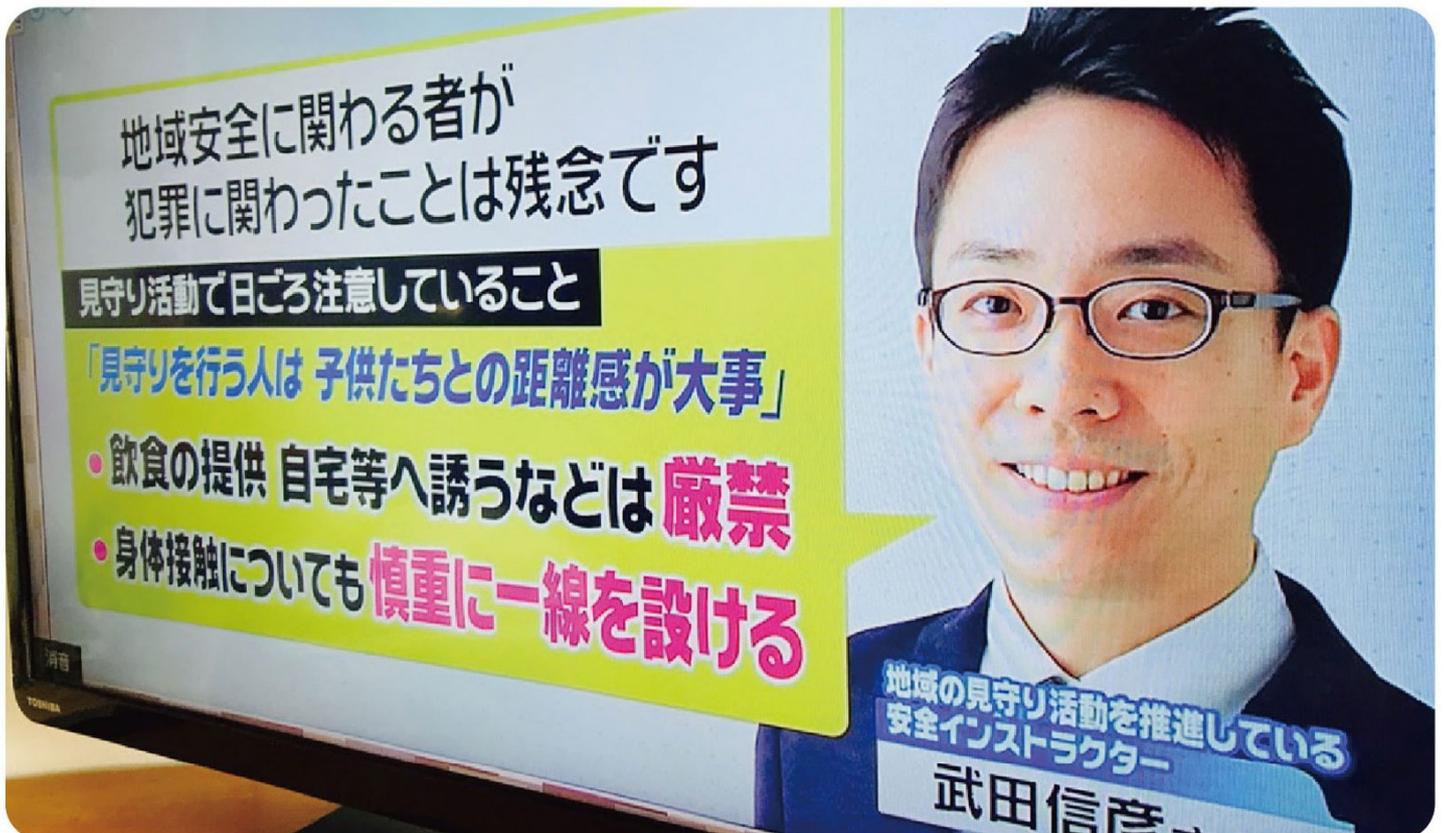
II

**一般市民ができる防犯**

**防犯のコツを伝えています**



# 防犯のコツを伝えています



フジテレビ ニュース



## 「犯罪被害等防止マニュアル」



## 「たいせつないのちとあんぜん」

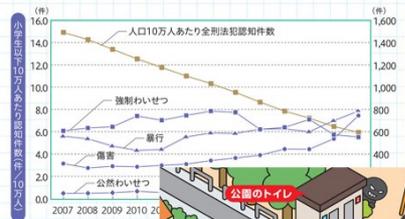


## 「登下校見守り活動ハンドブック」

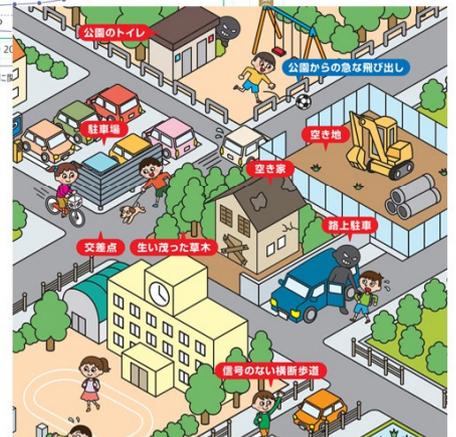


状況で発生しています。

- こうした犯罪被害を減らすためには、地域全体で、登下校中の子供たちの見守り活動を行うことが欠かせません。
- 一方で、見守り活動を含めた防犯ボランティア活動者数は近年減少しており、今、みなさんの協力が求められています。



(出典)警察庁「令和元年の刑法犯に



# 子どもの防犯、待ったなし！

いってきます！

ただいま！

# 子どもの防犯、待ったなし！



# 子どもの防犯、待ったなし！

いつでもどこでも、  
要注意！

子どもの被害が、  
無くならない...

世界一安全と  
言われるけれど...

特效薬なし

**犯罪**

# 子どもの防犯、待ったなし！

①子どもだけになりやすい環境

②どこでも生じる犯罪被害リスク



データだけで判断しない！

## 子どもの防犯対策が欠かせない！

### 被害が発生している場所

#### ① 道路

人通りや人の目が少ない路上で下校時や公園からの帰宅時に声をかけられた事例があります。

■ 大通りから一本入った住宅地 ■ 片側が田畑



早朝や夕方時間帯は歩行者が少ないことから、特に注意しましょう。

予防策

一人で歩く時は、急に近づいてくる人に気をつけて歩く

#### ② 駐車場・駐輪場

スーパーやコンビニなどが営業する夜の早い時間帯に、駐車場に面する歩道で声をかけられた事例があります。

■ 車内でまちぶせ ■ 駐輪場



犯罪を計画する者が、車中で待機するなど、駐車場・駐輪場を利用しつつ対象を物色している可能性があります。

予防策

「車で送ってあげる」と言われたら断って逃げる

# 被害が発生している場所

## ③ 公園

公園内の遊具や木の陰といった見通しの悪い場所で、被害に遭った事例があります。

### ■ 遊具の影



### ■ 見通しの悪い木陰



植栽や塀で見通しの悪い公園では、子供たちが複数人で遊んでいても注意が必要です。

### 予防策

公園では見通しの悪い場所で遊ばない

## ④ 集合住宅の共用部分

道路上から住人のふりをして後をつけてきた人によって共用玄関や廊下で被害に遭った事例があります。

### ■ 共用玄関



### ■ 階段



このほか、廊下やエレベーターなども、自宅のすぐ近くなので気がゆるみがちですが、外から見えにくい構造の場合には、注意が必要です。

### 予防策

後ろからついてくる人がいないか気をつける

警察庁資料より

## 子どもの防犯対策の考え方

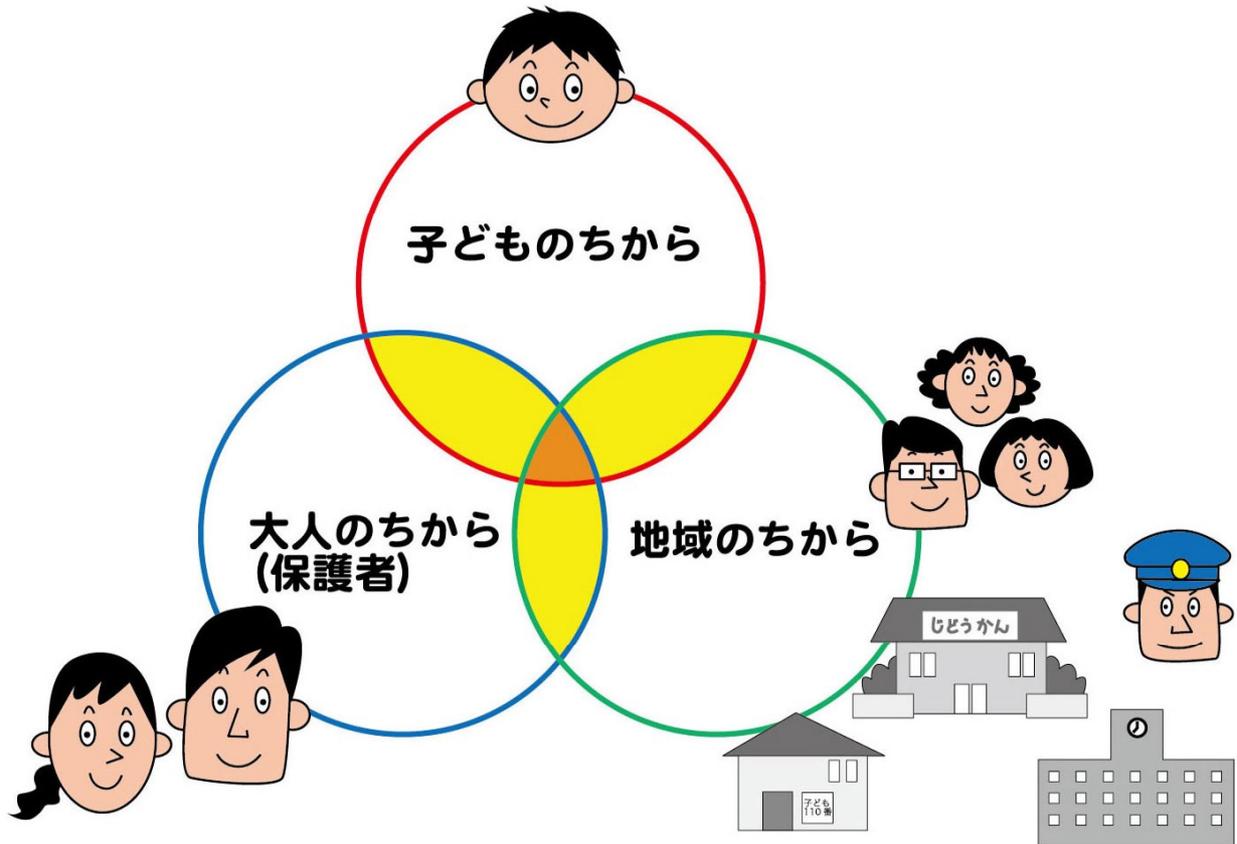
# 「空白」が

「聖域」を設けない！

# 生まれる瞬間に注意！

一人ひとり、ちがいます

# 子どもを守る3つの防犯力



## 子どもの防犯対策の3段階

薄い

①大人の「付き添い」

↑空白↓

②地域の「見守り・助け合い」

濃い

③子ども自身の「自分を守る力」

# ①大人の付き添いは大きな力



# ②見守り・助け合いが欠かせない



# 防犯ボランティアのスタイル



# 見守りパトロールデザイン



### ③自分を守る力を引き出そう！



## 身を守る力とは・・・

家庭や学校で身につけた

コミュニケーション力、

その延長にあるもの

知恵をフルに発揮する分野

# ひとりにならない



## ひとりになるとき、どんなとき？



# 子どもたちに質問してみましよう！



# あんぜんスイッチ、オン！！



# まわりをよくみる

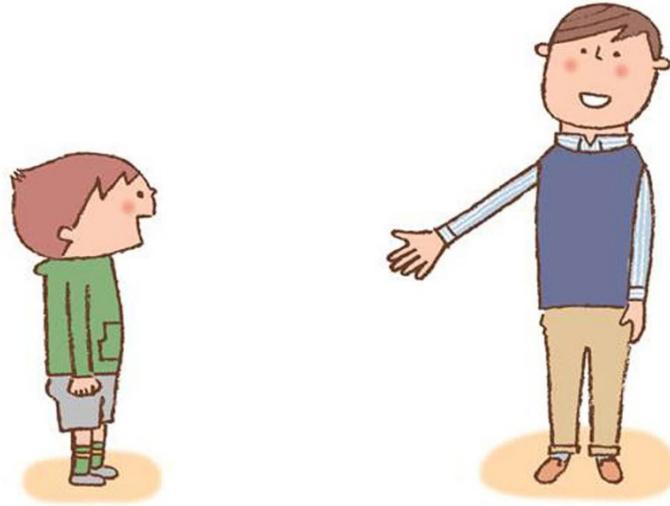
# まわりをよくきく



## だるまさんが、ころんだ！！



# さわられない、つかまれない きよりをとる



## さわられない長さを知ろう！



# できません！



## きっぱり断る練習をしてみよう！



# どこににげる？



ここから一番近くで、

助けてくれそうな人は、どこにいる？



# 「たすけて」をつたえよう！



大きな声のたすけて、  
小さな声のたすけて、



どちらも伝える力です。

# 警察への連絡方法

110（通報）



#9110（相談）

所轄の警察署（相談・連絡）

これ、なあんだ？



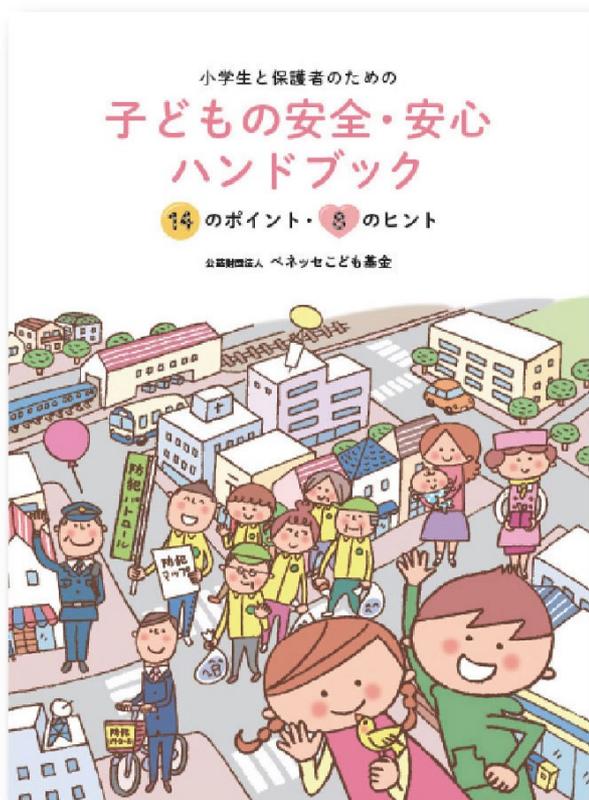
# 防犯ブザーの効果とは

- ① たすけて！をサポートしてくれる
- ② にげる！をサポートしてくれる

丈夫なものを選び、すぐに手が届くところに装着する

名前や住所、電話は記載しないこと！

## 子どもの安全・安心ハンドブック



リンク参照

無料

# 活かそうコミュカ！中高生からの防犯



ペリかん社

見守り・助け合いの雰囲気づくり

子どもたちへの防犯指導



未来への重要なメッセージ



暴力、差別、分断が生まれない

本当の意味で強くて安全な世の中へ

# 学生防犯ボランティア



ご参加ありがとうございました！



ご質問、ご相談など、

サイトよりお気軽にお問い合わせください

まずは、会計の原則を知ろう！  
この原則通りにするのが基本ルールと考えて臨もう！

文責：井上尚子

PTAとは・・・わが子を含むすべての子どもたちが、豊かな学校生活や地域生活を送れるよう、保護者と教職員によって学校ごとに組織され、会員の総意に基づき自主的・民主的に運営される団体。それぞれの学校のPTAは、青少年団体や婦人団体などと同じく、「社会教育関係団体」と位置付けられています。社会教育とは、学校教育以外の教育を指し、多様な人々により多様な場やさまざまな機会で行われている教育です。(杉並区教育委員会 PTA ハンドブックより)

## PTA 会計の仕事

- 1) 予算の実行(入出金管理)
- 2) 記録を取って管理する(帳簿をつける)
- 3) 決算書の作成
- 4) 次期予算案の作成
- 5) 総会での報告

### 1) 予算の実行(入出金管理)



#### ① 予算管理

\* 予算とは、1年間のPTA活動(事業)を実行するための資金(収入と支出)計画である。

\* PTAの活動と予算は連動している。

- ◇ 総会で活動計画を示し、活動に必要な予算を提示し、会員に合意を得る。
- ◇ そのうえで、活動に合わせた入出金管理を行う。
- ◇ 最後に決算報告をし、実際にどのように使われたのかを説明する。

#### ② 予算の執行

1

- ◇ 各専門委員会にかかる費用は、本部会計が一括管理する場合と、各委員会に管理を任せる場合がある。支払の煩雑さを考えると委員会で管理してもらったほうが良いと思われるが、委員会会計担当を決めて、出納のルールを事前に説明することが必要。
- ◇ 各委員会の活動計画のもと、予算の執行を行う。
- ◇ 各専門委員会で管理する場合は、仮払いの書類でのやり取りをする(後述)。

## 2) 記録をとる 金銭出納帳、預金出納帳、備品台帳などに記入

### ①金庫(小口現金)の管理

- ◇ 入金と出金については、必ず証拠書類と引き換えに行う。
- ◇ 金種表を作るなどして、現金残高は常に確認する。
- ◇ 帳簿(金銭出納帳)の残高と、実際の現金残高が同じか確認する。

### ②通帳の管理

- ◇ 帳簿(預金出納帳)の入金と出金が、通帳と同じか確認する。
- ◇ 帳簿(預金出納帳)の残高と、通帳の残高が同じか確認する。
- ◇ 通帳管理者と銀行印の管理者を別に定めるなどして、入出金の際は複数人で確認できる状況をつくる。

### ③備品台帳の管理

備品とは、使用見込年数が長期間にわたるもので、繰り返し使用できるもの。

企業会計等では、10万円以上で、耐用年数が3年以上のものなどという判断基準がある。

PTA 会計では税金が発生しないので、その定義と一致しないこともあるが、定義がまちまちだと混乱するので、定義を決めておいた方が良い。

例)「〇万円以上の物品は備品とする」など。

- ◇ 購入月日、種類、数量、金額、管理番号等を記入する。
- ◇ 見積書や納品書、保証書なども合わせて保存する。
- ◇ 備品の購入について、予算に計上していない高額な物品を購入する場合には、運営委員会（実行委員会）に諮り承認を得る。
- ◇ 各委員会から余った予算で備品を購入する要望が出て、その委員会だけで判断せず、本部会計と相談して決める。

#### ④領収書の受取り方

- ◇ PTAの分はPTAの分だけで会計し、個人の買い物と混ぜないこと。
- ◇ 領収証を発行してもらうこと。レシートは補助的なもの。
- ◇ レシートをもらう時に、事前に「領収書とレシートの両方がほしいので、両方出してほしい」と伝える。
- ◇ 領収書の宛名は必ず「〇〇学校 PTA」と記載してもらう。
- ◇ 個人から受け取る領収書は「住所」「氏名」「内容」「朱肉印」が必要。特に講演謝礼など個人から領収書を受け取る場合は、浸透印（シャチハタなどの消える可能性ありのもの）ではなく朱肉印にて。
- ◇ 慶弔費など、領収証が発行されない支出については、その明細を残す。
- ◇ 市販の出金伝票を使用すると便利（パソコンで作成しても可）。案内状や会葬御礼などを残し、相手がわかるようにする。
- ◇ ネット通販の時は領収書の宛名に注意（個人名にならないか事前に確認）する。<sup>※1</sup>

#### ⑤領収書の発行の方法

- ◇ 通し番号を記入すること。
- ◇ 控を保存すること 複写タイプの領収書が便利。
- ◇ 記入間違いをした場合は切り取らず、大きく斜線を引き、折りたたんでステープラー

で止めておく(無用な疑いをかけられないために)。

#### ⑥銀行口座の管理

- ◇ 出来る限り振込みを使う。記録が通帳に記帳されるので、証拠として残しやすい。
- ◇ 支払いに関しても、一件、一件引き出す方法もある。帳簿をつけるのが楽になるが、ATMで時間がかかる。
- ◇ 通帳と印鑑は別々の人が管理し、入出金するときは二人で行くようにするとよい。
- ◇ 不便ではあるが、カードは作らないほうが危険は減り、盗難防止の意味もある。

#### ⑦仮払いについて

- ◇ 申請書と精算書を必ず作成する。申請書兼精算書として一枚にするケースが多い。
- ◇ 申請書には、金額、承認印(例 会長と会計)、支出目的、領収日、申請者の氏名と捺印。
- ◇ 精算書には、精算日、支出内容、支出合計額、仮払金額、精算額、確認印(例 会計) 支出と領収書が一致しているか確認する。

#### ⑧帳簿や領収書の保管

- ◇ 最低でも5年以上保管する。ただし、PTAの場合は周年事業の積立金などとも関連するので、10年間保管が望ましい。

### 3) 決算の処理



#### ①決算書の作成

- ◇ その年の会費はその年に使い切るのが原則。無理な節約は繰越金を増やす。
- ◇ コロナ禍で活動が制限され、余ってしまった場合の対応をどうするかは、早い時期に

方針を決めておくが良い。

例) 今までに対応した PTA の例

- ◆ 児童生徒に物品を購入して渡す。
- ◆ 普段購入できない物品を購入して、PTAからの貸出物品<sup>※2</sup>として、学校で活用してもらう。

◇ 多すぎる繰越金については、どこかの時点でどのように扱うかを検討する必要あり。

繰越金は、全体会計の10%程度が妥当。

例) 今までに対応した PTA の例

- ◆ 繰り越されている会費は、本来は過去の PTA 会員の活動ために使用されるはずだったので、地域活動のために活用して還元する。
  - テントを購入して、地域活動の時に貸し出す
  - 防災用品を購入して、震災救援所の活動に生かす
  - 地域の人たちにも参加してもらえるイベントを企画運営する
- ◆ 広く社会に役立つように、災害の支援金として寄付する。
- ◆ 児童生徒の災害時の備蓄備品を購入して、保管する。

## ②積立金について

◇ 周年行事のための積立金、高額な物品（印刷機など）の購入のための積立金などが多いが、積立金は、何のための積立金なのかを明確にする。

◇ 余った予算を「とりあえず」積立金に回す傾向がある。目的、金額などをしっかりと決めたくえて実行する。

## ③会計監査

◇ 監査は、記載間違いがないか等を見つけてもらえるチャンスと捉えよう。

◇ 年に2回以上の機会があると良い。

◇ 監査では、通帳原本と関係書類との照合を行う。また、関係書類がない等、不明な入出金がないかをチェックする。

4) 次年度予算案の作成 

## ①今年度活動と費用の関係性を検証

- ◇ 正当な活動をしているにもかかわらず予算が余ってしまったとしたら、予算と活動が合っていないということになるので、検証が必要。
- ◇ 翌年度の会費が入ってくるまでは前年度の会費で活動を行って行かなければならぬので、予備費を設けて準備する。

## ②会費の値上げ、値下げ

- ◇ 活動にあたって必要な予算としての会費であることを意識する。
- ◇ 節約のために、委員会が無理に節約していないかを把握する。
- ◇ 値上げに比べて、値下げは安易に考える傾向がある。単年度で判断せず、予算が余る理由をしっかりと確認する。

5) 総会での報告 

年間1回の総会開催の場合(年度当初総会のみ)、卒業するPTA会員への報告が卒業後になるため、渡し方等に不都合が生じる。その場合は、年度内に当該会員には「案」として事前配布するなどの措置を講じる。

## ■最後に

- ◇ お金を扱う場合に、一番大事なことは証拠となる書類を残すこと。面倒かもしれないが、常に書類を残すということを意識する。
- ◇ お金の支払いは、常に書類との交換。書類がない場合には金銭のやり取りはしないと強く心にとどめる。
- ◇ 非会員希望の保護者が増えてきている現状ではあるが、児童生徒への対応は、「わが子を含むすべての子どもたちが、豊かな学校生活や地域生活を送れるよう」というPTAの理念を基にしながら、役員や運営委員等で熟慮していく必要がある。

## 会計・会計監査のチェックリスト

■通帳の管理について		
通帳、印鑑は施錠された場所に保管しているか	<input type="checkbox"/> している	<input type="checkbox"/> していない
通帳と印鑑は別々に保管しているか	<input type="checkbox"/> している	<input type="checkbox"/> していない
通帳、印鑑はそれぞれ管理者を決めているか	<input type="checkbox"/> 決めている	<input type="checkbox"/> 決めていない
■通帳の記録について		
通帳の前年度末の数字が、前年度末の帳簿および前年度の決算報告と一致しているか	<input type="checkbox"/> している	<input type="checkbox"/> していない
通帳の今年度末の数字が、今年度末の帳簿および今年度の決算報告書と一致しているか	<input type="checkbox"/> している	<input type="checkbox"/> していない
通帳の記録に不自然な出入りや、用途不明な出金はないか	<input type="checkbox"/> ない	<input type="checkbox"/> ある
振込の記録と振込にかかる資料が一致しているか ・請求書、振込金受取書、A T M の利用明細等	<input type="checkbox"/> している	<input type="checkbox"/> していない
入金の記録と入金にかかる資料の金額が一致しているか ・PTA 会費の明細、A T M の利用明細等	<input type="checkbox"/> している	<input type="checkbox"/> していない
複数の通帳がある場合、その全てについて上記を確認しているか	<input type="checkbox"/> している	<input type="checkbox"/> していない
■帳簿の記録について		
現金出納帳に記載している経費と領収書が一致しているか	<input type="checkbox"/> している	<input type="checkbox"/> していない
領収書に記載漏れはないか(金額の訂正は無効) ・日付・宛名・内容・金額・発行者の住所、名前	<input type="checkbox"/> ない	<input type="checkbox"/> ある
領収書の宛名が正しく記載されているか ・〇〇学校 PTA	<input type="checkbox"/> されている	<input type="checkbox"/> されていない
複数商品を一度に購入した時、領収書に加えて明細が分かる資料があるか	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> ない
領収書のないものについて、代わりとなる書類があるか ・慶弔内容の案内や礼状・日付、金額、相手先が分かる資料等 ・PTA 活動での購入物であることを証明できる資料があるか	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> ない
残高の計算に謝りはないか ・パソコンでの帳簿での数式の間違いはないか	<input type="checkbox"/> ない	<input type="checkbox"/> ある
実際の小口現金と帳簿の残高が一致しているか	<input type="checkbox"/> している	<input type="checkbox"/> していない
■備品の管理について		
備品台帳を保有しているか	<input type="checkbox"/> している	<input type="checkbox"/> していない
備品台帳に記載された備品が実際に存在するか	<input type="checkbox"/> する	<input type="checkbox"/> しない
購入した備品の請求書や納品書等が保管されているか	<input type="checkbox"/> されている	<input type="checkbox"/> されていない

## 個人情報の保護について

平成29年5月30日からの個人情報保護法改正に伴い、PTAも遵守すべき団体として位置づけられた。

### 守るべきこと

- ① 個人情報を取得する際、何の目的で利用するのかを本人に伝える
- ② 取得した個人情報を、決めた目的以外に使用しない
- ③ 取得した個人情報を安全に管理する
- ④ 取得した個人情報を無断で他人に渡さない
- ⑤ もし「自分の個人情報を開示してほしい」と本人から言われたら断ってはならない

### そのためにPTAとして、どのような対応をすればよいか

- ① 事前に同意の取り方、配布、管理の方法を話し合い、ルールを作る
- ② どこまでの情報を得ておけばよいかを考え、必要以上の情報は収集しない
- ③ 同意が得られない場合は、名簿に載せないなど必要な対応をする
- ④ 保管期限を決めて、適切に処分する
- ⑤ 管理方法(管理場所・管理者)を決めて対応する

NG例：  
・学校から児童生徒名簿への記載情報を提供してもらう  
・給食費徴収時にPTA会費も一緒に引き落としてもらう

※1 領収書がPTA名宛ではなかった場合の対応策

〇〇学校PTA  
会長 〇〇〇〇様

以下の領収書にある費用は、PTA活動の経費として支出したことに相違ありません。

〇〇学校PTA〇〇委員会

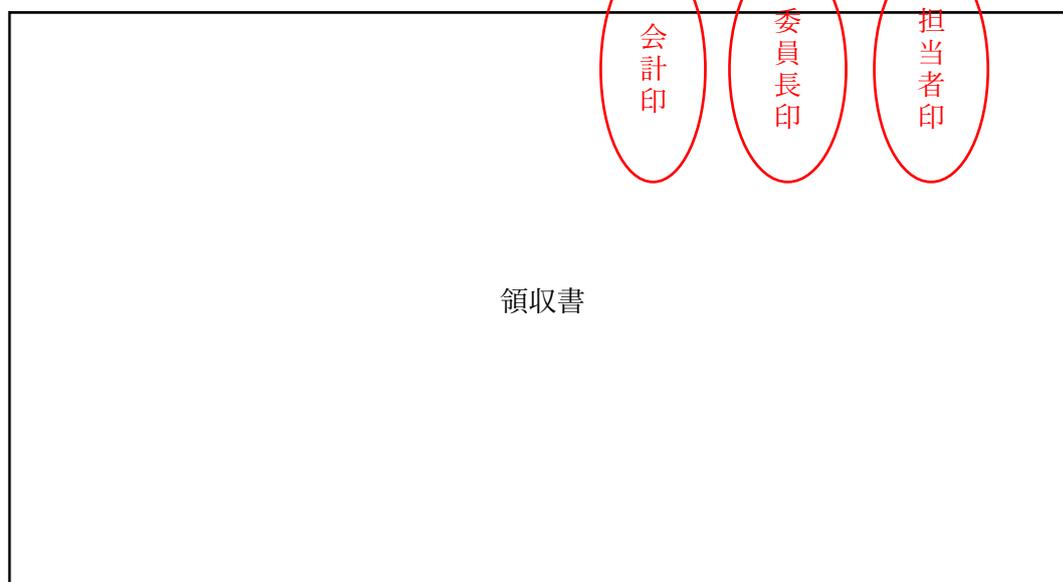
委員長 〇〇〇〇 印

購入者 〇〇〇〇 印

購入年月日：

購入内容：

確認者 〇〇学校PTA 会計 〇〇〇〇 印



※2 PTAからの貸出物品とする理由

PTAからの購入物品を学校に寄付するためには、一定の要件が必要になることから、物品保有者はPTAであり、そこから貸し出しをするという方法を取るようにすると良い。

但し、その物品を破棄する際の費用もPTAからの支出となることも考えておく必要がある。また、備品であるとしたら、備品台帳への記載管理を忘れずに。



## うさぎママのパトロール教室

安全インストラクター  
武田 信彦 ヨッシー

## 平成9年、防犯にデビュー



**私が伝えていること**

# **市民防犯**

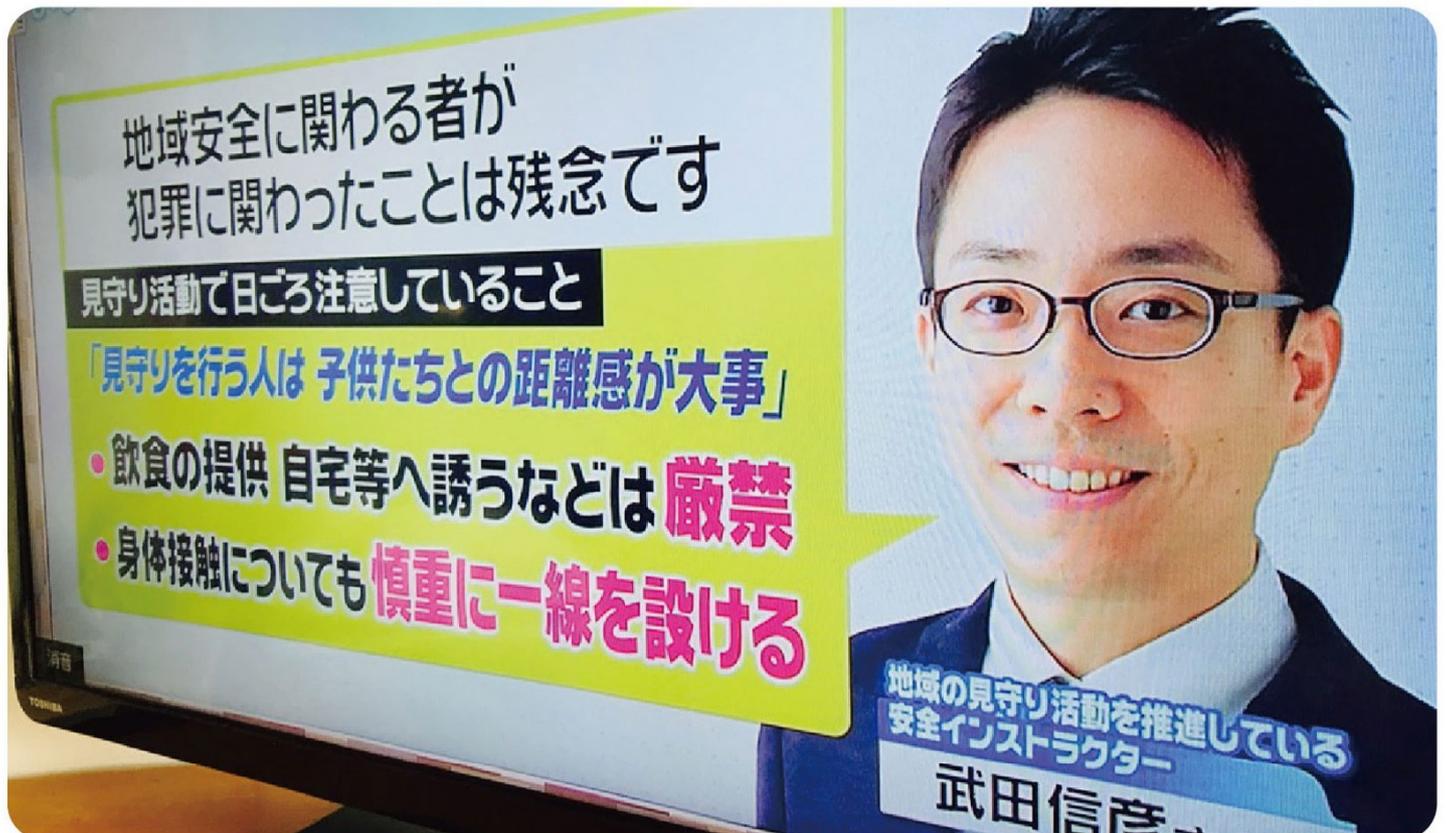
II

**一般市民ができる防犯**

**防犯のコツを伝えています**



# 防犯のコツを伝えています



フジテレビ ニュース



## 「犯罪被害等防止マニュアル」



## 「たいせつないのちとあんぜん」

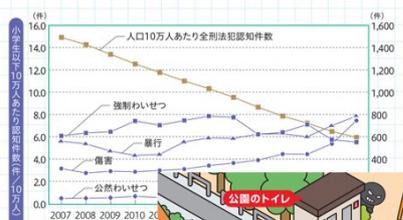


## 「登下校見守り活動ハンドブック」

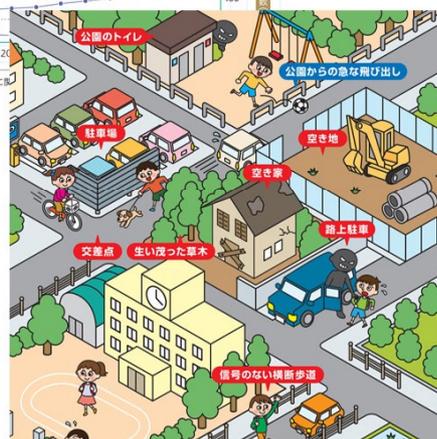


状況で発生しています。

- こうした犯罪被害を減らすためには、地域全体で、登下校中の子供たちの見守り活動を行うことが欠かせません。
- 一方で、見守り活動を含めた防犯ボランティア活動者数は近年減少しており、今、みなさんの協力が求められています。



(出典)警察庁「令和元年の刑法犯に



# 子どもの防犯、待ったなし！

いってきます！

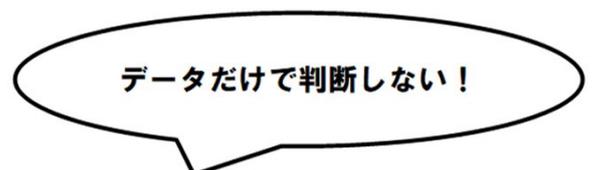
ただいま！

# 子どもの防犯、待ったなし！



## 子どもの防犯、待ったなし！

- ①子どもだけになりやすい環境
- ②どこでも生じる犯罪被害リスク



**子どもの防犯対策が欠かせない！**

# 被害が発生している場所

## ① 道路

人通りや人の目が少ない路上で下校時や公園からの帰宅時に声をかけられた事例があります。

■ 大通りから一本入った住宅地 ■ 片側が田畑



早朝や夕方の時間帯は歩行者が少ないことから、特に注意しましょう。

予防策

一人で歩く時は、急に近づいてくる人に気をつけて歩く

## ② 駐車場・駐輪場

スーパーやコンビニなどが営業する夜の早い時間帯に、駐車場に面する歩道で声をかけられた事例があります。

■ 車内でまちぶせ



■ 駐輪場



犯罪を計画する者が、車中で待機するなど、駐車場・駐輪場を利用しつつ対象を物色している可能性があります。

予防策

「車で送ってあげる」と言われたら断って逃げる

警察庁資料より

# 被害が発生している場所

## ③ 公園

公園内の遊具や木の陰といった見通しの悪い場所で、被害に遭った事例があります。

■ 遊具の影



■ 見通しの悪い木陰



植栽や塀で見通しの悪い公園では、子供たちが複数人で遊んでいても注意が必要です。

予防策

公園では見通しの悪い場所で遊ばない

## ④ 集合住宅の共用部分

道路上から住人のふりをして後をつけてきた人によって共用玄関や廊下で被害に遭った事例があります。

■ 共用玄関



■ 階段



このほか、廊下やエレベーターなども、自宅のすぐ近くなので気がゆるみがちですが、外から見えにくい構造の場合には、注意が必要です。

予防策

後ろからついてくる人がいないか気をつける

警察庁資料より

# 子どもの防犯対策の考え方

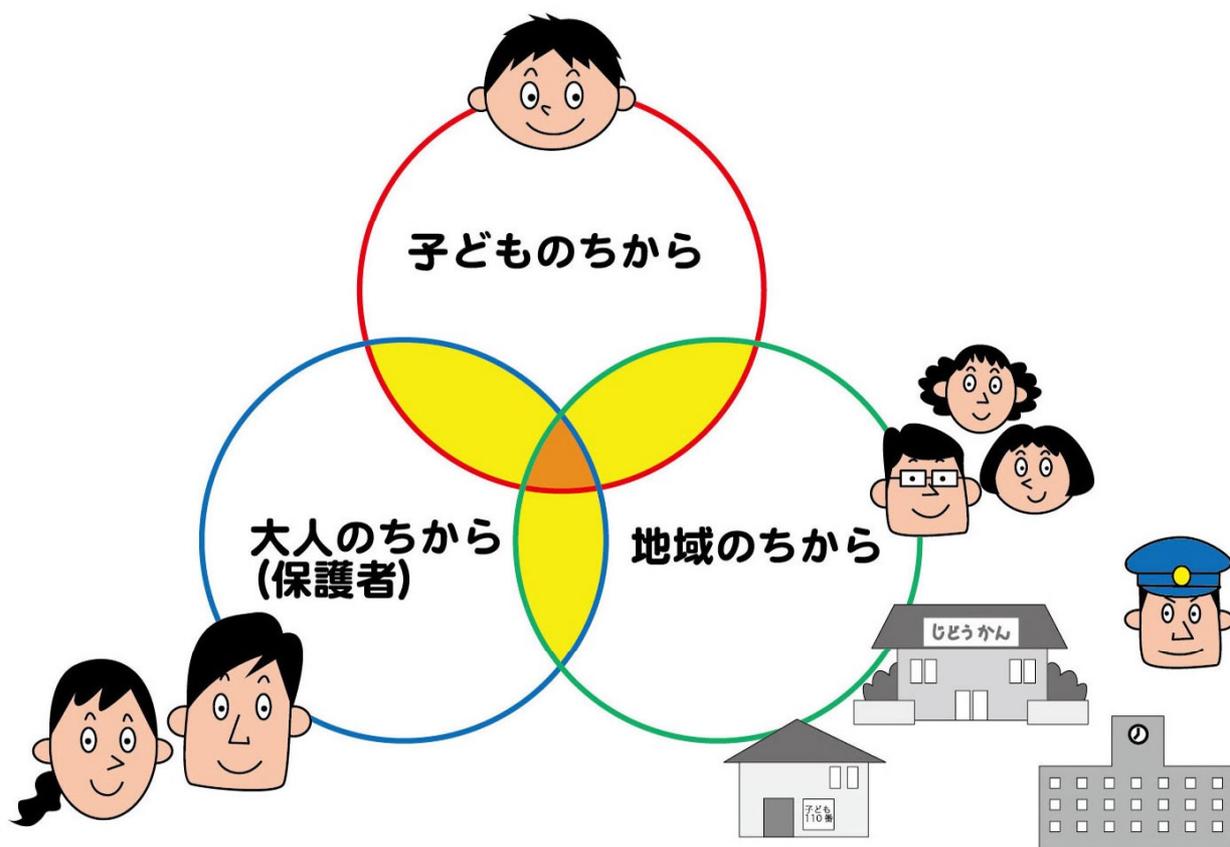
「空白」が

「聖域」を設けない！

生まれる瞬間に注意！

一人ひとり、ちがいます

子どもを守る3つの防犯力



# 子どもの防犯対策の3段階

薄い

①大人の「付き添い」

↑空白↓

②地域の「見守り・助け合い」

濃い

③子ども自身の「自分を守る力」

## ①大人の付き添いは大きな力



# ②見守り・助け合いが欠かせない



## 防犯ボランティアのスタイル



通学路の見守り



わんわんパトロール



防犯の知識を広げる活動



子ども110番の家



車両によるパトロール



インターネットの安全を守る活動



防犯の意識を広げる活動



自転車によるパトロール

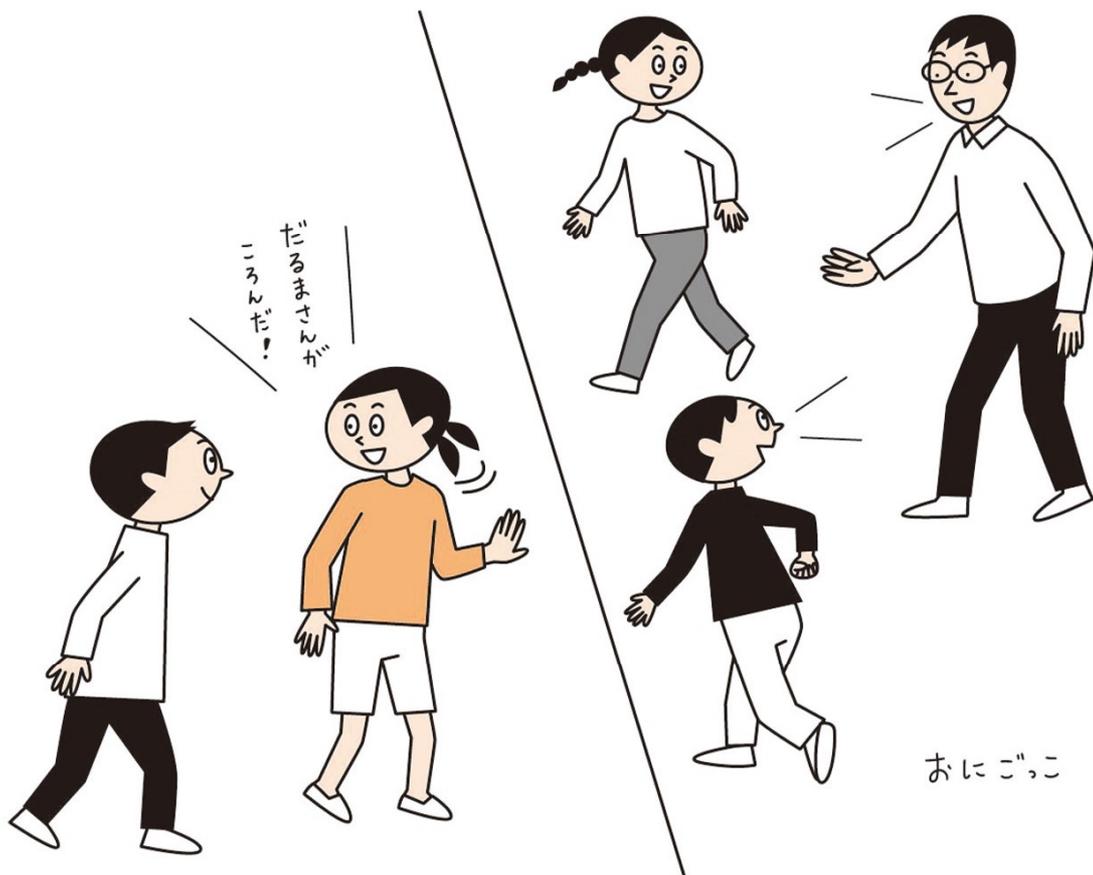


徒歩によるパトロール

# 見守りパトロールデザイン



## ③自分を守る力を引き出そう！



# 活かそうコミュカ！中高生からの防犯



ペリかん社

## 身を守る力とは・・・

家庭や学校で身につけた

コミュニケーション力、

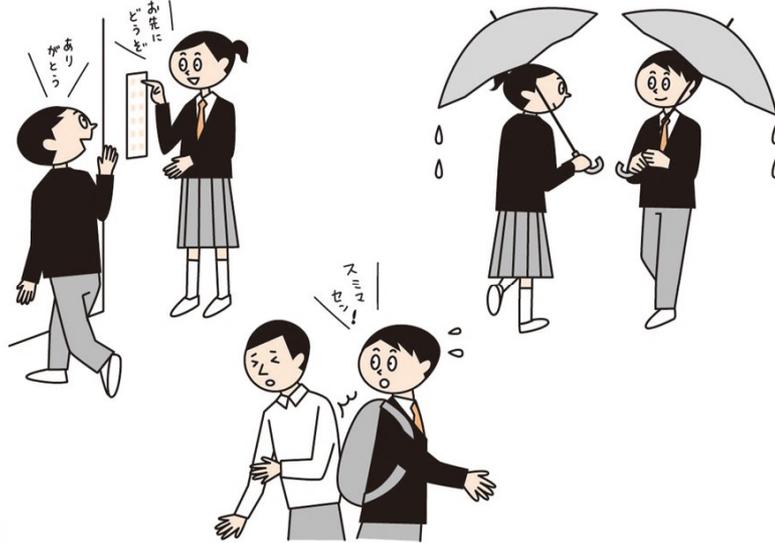
その延長にあるもの

知恵をフルに発揮する分野

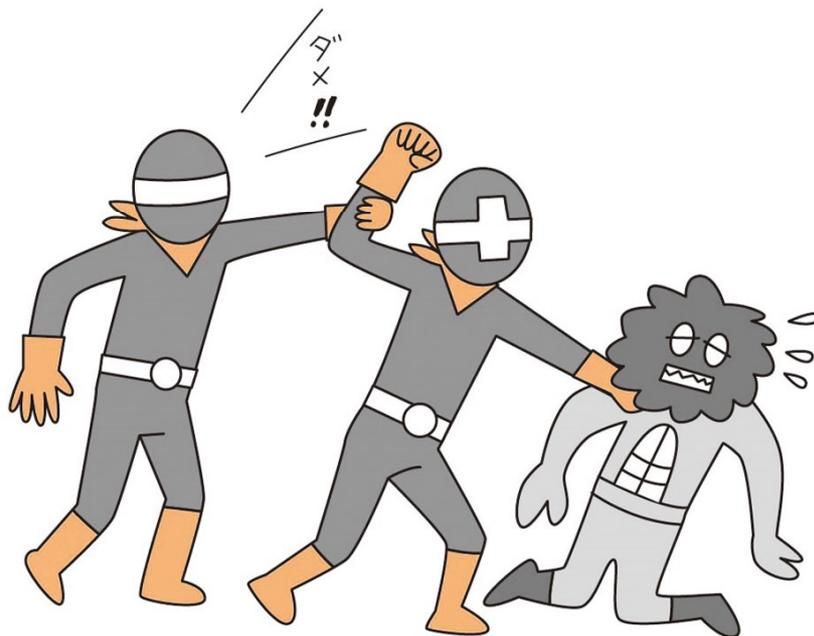
# トラブルを防ぐためにも

想像力

観察力



## 正義と暴力はちがう

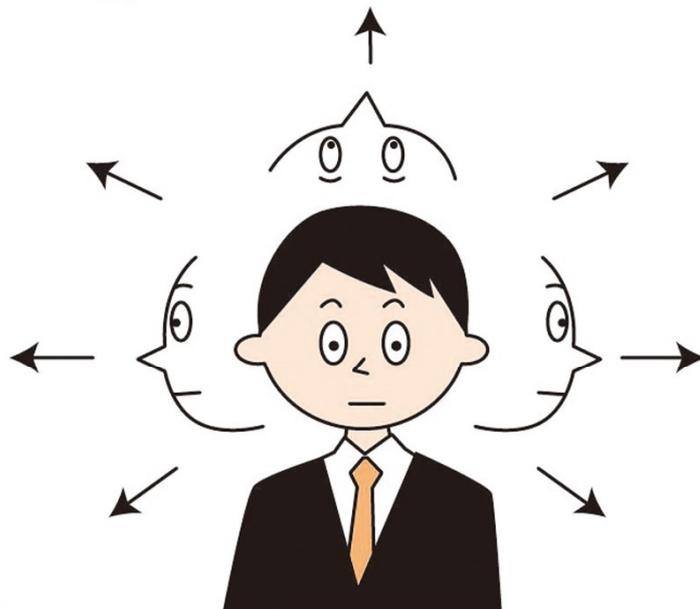


過剰な暴力は許されない！

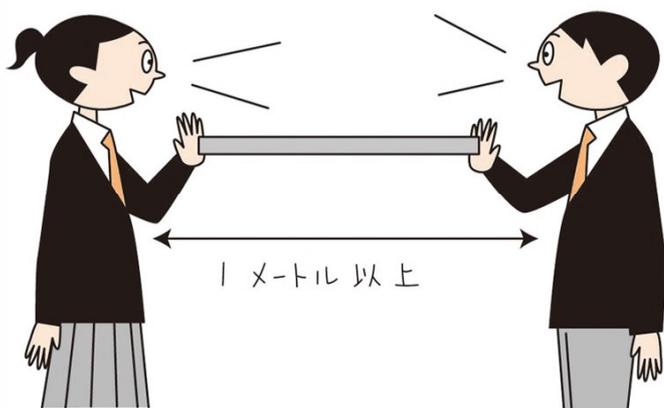
# 予防力は究極の護身術

抵抗力

リスク回避



## 自分を守る2つの距離感



身体の距離

心の距離



# 防犯対策の心得

○ 犯罪のパターン  
を知る ○

○ 聖域を設け  
ない ○

○ 一人になら  
ない ○



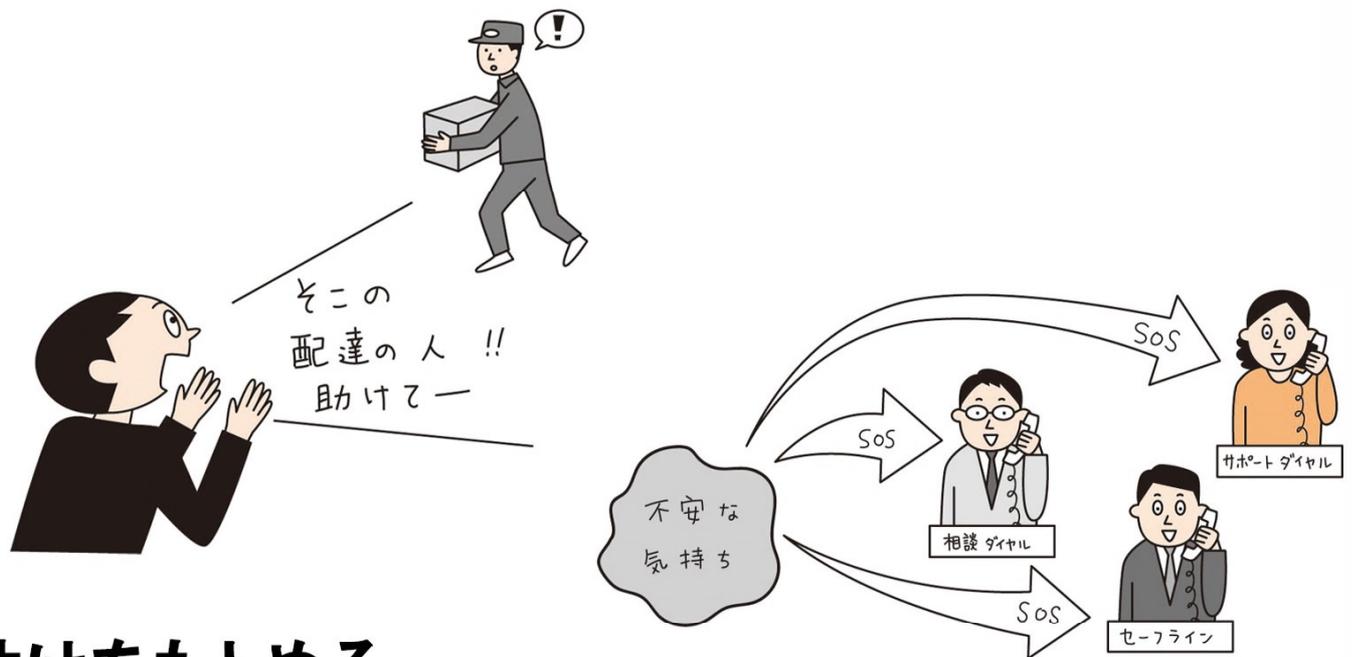
## 防犯ブザーの効果とは

- ① たすけて！をサポートしてくれる
- ② にげる！をサポートしてくれる

丈夫なものを選び、すぐに手が届くところに装着する

名前や住所、電話は記載しないこと！

# SOS・相談も護身術



助けをもとめる、

相談することは、カッコ悪いことではありません！

## インターネットでも防犯意識を！



被害者にも、加害者にもならないために。

# 犯罪をしない、巻き込まれない



## 広がる相談窓口

#9110 警察「相談ダイヤル」、少年相談窓口

#8103 警察「性犯罪被害相談電話」

#8891 性犯罪・性暴力ワンストップ支援センター

法務省「子どもの人権110番」(ネットトラブル)

法テラス「犯罪被害者支援ダイヤル」

法務局「女性の人権ホットライン」

(ストーカー、リベンジポルノ相談)

セーファーインターネット協会「セーフライン」

(リベンジポルノの画像削除への通報) など



# 警察への連絡方法

110（通報）



#9110（相談）

所轄の警察署（相談・連絡）

見守り・助け合いの雰囲気づくり

子どもたちへの防犯指導



未来への重要なメッセージ



暴力、差別、分断が生まれない

本当の意味で強くて安全な世の中へ

# 学生防犯ボランティア



ご参加ありがとうございました！



ご質問、ご相談など、

サイトよりお気軽にお問い合わせください